

International Forum for Sustainable Asia and the Pacific: ISAP 第6回持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム





2014 23・24 July PACIFICO YOKOHAMA パシフィコ横浜 [神奈川県横浜市]

# Bringing Regional Voices to the Post-2015 Development Agenda:

Solutions for a Low-carbon, Resilient and Inclusive Asia-Pacific

ポスト2015開発アジェンダにアジア太平洋の声を:低炭素、レジリエントで、包摂的な解決策



23 July [Wed] > 9:30-17:15 24 July [Thu] > 9:30-17:45

PACIFICO YOKOHAMA パシフィコ横浜(神奈川県横浜市みなとみらい地区)

Organisers Institute for Global Environmental Strategies (IGES)

United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

Collaborators United Nations Environment Programme (UNEP) / United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP) / Asian Development Bank (ADB) / Organisation for Economic Co-operation

and Development (OECD) / National Institute for Environmental Studies (NIES)

Supporters Ministry of the Environment, Japan / Kanagawa Prefectural Government / Hyogo Prefectural Government / City of Yokohama / Kawasaki City / City of Kitakyushu / Japan International Cooperation Agency (JICA) /

The Energy and Resources Institute (TERI) / Yokohama National University / Global Cooperation Institute for Sustainable Cities, Yokohama City University /

Graduate School of Media and Governance, Keio University / Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) /

Sustainability Science Consortium / Nikkei BP Cleantech Institute

主 催 公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)、国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)

協力 国連環境計画(UNEP)、国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)、アジア開発銀行(ADB)、 経済協力開発機構(OECD)、国立環境研究所(NIES)

援 環境省、神奈川県、兵庫県、横浜市、川崎市、北九州市、国際協力機構(JICA)、エネルギー資源研究所(TERI)、 横浜国立大学、横浜市立大学グローバル都市協力研究センター、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科、 人間文化研究機構総合地球環境学研究所、サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム、日経BPクリーンテック研究所

# 目 次 Contents

開催にあたり Welcome to ISAP2014	
スケジュール Schedule	1
セッションアウトライン Session Outlines	
日本語版 Japanese	3
英語版 English	8
スピーカー略歴 Speaker Profiles	13
協力団体一覧 Partners / 展示団体一覧 Exhibitions	63

# 開催にあたり Welcome to ISAP2014

「持続可能なアジア太平洋に関する国際フォーラム (ISAP)」は、国際的に活躍する専門家や企業、政府、自治体、国際機関、NGO関係者による参加の下、アジア太平洋地域の持続可能な開発に関する議論を行う年次フォーラムです。

アジア太平洋地域では、経済発展著しい国々からの温室効果ガス排出量が増加する一方、特に貧困地域が気候変動の影響を大きく受けており、緩和策のみならず、その影響への対策も急務となっています。また、都市化やライフスタイルの変化に伴う資源消費量の急増も大きな問題です。こうしたアジア太平洋地域が抱える課題に対応し、私たちが享受している社会基盤を次世代に引き継ぐためには、すべての人々が利益を共有できる低炭素型で包摂的な開発の推進が必要です。

2015年には、持続可能な開発目標 (SDGs) とポスト2015 開発アジェンダ、2020年以降の気候変動枠組みといった 持続可能な社会の実現に向けた国際的な取り決めが行われます。ISAP2014では、こうした国際的な議論に向けて、皆様との意見交換を通じてアジア太平洋地域からのメッセージを発信します。

The International Forum for Sustainable Asia and the Pacific (ISAP) is a forum held once a year with a timely theme, to promote diverse discussions on sustainable development in Asia and the Pacific with the participation of front-line experts and stakeholders from business, governments, international organisations and NGOs.

The Asia-Pacific has seen increased GHG emissions from major economies across the region, with socially marginalised populations being particularly affected by climate change. We must take action to mitigate the changes and also to cope with their impacts. The upsurge in resource consumption due to urbanisation and changes in lifestyles is another major challenge facing in this region. To deal with these challenges and to pass on various assets to the next generation, we need to shift from current development trends, and promote low-carbon and inclusive development in which people of all backgrounds are engaged in creating opportunities and sharing benefits.

ISAP2014 aims to deepen discussions among stakeholders, to convey a message from the Asia-Pacific region to regional and international processes and consultations on the global development framework.

# スケジュール Schedule

[1日目] 7月23日 (水)						
09:30 I 09:50	オープニングセッション					
09:50 I 12:20	全体会合 1 アジアの低炭素、レジリアントで包摂的な発展の推進:IPCC 第 5 次評価報告書を踏まえて P-1					
12:20	休憩					
12:35 I 13:45	ランチセッション1 IGES 日香 V からの主要メッセーン:					
13:45	休憩					
		パラレル・	セッション			
14:00 1 15:30	2050 低炭素ナビ: 低炭素社会へ向けた道筋	アジアでのレジリエント都市の構築:理論から実践へ	アジアにおける大気汚染・ 気候変動戦略への SLCPs および PM2.5 削減対策の 統合: 科学、モデル、 アクションの連携 PL-3	14:00 I 16:00	ステークホルダー コミュニケーションと 意思決定: 福島からの教訓と 地域復興への助言	
15:30	休憩					
15:45 I 17:15	2020年の国際気候変動 枠組みとアジアにおける 緩和策および測定・報告・ 検証 (MRV) 手法	IPCC 第5次評価報告書 (AR5) の主要なメッセージとアジアに 対する示唆	適応的発展への道筋: 持続可能なアジア太平洋の 実現のために		PL-4	
	PL-5	PL-6	PL-7			

	()	(.=0)			()		
[2日	目] 7月24日 (木)						
09:30 1 10:30	全体会合 2 持続可能な社会を創造するために: 持続可能な開発目標、持続可能なライフスタイル、幸福度(Well-being)						
10:30	休憩						
		パラレルセ	!ッション				
10:45 1 12:45	中小企業 (SMEs) の低炭素技術移転の ための資金調達:マッチメイキング戦略	生物多様性の持続可能な利用に			アジアにおける持続可能な開発目標 (SDGs)の実施:ガバナンスの役割と 共通理解に向けて		
	PL-8		(	PL-9			PL-10
12:45	休憩						
13:00	ランチセッション2 アジアの科学的低炭素発展政策形成を支える 統合的知識基盤システム 13:00			適応と災害リスク削減のシナジー: 関連する課題、優良事例と今後の展望			
14:20			L-2	14:30	< [	語:英語のみ> 📑	ラウンドテーブル
14:20	休憩						
		パラレルセ	!ッション				
14:35 I 16:35	アジアの都市の持続性を高めるために: 理論から実践へ 持続可能な開発に向けた ステークホルダーのエンパワメントと 革新の推進:地域事例からの学びと 今後の見通し PL-11		持続可能な開発目標としての教育の 向上:名古屋ESD世界会議に向けて 一持続可能なライフスタイル実現の ための意識変革型学習の推進				
16:35	休憩						
16:45 I 17:45	閉会セッション						CL

[ DAY 1] Wednesday, 23 July						
09:30 I 09:50	Opening Session OP					
09:50 1 12:20	Plenary Session 1 Accelerating Low Carbon, Resilient and Inclusive Development in the Region: Implications of the IPCC Fifth Assessment Report for Asia					
12:20	Break					
12:35 I 13:45	Lunch Session 1 Key Messages from IGES Writte Paper V:					
13:45	Break					
		Parallel	Session			
14:00 I 15:30	Launch of the Japan 2050 Low Carbon Navigator: Navigating toward Low Carbon Societies  Building Resilient Cities in Asia: From Theory to Practice		Bringing SLCPs and PM2.5 into Integrated Air Pollution and Climate Change Strategies in Asia: Linking Science, Models, and Action PL-3	14:00 I 16:00	Stakeholder Communication for Informed Decisions: Lessons from and for the Displaced	
15:30	Break			-	Communities of Fukushima	
15:45 I 17:15	International Climate Regime in 2020 and Initiatives in Asia: Mitigation Actions and a Measuring, Reporting and Verification (MRV) System PL-5	Key Messages from IPCC AR5 and Its Implications in Asia: Future Perspective of Climate Change Policies in Asia through Integration of Mitigation and Adaptation PL-6	Setting the Direction for Adaptive Development: The Urgent Need to Achieve a Sustainable Asia-Pacific		PL-4	

[DA	Y 2] Thursday, 24 July					
09:30 I	Plenary Session 2 Pursuing a Sustainable Society: Sustainable Development Goals (SDGs), Sustainable Lifestyles and Well-being					
10:30	Sustamable De	evelopilient doals (3DGs), Sust	alliable	Lifestyles and Well-being		
10:30	Break					
	Financing Low Carbon	Parallel Session  Benefits and Challenges of		Implementing the Sustainable		
10:45 I 12:45	Technology Transfer for Small-Medium-Enterprises (SMEs): A Match-making Strategy	Community Engagement for t Sustainable Use of Biodiversi Lessons from Participatory Landscape Management under	ty:	Development Goals (SDGs) in Asia: Toward a Common Language for Governance		
	PL-8	Satoyama Initiative	PL-9	PL-10		
12:45	Break					
13:00 I 14:20	Development Policymaking in Asia			Disaster Risk Reduction:		
14:20	Break					
		Parallel Session				
14:35 I 16:35	Making Cities More Sustainable in Asia: Bridging Theory and Practice	Empowering Stakeholders and Spearheading Innovation for Sustainable Development: Lessons from the Field and Fe Perspectives	Advancing Education as a Goal for Sustainable Development: On the Road to Nagoya – Moving towards Transformative Learning for Sustainable Lifestyles			
16:35	Break					
16:45 I 17:45	Closing Session			CL		

# セッションアウトライン

# 1日目 7月23日(水)

9:30-9:50 オープニングセッション

**●**オープニング

主催者挨拶 来賓挨拶

9:50-12:20 全体会合 1

## ●アジアの低炭素、レジリアントで包摂的な発展の推進:IPCC第5次評価報告書を踏まえて P-1

気候変動問題は現在と将来の双方の世代の社会に大きな脅威を与えており、緩和と適応に向けた行動が急務となっている。著しい経済発展と多くの人口を抱えるアジアは、2050年には世界の温室効果ガスの約半分を排出すると予測されており、この地域の発展パターンが将来の気候安定化の鍵を握っていると言える。本セッションでは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書の主要な結果から導かれる政策的な含意を踏まえ、持続可能な未来のためにアジアがどう貢献できるのかについて、世界で活躍する専門家を招いて議論する。

#### 12:35-13:45 ランチセッション1

# ● IGES白書 V からの主要メッセージ: いかにアジアの地域統合を人々と環境への便益につなげるか

L-1

OP

IGES 白書 V「Greening Integration in Asia: How Regional Integration Can Benefit People and the Environment」では、アジア太平洋地域の地域統合に向けた動きがどのようにグリーン経済と持続可能な開発の牽引力となり得るかについて、アジア太平洋地域の地域協力・統合に関するIGESの研究成果に基づき論じている。貿易と投資の自由化を通じた経済統合に焦点を置いた現在の地域統合プロセスに対し、本白書では「どのような地域統合のあり方が短期的・国益のみならず持続可能性の観点から利益をもたらすか」議論を促している。本セッションでは、アジアのグリーンな統合をどう実現していくのか、白書の著者からの主要メッセージを共有すると同時に議論を深めたい。

#### 14:00-15:30 パラレルセッション

#### ● 2050低炭素ナビ:低炭素社会へ向けた道筋

PL-1

英国エネルギー・気候変動省 (DECC) によって開発された長期低炭素社会シナリオの検討を行うための分析ツールの日本語版「2050低炭素ナビ (日本版 2050 パスウェイ・カリキュレーター)」を本セッションで正式公開する。「低炭素ナビ」のデモンストレーションの他、英国2050カリキュレーターからの教訓を紹介するとともに、パネルディスカッションでは、教育界、NGO、マスメディア、地方自治体等からパネリストを招き、2050低炭素ナビの利用結果や今後の活用方法について議論する。

(「2050低炭素ナビ」の情報はこちら→http://www.iges.or.jp/jp/press/20140512.html)

#### 14:00-15:30 パラレルセッション

# ● アジアでのレジリエント都市の構築:理論から実践へ

PL-2

昨今、気候変動に伴う風水害が各地で頻発し、東日本大震災のような大規模な自然災害等も発生しており、これらの外部リスクを低減し、災害に強いレジリエントなまちづくりを目指す自治体が増えてきている。さらに、災害時で

も社会経済システムを支える都市機能を維持するため、防災・減災の取り組みだけでなく、都市のエネルギー自治や都市構造の変革等についても着目されるようになってきた。IGESは、名古屋大学、法政大学、大阪大学との協力の下このような研究を進めており、本セッションでは自治体レベルのレジリエント都市構築に向けた国内外の取り組みを取り上げ、これらをどう評価・推進し、都市計画の中心に据えていくべきかを議論する。

#### 14:00-15:30 パラレルセッション

# ●アジアにおける大気汚染・気候変動戦略へのSLCPsおよびPM2.5削減対策の統合: 科学、モデル、アクションの連携

PL-3

短寿命気候汚染物質(SLCPs)削減のための「気候と大気浄化のコアリション(CCAC)」による国際的な取り組みが進められている。世界最大のSLCPs排出地域であるアジアで、その削減促進を政策に反映させるためには、研究を通じてPM2.5とSLCPsの関係性、SLCPs対策の費用と効果、必要とされる政策や制度上の対応等を明らかにする必要がある。これらが明らかになれば、国レベルのみならず、アジア太平洋地域の大気環境に関する合同フォーラムやUNFCCC交渉等の国際的・地域的な政策決定過程に対し影響を与える可能性がある。本セッションは、SLCPsを含む大気汚染物質の様々な影響、主要なSLCPs削減対策技術の費用と効果、それらの対策技術を促進させるための政策策定過程について議論する。

## 14:00-16:00 パラレルセッション

IGES/UNU-IAS 共同セッション

# ●ステークホルダーコミュニケーションと意思決定:福島からの教訓と地域復興への助言 PL-4

東日本大震災から3年経過したが、福島第一原発事故により避難を強いられている自治体とその住民にとって復興への道のりは依然として過酷である。復興政策の多くは、除染によって線量が低下すれば住民が帰還するという仮定に基づいてきたが、避難生活の長期化により帰還する意思が薄れているのが現状である。政策立案者、専門家、被災地域の間での的確なステークホルダーコミュニケーションにより、被災した人々が十分な情報を得た上で帰還するか移住するかを決断できると同時に、その選択を尊重する政策決定を支援する枠組みが求められている。本セッションでは、福島からの教訓と関連のある国際的な知見を通して、災害によって避難を強いられたコミュニティの今後についての意思決定を促進できるステークホルダーコミュニケーションのあり方と複合災害からの復興プロセスにおける政策決定の課題に焦点を当てる。

#### 15:45-17:15 パラレルセッション

IGES/NIES共同セッション

# ● 2020年の国際気候変動枠組みとアジアにおける緩和策および 測定・報告・検証(MRV)手法

PL-5

本セッションでは、UNFCCCにおける国際枠組みと各国の取り組みに関する議論の紹介を行う。途上国の緩和行動における測定・報告・検証(MRV)の方法論の開発に関する知見とともに、インドネシアにおける調査の経過を紹介する。また、インドネシア現地における取り組み状況の報告を行うほか、途上国におけるMRV体制強化と今後の課題について議論・検討する。

#### 15:45-17:15 パラレルセッション

● IPCC 第5次評価報告書 (AR5) の主要なメッセージとアジアに対する示唆: 適応と緩和の統合を通じたアジアにおける将来的な気候変動政策のあり方 環境省主催 PL-6

IPCC第38回総会(2014年3月25~29日)での第2作業部会(WGII)報告書公表及び第39回総会での第3作業部会(WGIII)報告書公表を踏まえ、国内での気候変動への取り組みを更に推進することを目的に本セッションを開催する。第1部では、報告書の内容を振り返りながら、気候変動に関する適応・緩和に関する最新の科学的な知見について

アジアに焦点を当てた講演を行う。第2部では、気候変動リスクの受け取り方、適応・緩和策の統合やその将来的な課題について意見を交換し、国内外における将来的な気候変動対策に関する議論を深める。

#### 15:45-17:15 パラレルセッション

IGES/慶應義塾大学/TERI大学共同セッション

#### ● 適応的発展への道筋:持続可能なアジア太平洋の実現のために

PL-7

適応的発展(Adaptive Development)は、アジア太平洋地域でのニーズと課題を踏まえ、持続可能な開発、気候変動への適応及びリスクガバナンスのコンセプトを、持続可能なアジア太平洋の実現におけるパラダイムに結び付けようとするもので、アジア及び世界中の人々の幸福な未来を実現する上で重要な考え方である。本セッションでは、適応的発展の重要性について取り上げ、効果的な行動の道筋を示すための構成を検討するとともに、適応的発展の実現に向けた新たな知見と解決策を生み出すための取り組みを紹介する。適応的発展における喫緊の課題解決および実用的知識の創造に向けて学際的研究コミュニティを動かす手段の特定を目指す。

# 2日目 7月24日(木)

# 9:30-10:30 全体会合2

# ● 持続可能な社会を創造するために: 持続可能な開発目標、持続可能なライフスタイル、幸福度(Well-being)

P-2

本セッションは、ISAP2014で展開される持続可能で包摂的な発展に関する議論全般に関わる話題提供を行う。2015年以降の国際的な開発目標となる「持続可能な開発目標(SDGs)」に関する国際的な議論の動向に加え、アジア地域における持続可能な社会構築の鍵となる持続可能な消費と生産、持続可能なライフスタイル、幸福度(Well-being)といったキーワードを基に議論を展開する。

#### 10:45-12:45 パラレルセッション

#### ●中小企業 (SMEs) の低炭素技術移転のための資金調達:マッチメイキング戦略

PL-8

本セッションでは、途上国の中小企業に向けた技術移転の課題や成功要因を取り上げる。中小企業は、低炭素技術導入の余地が非常に大きいにもかかわらず、その低炭素技術移転が気候変動問題の解決に果たす役割や具体的なメカニズムについては、これまでにあまり議論が行われていない。また、関係者間をつなぐマッチメイキング戦略の欠如が、技術移転に必要な資金調達を阻害する要因となっている。一方で、UNFCCCの下で気候技術ネットワークセンター(CTCN)が途上国への技術移転促進を目的に設立され、日本政府が低炭素技術移転を通じて削減クレジットを得る二国間クレジット制度(JCM)を実施するなど、国際的な動きが活発化している。本セッションでは、発展途上国の中小企業における資金調達や技術移転を可能にするマッチメイキング・プラットフォームの構築について、企業や政府、専門家を交えて議論する。

# 10:45-12:45 パラレルセッション

IGES/UNU-IAS 共同セッション

# ●生物多様性の持続可能な利用に向けたコミュニティー参画: SATOYAMAイニシアティブの貢献の可能性と課題

PL-9

違法伐採、密猟、過剰放牧、乱獲など生態系の劣化が世界中から報告されている。これらの一因に資源の利用や管理を決定する過程にコミュニティーの参加がないことがあげられる。このような背景の下、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) は、生産ランドスケープやシースケープにおける生物多様性の維持に向け、参加型の管理に関する優良な取り組みを促進してきた。IPSIメンバーの活動には、コミュニティー参画により地域レベ

ルのガバナンスの改善、新たな生業の確立、持続可能な生産手法を推進する事例が多くみられる。本セッションは、これらSATOYAMAイニシアティブの下で蓄積された経験から、参加型生態系利用に関する利点や課題を探ることを目指す。

セッションでは、まず、これまでのSATOYAMAイニシアティブを概観しながら、持続可能な生産と消費をつなぐあたらしい形の地域に根ざしたマーケティングの例を紹介する。続いて、アジア地域におけるIPSIパートナーからの事例紹介とともに、それらを総括する形でパネルディスカッションを行い、生物多様性の持続可能な利用に向けたコミュニティー参画の可能性と課題を明らかにする。

# 10:45-12:45 パラレルセッション

# ●アジアにおける持続可能な開発目標(SDGs)の実施: ガバナンスの役割と共通理解に向けて

PL-10

2012年のリオ+20会議に引き続き、2015年以降の開発アジェンダに関する政府間交渉が開始される。この成果として期待されるのが、持続可能な社会への変革を促す「持続可能な開発目標(SDGs)」である。SDGsの策定は持続可能な開発に関わる新たな政策や優先課題の認知度を高める良い機会であるが、実際に我々の社会や地球環境改善に貢献するためには効果的な「ガバナンス」が不可欠である。しかしながら、SDGs達成のための「ガバナンス」の定義について、多くの機関が法の支配(rule of law)や汚職防止等の広義な原則をはじめとする「良い統治(good governance)」を重要視する一方、ステークホルダーの参加やモニタリング強化等の実践的な要素に焦点を当てる実務者も多い。本セッションでは、政策立案者、専門家、アジアで活動する実務者等を交えて、ガバナンスの定義の違いを明らかにするとともに、SDGsのガバナンスに関する共通理解を図るための議論を展開する。

# 13:00-14:20 ランチセッション2

#### ●アジアの科学的低炭素発展政策形成を支える統合的知識基盤システム

L-2

本セッションは、アジア地域で起こっている低炭素発展に向けた動きー諸国・諸機関が協力して、科学的低炭素発展政策形成のための知識創造・教育・伝達の一連のシステムを効果的に築き上げ、そこからCOP21に向けた発信を行おうとしているーことを紹介する。UNFCCCのもとで、2020年からの、すべての国によるGHG削減に向けた取組みについては、2015年に定めることとされている。成り行きシナリオでは2050年に世界排出の半分を占めるアジア各国が、発展に関わる政策の中に科学的低炭素化施策をどう組み入れるかが気候安定化の鍵を握る。各国がオーナーシップによる、政策形成への関与を目指した研究コミュニティの強化と、研究・政策連携がアジアで効果的に進み始めている。本セッションでは、排出削減の野心向上を目指すCOP21・Workstream2に向けてアジアの成果を発信するとともに、世界で同様の活動を構築することを提案する。

# **13:00-14:30** <言語: 英語のみ>

# ● 適応と災害リスク削減のシナジー:関連する課題、優良事例と今後の展望

ラウンドテーブル

災害リスク削減と気候変動への適応のシナジー(相乗効果)について、研究者や実務者の間でコンセンサスが高まっている。IGESでは、この両者のシナジーの実際の活用について研究を開始している。本ラウンドテーブルでは、シナジーに関する概念理解や災害リスク削減と適応の相違点について意見交換を行い、シナジーのこれまでの活用事例を評価するほか、問題点や展望について議論し、今後の研究課題を明らかにする。

#### 14:35-16:35 パラレルセッション

## ●アジアの都市の持続性を高めるために:理論から実践へ

PL-11

近年、アジアでは急速に都市化が進展し、国の経済成長を支えている。一方、それは大量のエネルギー・資源消費に支えられ、それに伴う廃棄物、排水、大気汚染、温暖化ガスの排出等の環境問題を引き起こしている。本セッションでは、このような課題に対し都市がどのような役割を果たすべきかを、都市の持続性について研究しているOECDとドイツ・ヴッパータール気候・環境・エネルギー研究所を交え議論する。パネリストの日本の自治体には、これまでの高度成長期を経て都市がどのように発展してきたか、またその教訓を成長中のアジアの都市にどのように伝えられるかを投げかけ、それに関連し、日本政府の進める二国間クレジット制度(JCM)をどのように活用できるかを議論する。

#### 14:35-16:35

#### パラレルセッション

IGES/UNEP-ROAP 共同セッション

# ● 持続可能な開発に向けたステークホルダーのエンパワメントと革新の推進: 地域事例からの学びと今後の見通し

PL-12

持続可能なコミュニティを築いていくためには、そこに住む人々が変化や革新を起こすことが重要である。国連環境計画アジア太平洋地域事務所(UNEP-ROAP)が管理している「アジア太平洋環境開発フォーラム(APFED)」ショーケースプログラムでは、58のフィールドプロジェクトが選ばれ、持続可能な開発のための多角的な革新の推進に貢献してきた。本セッションでは、APFEDショーケースプロジェクトの成功事例を紹介するとともに、これらの成果をどう広げていくかという知見を共有することを狙いとしている。また、さらなる連携のためのパートナーシップの構築やポスト2015年開発アジェンダにボトムアップのインプットを提供することを目的とする。

#### 14:35-16:35 パラレルセッション

IGES/UNU-IAS 共同セッション

# ● 持続可能な開発目標としての教育の向上:名古屋ESD世界会議に向けて — 持続可能なライフスタイル実現のための意識変革型学習の推進

PL-13

本セッションは、2014年11月に名古屋で開催される「持続可能な開発のための教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」に向け、教育向上に関するロードマップを示すことを目的とする。教育の向上は、持続可能な開発の鍵となる。ESDの専門家とともに、教育の改善や持続可能なライフスタイルを実現できる環境整備を通じて、学びのスタイルをどのように変え、持続可能な社会への変革を促せるのかを検討する。さらに、ESDに関するグローバル・アクション・プログラムの枠組み作りに向け、教育の質を高めるための要素を統合していく方策、ESDによる学習パフォーマンス、グローバル・シチズンシップ、平和教育の最善の統合のための課題についても言及する。パネルディスカッションでは、このプログラムが持続可能な開発目標やポスト2015 開発アジェンダにどう貢献していけるかについて議論を深める。

#### 16:45-17:45

#### 閉会セッション

### ● 閉会

CL

# Session Outlines

# DAY 1: Wednesday, 23 July

9:30-9:50

**Opening Session** 

Opening

OP

**Welcome Remarks Guest Remarks** 

9:50-12:20

**Plenary Session 1** 

# Accelerating Low Carbon, Resilient and Inclusive Development in the Region: Implications of the IPCC Fifth Assessment Report for Asia

P-1

Climate change is posing substantial threats to both present and future generations, and action must be taken not only to mitigate but also to adapt to its impacts. With its significant economic expansion and huge population, Asia has seen an increase in greenhouse gas (GHG) emissions. If carbon intensive development pattern continues, Asia will account for about 50% of global GHG emissions by 2050. In that sense, there has been growing importance in lowcarbon development in Asia. Leading experts on climate change and sustainable development have been invited to this session to discuss how Asia can lead the world into a sustainable future, fully taking into consideration of implications of the Fifth Assessment Report of IPCC.

#### 12:35-13:45

**Lunch Session 1** 

# • Key Messages from IGES White Paper V: How Regional Integration in Asia Can Benefit People and the Environment

The Fifth IGES White Paper (WP V), entitled "Greening Integration in Asia: How Regional Integration Can Benefit People and the Environment", discusses how regional integration efforts in Asia and the Pacific could be a driver for green economy and sustainable development. The current regional integration processes in the region are focusing on economic integration through trade and investment liberalisation. WP V tries to invite an active discussion on what kind of regional integration amongst Asian nations would be beneficial, not only in the short term and from the narrow viewpoint of national interests, but from a wider sustainability perspective. The publication is based on the results of a number of IGES studies related with regional cooperation and integration in Asia and the Pacific. In this session selected chapter authors will share their key messages and discuss with the audience how greening integration in Asia can be realised.

#### 14:00-15:30

**Parallel Session** 

# **○** Launch of the Japan 2050 Low Carbon Navigator: Navigating toward Low Carbon Societies

PL-1

This is the launch session of the Japan 2050 Low Carbon Navigator (a Japanese version of the UK 2050 Pathways Calculator), jointly developed by IGES and the National Institute for Environmental Studies (NIES). The session will not only introduce the Japan 2050 Low Carbon Navigator, but will also share lessons learnt from the UK 2050 Pathways Calculator. In the panel discussion, speakers from different areas such as education, NGOs, mass media and local government will discuss ways in which the 2050 Low Carbon Navigator can be used and convey their expectations for this tool. See more on the 2050 Low Carbon Navigator at IGES web-site (http://www.iges.or.jp/en/greeneconomy/20140502.html).

#### 14:00-15:30 Parallel Session

# Building Resilient Cities in Asia: From Theory to Practice

PL-2

In response to the recent increase in wind and flood damages caused by climate change and large-scale natural disasters like the Great East Japan Earthquake, cities are aiming to develop resilience to cope with such external risks. Furthermore, to maintain city functions supporting social and economic systems even during a disaster, cities have started focusing not only on disaster risk reduction and mitigation, but also on measures to maintain an energy supply and ways to transition urban structure. IGES is carrying out joint research on these new subjects with the Universities of Nagoya, Hosei and Osaka, and this session introduces the activities and plans of selected cities in Japan and overseas. It will feature discussions on how efforts could be evaluated, promoted and mainstreamed into city development plans.

#### 14:00-15:30

#### **Parallel Session**

# Bringing SLCPs and PM2.5 into Integrated Air Pollution and Climate Change Strategies in Asia: Linking Science, Models and Action

PI -3

The formation of the Climate and Clean Air Coalition (CCAC) has focused growing attention on mitigating species of air pollutants that contribute to climate change known as short-lived climate pollutants (SLCPs). This session addresses three questions: what is the relationship between SLCPs and other atmospheric pollutants such as PM2.5; what are the benefits and costs of key SLCPs control options; and what policy frameworks and institutional arrangements are needed to promote SLCPs control options. Addressing these questions will have important implications for national and subnational policies in Asia, as well as other international and regional policymaking processes. With a view to generating value added inputs into these processes, this session has three objectives: to familiarise the audience with the varying impacts of atmospheric pollutants; to demonstrate the costs and benefits of key SLCPs control technologies; and to provide an overview of how policy-making processes are aiming to promote those technologies.

#### 14:00-16:00

#### **Parallel Session**

IGES/UNU-IAS Collaborative Session

# Stakeholder Communication for Informed Decisions: Lessons from and for the Displaced Communities of Fukushima



Three years on from the Great East Japan Earthquake, the recovery for the communities displaced by the nuclear accident at Fukushima Daiichi NPP still represents a daunting process. Many of the policies addressing recovery of these communities have been based on the assumption that evacuees will return once decontamination operations have decreased the radiation levels. In practice, the intentions to return are fading out as the evacuation gets protracted. This situation calls for stakeholder communication between policy-makers, experts and the affected communities enabling informed decisions regarding return or relocation and supporting informed policies that respects people's choices. This session will focus on the issue of stakeholder communication to facilitate informed decision-making and informed policy-making in the process of recovery from complex disasters, to bring forward lessons from Fukushima and international experience relevant for its recovery.

#### 15:45-17:15 Parallel Session

IGES/NIES Collaborative Session

# ● International Climate Regime in 2020 and Initiatives in Asia: Mitigation Actions and a Measuring, Reporting and Verification (MRV) System

PL-5

This session starts with a framing presentation on the current status of international climate change negotiations and a discussion on mitigation actions in developing countries. Following this, there will be a presentation to introduce Indonesia's mitigation actions at the national and sub-national levels, as well as a presentation on a new research initiative on MRV in Indonesia. After these presentations, a panel discussion will be held to discuss: 1) What the impacts are of the evolving international climate regime on developing countries' mitigation actions at the national and the subnational level; 2) How national and local mitigation initiatives can be enhanced through international climate regime; and, 3) What the challenges and the way forward are for developing countries to enhance their mitigation action in a measurable, reportable and verifiable manner.

# 15:45-17:15 Parallel Session

# Key Messages from IPCC AR5 and Its Implications in Asia: Future Perspective of Climate Change Policies in Asia through Integration of Mitigation and Adaptation

PL-6

The session will present the latest scientific findings and issues on climate change, looking at both adaptation and mitigation, based on the IPCC 5th Assessment Report (AR5) published in 2014. Discussions will address the integration of mitigation and adaptation policies/efforts. It is hoped that a good understanding will emerge on ways to integrate both policies and issues. The session will start with a key note presentation on the findings from IPCC WGII and WGIII AR5 with perspective on Asia. Panelists will then discuss how to perceive climate risks, issues and measures related to integration of mitigation and adaptation.

#### 15:45-17:15

**Parallel Session** 

IGES/Keio Univ./TERI Univ. Collaborative Session

# Setting the Direction for Adaptive Development: The Urgent Need to Achieve a Sustainable Asia-Pacific

PL-7

Adaptive development aims to link the concepts of sustainable development, climate change adaptation, and risk governance into one paradigm for achieving a sustainable Asia-Pacific in light of the emerging needs and challenges in the region. This is a critical endeavour for the future well-being of people in the region and throughout the world. During this session, presenters will address the importance of adaptive development and consider how it can be best framed to provide an effective course of action. Additionally, presentations will detail important practices currently being conducted to generate new knowledge and solutions for achieving adaptive development. This session aims to identify how academic and research communities can be mobilised to produce pragmatic knowledge to address these emerging issues for adaptive development.

# DAY 2: Thursday, 24 July

9:30-10:30

**Plenary Session 2** 

# Pursuing a Sustainable Society: Sustainable Development Goals (SDGs), Sustainable Lifestyles and Well-being

P-2

The aim of this session is to frame overall discussions on sustainable and inclusive development in the region at ISAP sessions. Current international discussion on Sustainable Development Goals (SDGs) will be introduced. The session will also feature discussions on key topics that will lead Asia into sustainable development such as sustainable consumption and production, sustainable lifestyle and well-being.

#### 10:45-12:45 Parallel Session

# Financing Low Carbon Technology Transfer for Small-Medium-Enterprises (SMEs): A Match-making Strategy

PL-8

This session addresses the question of barriers and success factors in low-carbon technology transfer for small and medium enterprises (SMEs) in developing countries. SMEs possess major potential for low-carbon technologies transfer. However, the use of specific mechanisms have not received enough attention in climate discussions, and the lack of a match-making strategy among stakeholders forms a major barrier to the enhancement of financing technology transfer. Under the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC), the Climate Technology Centre Network (CTCN) was established to promote technology transfer for developing countries, and the government of Japan is implementing the Joint Crediting Mechanism (JCM), which promotes low-carbon technology transfer through the exchange of emission reduction credits. This session will feature discussions among the private sector and government, on the subject of how to create an effective match-making platform to enable conditions for financing technology transfer for SMEs in developing countries.

#### 10:45-12:45

#### **Parallel Session**

IGES/UNU-IAS Collaborative Session

# Benefits and Challenges of Community Engagement for the Sustainable Use of Biodiversity: Lessons from Participatory Landscape Management under the Satoyama Initiative

PL-9

The exclusion of ecosystem-dependent communities from the management and use of local resources has been one of the drivers of ecosystem degradation around the world, causing illegal logging, poaching, overgrazing, overfishing, etc. In this context, the International Partnership for the Satoyama Initiative (IPSI) has been striving to overcome the loss of biodiversity in production landscapes and seascapes by promoting good practices for participatory planning and management. Many cases of community engagement have been identified among the IPSI member organizations, aiming to improve governance, to secure alternative livelihoods, and to ensure environmentally sustainable ways of production at the local level. This session will aim to showcase some of the opportunities and challenges of participatory ecosystem use, based on the experiences accumulated under the Satoyama Initiative.

The session will first provide an overview of the Satoyama Initiative, and introduce an example of an innovative, locally-rooted form of marketing, which can act as a bridge between sustainable production and consumption. This will be followed by case study presentations by IPSI partners, as well as a panel discussion on the possibilities and challenges of community engagement for the sustainable use of biodiversity.

#### 10:45-12:45

#### **Parallel Session**

# ▶ Implementing the Sustainable Development Goals (SDGs) in Asia: Toward a Common Language for Governance

PL-10

In the wake of the 2012 Rio+20 conference, governments will soon begin to negotiate the post-2015 development agenda. The outcomes of those negotiations will likely yield a set transformational sustainable development goals (SDGs). The SDGs will help raise the profile of several new policies priorities, but the degree to which they improve the health of people and the planet will depend upon an often overlooked factor: governance. Many organisations underline that "good governance" will be essential to achieving the SDGs; however, operationalising the term remains difficult.

Some organisations stress broad principles (such as rule of law or control of corruption) while others highlight narrow practices (such as engaging stakeholders or monitoring progress). This session will bring together policy-makers, experts and practitioners from Asia to outline these differences and work towards a common language for governance of the SDGs.

#### 13:00-14:20

#### **Lunch Session 2**

# Promoting an Integrated Knowledge-Base System for Scientific Low Carbon Development Policymaking in Asia

L-2

This session aims to show the audience and the world that countries and organisations in Asia have cooperated to form an effective sequential system of knowledge creation, education and capacity development, knowledge sharing, and dissemination for science-based low-carbon development policy-making, and based on this, they will send out various messages in the run up to COP21.

The UN Framework Convention on Climate Change (UNFCCC) will adopt a universal climate agreement for all nations to reduce GHG emissions, which will come into effect from 2020. Countries in Asia hold the key to climate stabilisation in terms of whether they can introduce science-based low-carbon policies into their development policies, as it is predicted that, in a BAU scenario, GHG emissions from Asia will account for 50% of the global total. Recently, we have seen a positive change in Asia – research communities in Asia are being strengthened, and linkage between research and policies is being promoted in a more effective manner, ensuring full ownership. In this session, we would like to propose facilitating the same activities worldwide, by introducing contributions made by research communities in Asia, ahead of Workstream 2 for COP21, which aims to increase ambitions to cut GHG emissions.

#### 13:00-14:30

# Roundtable on Harnessing Synergies between Adaptation and Disaster Risk Reduction: Pertinent Issues, Success Cases and the Way Forward <Roundtable>

There has been a growing consensus among scholars and practitioners on the synergies between disaster risk reduction and climate change adaptation. IGES has embarked upon scoping research on how to best operationalise this synergy in actual practice on the ground. To feed into the IGES research, participants will discuss the current conceptual understanding on synergies and the differences between disaster risk reduction and climate change adaptation. They will also evaluate the current experiences of operationalising these synergies between DRR and CCA in actual implementation, discuss existing bottlenecks and the way forward for harnessing the synergies between CCA and DRR, as well as identifying crucial research questions to be addressed in this field.

#### 14:35-16:35

#### **Parallel Session**

# • Making Cities More Sustainable in Asia: Bridging Theory and Practice

PL-11

Currently, Asian cities are rapidly urbanising and functioning as the engines of national economic growth. On the other hand, this growth is supported by the huge consumption of energy and resources which is causing environmental challenges including management of solid waste, wastewater, air pollution and greenhouse gases. This session discusses how city governments can address these challenges. The session will invite resource persons from OECD and the Wuppertal Institute as well as panellists from Japanese local governments to share insights into balancing economic growth and environmental management. Participants will also discuss how the Joint Crediting Mechanism (JCM) can help balance economic and environmental priorities.

#### 14:35-16:35

#### **Parallel Session**

IGES/UNEP-ROAP Collaborative Session

# Empowering Stakeholders and Spearheading Innovation for Sustainable Development: Lessons from the Field and Future Perspectives

PL-12

It is people who catalyse changes and innovation for building a sustainable community. Under the Asia Pacific Forum for Environment and Development (APFED) Showcase Program managed by the United Nations Environment Programme – Regional Office for Asia and the Pacific, 58 field projects have been supported to promote multifaceted innovation for sustainable development. The multi-stakeholder dialogue at ISAP2014 is aimed at demonstrating best practices from project case studies and sharing insights on how to scale up such achievements, forge a platform for further partnerships and provide bottom-up inputs for the post-2015 Sustainable Development Agenda.

#### 14:35-16:35

#### **Parallel Session**

IGES/UNU-IAS Collaborative Session

# Advancing Education as a Goal for Sustainable Development: On the Road to Nagoya – Moving towards Transformative Learning for Sustainable Lifestyles

PL-13

On the road to Nagoya, where the UNESCO World Conference on Education for Sustainable Development (ESD) will be held in November 2014, this session aims at providing a road map for advancing education as a key mechanism in achieving sustainable development. Bringing together ESD experts, the session will address how transformative learning, social change and transitions to sustainability can be supported through improved educational approaches and the creation of enabling environments for sustainable lifestyles. Additionally, questions on how to best integrate aspects of quality education, ESD learning performance, and global citizenship and peace education into the framing of the Global Action Programme on ESD will be explored by session speakers. The panel discussion will address how this programme can meaningfully contribute to the sustainable development goals and the post-2015 development agenda.

# 16:45-17:45

#### **Closing Session**

#### Closing

CL

# スピーカー略歴 Speaker Profiles

(アルファベット順 / in alphabetical order



**Hajime Akimoto** 秋元 肇 Director General, Asia Center for Air Pollution Research (ACAP) アジア大気汚染研究センター (ACAP) 所長

Dr. Hajime Akimoto has been conducting modeling and field observation research on atmospheric chemistry, particularly on the formation of photochemical oxidants; long-range transport of ozone and other air pollutants; and co-benefits from short-lived climate pollutants (SLCPs) in Asia. After working for the National Institute for Environmental Studies (NIES) in Tsukuba, the University of Tokyo, and the Frontier Research Center for Global Change in Yokohama, he moved to his current position as the Director General of Asia Center for Air Pollution Research (ACAP) in Niigata in 2009.

専門分野は大気化学で、特に光化学オキシダントの生成機構、オゾンやその他の大気汚染物質の長距離輸送、アジアにおけるSLCPコベネフィット・アプローチなどを、数値モデル実験や野外観測をベースに研究。国立環境研究所、東京大学、横浜の地球環境フロンティア研究センターなどで研究を続けた後、この5年間は新潟のアジア大気汚染研究センター所長として勤務。



A.M. Monsurul Alam A·M·モンスルール・アラン

Joint Secretary and Director, Department of Environment, Government of Bangladesh バングラデシュ環境・森林省環境局課長 (Joint Secretary)

Mr. A.M. Monsurul Alam did his M. Sc degree in Chemistry from the University of Chittagong, Bangladesh and M.S. degree in Human Ecology from Vrije University Brussels, Belgium.

He joined in Bangladesh Civil Service in 1989 and served in different Ministries and Department such as Ministry of Public Administration, Industry, Roads and Railway division, Fisheries and Livestocks and Environment & Forests.

He joined in the Department of Environment (DOE) in 2011 as Director. In DOE he is responsible for Administration and Human Resource Development and Climate Change. He is the Focal Point for Climate Change Cell of DOE, Focal Point for DNA of Clean Development Mechanism (CDM) and member secretary to national CDM committee. He is also Project Director of Programmatic CDM Project on composting from municipal organic waste of municipalities/City Corporation of 64 districts in Bangladesh.

He is in charge of BOCM secretariat in DOE. He is representing Bangladesh in Adaptation fund Board of UNFCCC as alternate member on behalf of Asia. He Joined in COP17, COP18 and COP19 meetings of UNFCCC as member of Bangladesh delegation. He was involved in Rio+20 negotiation process in New York and Rio on behalf of Bangladesh.

バングラデシュ・チッタゴン大学にて化学の修士号、ベルギー・ブリュッセル大学にて人類生態学の修士号を取得。1989年よりバングラデシュ政府にて行政官として、公共行政省、工業・道路・鉄道局、漁業・畜産省、環境森林省等で勤務し、2011年より現職。環境局では、総務人材開発課及び気候変動課を担当。Climate Change Cellプロジェクト及びCDM国家指定組織(DNA)のフォーカルポイント、バングラデシュCDM委員会に書記官として従事。その他、バングラデシュの64県の地方自治体より廃棄される有機性廃棄物の堆肥化に関するPoACDMプロジェクトのプロジェクトディレクターを務める。また、環境局において二国間クレジット制度(BOCM)を担当。国連気候変動枠組条約(UNFCCC)における適応基金理事会には、アジア地域の代理理事として出席している。さらに、COP17、COP18及びCOP19、Rio+20において、バングラデシュ政府代表団として参加し、交渉を担当。



Ella Antonio エラ・アントニオ President, Earth Council Asia-Pacific, INC. アースカウンシル・アジア太平洋所長

Ella S. Antonio is the President of Brain Trust, Inc., a private think tank that undertakes work for government, development institutions, and private business. She has long been involved in NGO work as President of Earth Council Asia-Pacific, Vice President of EARTH Institute Asia, and Founding Trustee of pagbabago@pilipinas. She had an extensive career in the public service as an officer of the Socio-Economic Planning Ministry of the Philippines.

Her Metallurgical Engineering background was complemented by advanced studies in Development Economics and Industrial Engineering Management, and training scholarships in industrial planning, mineral economics, social and economic development policy, natural resources management, financial analysis and programming, disaster management, and futures assessment in local and international institutions such as the International Monetary Fund, East West Center, International Development Center of Japan, and Asian Institute of Management.

ブレイン・トラスト社代表取締役。同社は、政府、世界銀行等の開発機関、及び、民間の事業を請負う。また、アー スカウンシル・アジア太平洋所長、アジア地球研究所副所長、及び、pagbabago@pilipinas(フィリピン社会文化 運動)の創設議員も務め、NGO活動に長く携わる。これまで、フィリピン社会経済計画庁にて公益事業に従事し、 豊富な実務経験を持つ。開発経済学と経営工学の高等研究を通して、また、産業計画、鉱物経済学、社会経済発 展政策、天然資源管理、財務分析とプログラミング、災害管理、地方及び国際機関(国際通貨基金、東西センター、 日本国際開発センター及びアジア経営大学院等)の将来評価に加え、金属工学の知見と経験を持つ。



# Shuichi Ashina 声名 秀—

Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員

Shuichi Ashina is a researcher of Sustainable Social Systems Section, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies, from the year 2009. His research focuses on the field of Energy-Economy-Environmental system modeling and its application to Low-Carbon Societies and scenario development both in Japan and Asia. He is involved in research project on city-scale low carbon society scenarios for Iskandar Malaysia and contributes to the project through designing low carbon energy system with renewables. He also works on developing decision assistance system for designing and implementing LCS scenarios. He received his B.S., M.S. and Ph.D. degrees in mechanical and system engineering from Tohoku University.

2006年東北大学工学研究科修了、博士(工学)。2006年より国立環境研究所にて勤務し、2009年より現職。専門は 機械・システム工学であり、特に技術モデルを用いた定量的な分析研究と、分析結果を用いた日本およびアジアに おける低炭素社会およびその実現のための道筋検討研究に取り組んでいる。また、都市スケールでの低炭素社会 シナリオ構築および実装に向けて、マレーシア・イスカンダール地域を対象に再生可能エネルギーを活用した低炭 素型エネルギーシステム設計と実現方策の研究を実施している。また、研究成果の社会実装の一環として、Webを 活用した低炭素社会シナリオ設計ツールの開発へも参画している。



**Abel Barasa Atiti** アベル・バラサ・アティティ Research Fellow, United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) リサーチフェロー

Abel joined UNU-IAS as a Research Fellow of Education for Sustainable Development (ESD) in February 2011. Prior to joining UNU-IAS, Abel was the Head of Planning, Monitoring and Evaluation at the National Museums of Kenya (NMK). He also worked as a Quality Assurance Officer, Senior Curator and Education Officer at NMK. At UNU-IAS, Abel fosters global learning spaces for ESD through networking, capacity development and policy-oriented research processes. He is involved in the expansion and strengthening of the global network on Regional Centres of Expertise (RCEs) on ESD with a particular emphasis on Africa. He also teaches ESD on the UNU-IAS Master of Science in Environmental Governance (Specialization in Biodiversity) Course. Abel holds a PhD in Environmental Studies from Macquarie University, Sydney, Australia. His research interests include capacity development, networked governance and transformative learning.

2011年2月、持続可能な開発のための教育(ESD)のリサーチフェローとしてUNU-IAS入所。UNU-IAS入所前は、ケニア国立博物館(NMK)にて計画・監視・評価の統括のほか、品質保証オフィサー及びシニア学芸教育オフィサーを務める。UNU-IASでは、ネットワーキング、能力開発、政策志向の研究プロセスを通じたESDのグローバルな学習環境を育成。特にアフリカに重点をおいたESD地域拠点(RCE)の国際ネットワークの拡大と強化に努める。またUNU-IAS修士課程環境ガバナンス分野(生物多様性)にてESDを講義。マッコーリー大学にて環境学博士号を取得。研究分野は、能力開発、ネットワーク化されたガバナンス、変革をもたらす教育。



Kenshi Baba 馬場 健司 Professor, Hosei University 法政大学地域研究センター特任教授

Kenshi Baba holds PhD in Policy Science from University of Tsukuba. His research interests include consensus building and risk communication, policy process, and attitude and behavior change analysis within energy and environmental issues. He is now involved in government funded nation-wide research project on climate change adaptation policy and resilient city policy, and human environmental security in water-food-energy NEXUS project of the Research Institute for Humanity and Nature (RIHN). He is now conducting several consensus building projects such as climate change adaptation issue in agriculture, groundwater and geothermal power generation adaptive governance issue. He has published numerous articles in the Japanese Society of Civil Engineering, the Society of Environmental Sciences of Japan and books on energy and environmental issues. He has also served as a working committee member of IEA R&D Wind Task 28, Social Acceptance of Wind Energy Projects, and a contributing author of IPCC AR5 WGII Chapt. 24.

1989年3月 筑波大学社会工学類都市計画主専攻卒業、2008年3月 同大学より博士(社会工学)取得、2013年4月より現職。環境・エネルギー問題を題材とした合意形成やリスクコミュニケーション、政策過程分析、態度行動変容分析等が専門。現在、環境省の気候変動適応策やレジリエントシティ研究プロジェクト、総合地球環境学研究所のプロジェクト等に関与。IEA R&D Wind Task 28 Social Acceptance of Wind Energy Projects working committee member (2009年8月~2013年3月)、IPCC AR5 WGII Ch.24 contributing author (2012年4月~)等、学会及び社会における活動等は多岐にわたる。



# Magnus Bengtsson マグナス・ベングソン

Principal Policy Researcher, Programme Management Office, IGES IGESプログラム・マネージメント・オフィス上席研究員

He received his PhD in Environmental Systems Analysis in 2002 from Chalmers University of Technology in Göteborg, Sweden. In 2003 he moved to Japan where he took up a position as post doctoral research fellow at the University of Tokyo and worked on water demand forecasting and water demand management. Since he joined IGES in 2007, he conducts and leads research on a wide range of topics, mainly focusing on policy approaches towards Sustainable Materials Management and Sustainable Consumption in Asia and the Pacific. Magnus is a member of the Steering Group of the Chemicals in Products project run by UNEP; he is also a member of the Subsidiary Expert Group of the Regional 3R Forum in Asia, hosted by United Nations Centre for Regional Development (UNCRD), and lead author for waste management and chemicals for the Asia Pacific chapter of UNEP's 5th Global Environmental Outlook (GEO-5).

2002年スウェーデン・チャルマース工科大学にて環境システム分析の博士号取得。2003年に来日し、博士研究員と して東京大学にて水需要予測と管理についての研究に従事。2007年よりIGESに勤務し、主にアジア太平洋地域に おける持続可能な資源管理と消費に向けた政策的アプローチに焦点を当て、広範囲の研究活動をリードしている。 国連環境計画(UNEP)製品中の化学物質プロジェクトの主要メンバーであり、国連地域開発センター(UNCRD)が 主催するアジア3Rフォーラムの専門家グループの一員でもある。また、UNEP「第5次地球環境概況(GEO5)」の アジア太平洋地域における廃棄物管理と化学物質についての章のリードオーサーである。



# Rizaldi Boer リザルディ・ボアー

Executive Director, Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific, Bogor Agriculture University ボゴール農科大学東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長

Prof. Rizaldi Boer is currently Deputy Director of Centre for Climate Risk and Opportunity Management in Southeast Asia and Pacific of Bogor Agriculture University. He has been working on issues related to GHG mitigation strategies focusing on agriculture, forest and other land uses since 1998. Now, he is very active in conducting a number of studies related to policies toward low carbon development. Some of his recent works related to LCD are Low carbon development strategies of Bengkalis District-Riau Province that reduce pressure on peat-land ecosystems, and Reducing agricultural expansion into forests: Analysis of implementation and financing gaps. He obtained his PhD degree in Agriculture from University of Sydney, Australia in 1994.

現在、ボゴール農科大学の東南アジア太平洋気候変動リスク管理センター所長であり、特に農業、森林、土地利用 に焦点を当てた温室効果ガス緩和戦略に関して1998年から取り組んできた。現在、低炭素発展に向けた政策に 関する数多くの研究に注力している。オーストラリア・シドニー大学から農業博士号取得 (1994年)。



# Tim Cadman ティム・カドマン

Research Fellow, Institute for Ethics, Governance and Law, Griffith University グリフィス大学倫理・ガバナンス・法研究所フェロー研究員

Tim Cadman is a Research Fellow with the Institute for Ethics, Governance and Law at Griffith University in Queensland, Australia. He specialises in the governance of sustainable development, including forest management, climate change, and finance. His first monograph, "Quality and Legitimacy of Global Governance: Case Lessons from Forestry" was published in 2011, followed by an edited collection "Climate Change and Global Policy Regimes: towards Institutional Legitimacy" in 2013. His active research includes developing quality of governance standards for REDD+ and forest

management in Nepal and Papua New Guinea, and tracking the integrity systems associated with the UN climate change regime. He established the Forest Stewardship Council in Australia in 2002 and also assists multi-stakeholders in environmental conflict mediation and negotiation.

持続可能な開発のガバナンス分野の中でも主に森林管理、気候変動、金融分野を専門とする。最初の研究論文として、2011年に「グローバル・ガバナンスの質と正当性:森林分野からの教訓」を発表。2013年に引き続き「気候変動と地球政策レジーム:制度的正当性に向けて」を出版。現在、ネパール及びパプアニューギニアにおけるREDD+に関するガバナンス基準の構築と森林管理、及び国連気候変動レジームに関連した統合システムの追跡等に関する研究を実施している。2002年にオーストラリアで森林管理協議会を設立し、環境紛争調停や交渉に携わるマルチステークホルダーも支援する。



**Rethy Chhem** レティ・チェム Director, Division of Human Health, International Atomic Energy Agency (IAEA) 国際原子力機関 (IAEA) ヒューマンヘルス部長

Dr. Rethy Chhem is the Director of the Division of Human Health, IAEA. He co-chairs the Working Group on "Assessment of Radiological Consequences" of the IAEA Comprehensive Fukushima Report, and represents the IAEA at the UNSCEAR. He holds an MD, a PhD in Education and a PhD in History. Before joining the IAEA, he was Professor of Radiology at McGill University, National University of Singapore and University of Western Ontario. He has published widely on radiology and radiation medicine. Since March 2011, Dr. Chhem has initiated a number of education and research programmes on radiation disaster medicine to address the Fukushima nuclear accident and its consequences on human health.

IAEA福島報告書において、放射線の影響評価ワーキンググループの共同議長及び国連科学委員会のIAEA代表も務める。医学、教育学、歴史学で博士号取得。前職はマギル大学、シンガポール国立大学、ウェスタンオンタリオ大学で放射線学教授を歴任。放射線学や放射線医学に関する発表を広く行っている。震災以降、放射線災害医療に関する数多くの教育・研究プログラムに着手し、福島原発事故とその健康影響に取り組んでいる。



# Rae Kwon Chung チュン・ラエ・クウォン

Director, Environment and Development Division, United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific (UNESCAP) / Former Climate Change Ambassador of the Republic of Korea 国連アジア太平洋経済社会委員会 (UNESCAP) 環境開発部長/前韓国気候変動大使

Director Chung was a career diplomat of Korea specializing in global environmental negotiations attending major global conferences from Rio Earth Summit in 1992 to the Copenhagen Climate Conference (COP15) in 2009. He served as Director-General for International Economic Affairs and as Climate Change Ambassador at the level of deputy minister for Korea.

As Director of Environment and Development Division, UNESCAP, he has successfully managed the adoption of the Ministerial Declaration on Green Growth at the 5th MCED (Ministerial Conference of Environment and Development of Asia and the Pacific) held in Seoul, Korea in 2005.

As an input for Rio+20 Conference on Green Economy, in May 2012, he has prepared to launch an ESCAP Report titled "Low Carbon Green Growth Roadmap" as a blueprint for pursuing Green Economy necessary to cope with resource constraints and climate impacts already impacting many developing countries in Asia and the Pacific most.

韓国の経験豊かな外交官として、地球環境交渉に特化し、1992年リオ地球サミットから2009年コペンハーゲン気候変動会議(COP15)まで、主要国際会議に出席した実績を持つ。また、韓国外交通商部国際経済局長及び気候変動大使(副大臣級)としても活躍した。

UNESCAP環境開発部長としては、2005年に韓国・ソウルで開催された第5回アジア太平洋環境と開発に関する閣僚 会議 (MCED5) において、グリーン成長に関する閣僚宣言採択取りまとめに成功している。

さらには、2012年に開かれたグリーン経済に関するリオ+20に対して、ESCAP報告書「低炭素グリーン成長ロード マップ」を発表。資源制約や気候変動が、既にアジア太平洋の多くの発展途上国に影響を与えている中で、それら に対処すべきグリーン経済を追求するための青写真を提供している。



Shobhakar Dhakal ショバカール・ダカール Associate Professor, Asian Institute of Technology (AIT) アジア工科大学 (AIT) 准教授

Dr. Shobhakar Dhakal is an Associate Professor at Energy Field of Study of the Asian Institute of Technology. His expertise is in energy/ economy/ environmental policy modeling; climate policy and technology assessment and urbanization and cities. He is a visiting researcher of the National Institute for Environmental Studies in Japan and currently serving as one of the Coordinating Lead Authors for the Fifth Assessment Report of IPCC for the Working Group III dealing with chapter on the Human Settlements, Infrastructure and Spatial Planning. He is also a co-editor of the ongoing Second International Assessment Report on Climate Change and Cities and a senior editor of Carbon Management Journal. He holds Ph.D. from The University of Tokyo.

ショバカール氏は、アジア工科大学のエネルギー領域准教授。専門は、エネルギー・経済・環境のモデル分析、 気候政策及び関連する技術評価、都市等。日本の国立環境研究所の客員研究員であり、現在、IPCC第5次評価報 告書第三作業部会において、「人間の居住空間、インフラ及び空間計画」を扱う章のリードオーサー兼調整役を担っ ている。気候変動と都市に関する現在進行中の第二国際評価報告書の共同編集者であり、Carbon Management Journalの上級編集者である。東京大学にて博士号を取得。



# Robert J. Didham ผก-หางหางผ

Senior Coordinator, Capacity Development and Knowledge Management / Principal Policy Researcher, Programme Management Office, IGES IGESプログラム・マネージメント・オフィス 能力開発・ナレッジマネジメント戦略 シニアコーディネーター/上席研究員

Dr. Didham is senior coordinator for capacity development and knowledge management at the Institute for Global Environmental Strategies. In this role, he manages IGES's capacity building and training programmes aimed at strengthening target stakeholders across the Asia-Pacific region to implement sustainability policies and practices. Prior to this appointment, Dr. Didham served as education policy specialist at IGES and managed education research projects related to sustainable development, consumption and lifestyles. He was team leader for collaborative research with United Nations University and UNESCO on Monitoring and Evaluation of Education for Sustainable Development (ESD) in Asia-Pacific. He coordinated multi-country studies on Education for Sustainable Consumption (ESC) and supported a UNEP project to develop national guidelines for ESC in Indonesia. Dr. Didham's academic focus is on interdisciplinary approaches to sustainable development with a primary disciplinary background in sociology, anthropology, development studies, and educational theories/learning methodologies. His academic degrees include a Ph.D. in Social and Political Studies, a M.Sc. in Social Research, and a M.Sc., Environmental Sustainability (all from the University of Edinburgh) and B.Phil. in Interdisciplinary Studies (from Miami University).

IGESの能力開発及びナレッジマネジメント戦略のシニア・コーディネーターとして、IGESがアジア太平洋地域のステー クホルダーを対象に実施する能力開発及びトレーニングプログラム等を統括する。教育政策のスペシャリストとして IGESに入所後、持続可能な開発、消費及びライフスタイルのための教育に関する研究に従事し、アジア太平洋に おける持続可能な開発のための教育(ESD)のモニタリング及び評価に関する国連大学及びユネスコとの共同研究 のチームリーダーをはじめ、持続可能な消費のための教育(ESC)に関する各国研究のコーディネーター、UNEPプロジェクトのインドネシア国家 ESC ガイドライン作成支援等を担当。社会学、人類学、開発学、教育理論及び学習方法論を学問的背景に持ち、専門テーマは持続可能な開発への学際的アプローチ。社会・政治学博士、社会研究学修士及び環境持続性学修士(エジンバラ大学)、学際研究学哲学士(マイアミ大学)。



#### Isao Endo 遠藤 功

Task Manager / Senior Policy Researcher, Natural Resources and Ecosystem Services Area, IGES IGES 自然資源・生態系サービス領域タスクマネージャー/主任研究員

Trained as an environmental economist, Isao Endo focuses on socioeconomic aspects of environmental conservation. Prior to joining IGES, Isao served as Environmental Specialist at the United Nations and the World Bank where he contributed to devising Strategic Action Program to maintain and improve the health of the Yellow Sea (UNDP/GEF) and assessing climate-related public expenditures in the Philippines (World Bank). In his current assignment with IGES, Isao conducts projects to support local governments in Asia to improve land-use planning with consideration of climate change. Isao holds the bachelor's degree in economics from Sophia University and the master's degree of Environmental Management from Yale University (Fulbright Scholar).

環境エコノミストとしての訓練・経験を活かし、環境保全の社会経済的な側面に重点的に取り組んでいる。環境専門家として国際機関に勤務し、黄海における生態系サービスの維持・改善を目的とする戦略的行動計画の策定(UNDP/GEF)や、フィリピンの気候変動関連の公共支出の評価(世界銀行)を行った。現在IGESにて、アジアの地方自治体による気候変動の影響を考慮した土地利用を支援している。経済学士(上智大学)、環境管理学修士(イェール大学)。



# Junichi Fujino 藤野 純—

Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員

He joined NIES located in Tsukuba, 2000. He is one of the main members to develop the Asia-Pacific Integrated Model (AIM) to estimate climate change impact and to assess policy options for stabilizing global climate, her results were cited by IPCC 4th Assessment Report (AR4). He was one of the lead authors of IPCC Special Report on Renewable Energy Sources and Climate Change Mitigation (SRREN), 2011. He reported energy and climate change scenarios after Fukushima to Central Environmental Council by Ministry of the Environment Japan, and also serving as an advisory committee member of "FutureCity" initiatives under Ministry of the State Japan. He received his B.S., M.S and Ph.D. in Electrical Engineering from the University of Tokyo. He is so shocked by the nuclear power accident at Fukushima caused by the Great East Japan Earthquake, because he has engaged in energy and climate change research since 1994. So he has been supporting revitalization of Fukushima. He is recently interested in sustainable city design and transition management and wants to be social system designer.

1972年5月生まれ。2000年4月より国立環境研究所。AIMプロジェクトメンバー。日本・アジア低炭素社会シナリオづくりに従事。中央環境審議会地球環境部会に向けたエネルギーの選択肢づくり、「環境未来都市」の委員としてコンセプト作りや評価を行う。3.11以降で縁があり、飯舘村の復興計画推進委員会、福島県再生可能エネルギー専門部会、会津みしま自然エネルギー研究会、ふくしま会議2011等で微力ながら福島の復興にかかわる。主著書に「低炭素社会に向けた12の方策」(日刊工業新聞社)、小中学生向けの「みんなの未来とエネルギー」(文溪堂)。地球環境と家庭環境の両立が永久の悩み。



Hiroshi Fujita 藤田 宏志

Deputy Director, Air Environment Division, Ministry of the Environment, Japan 環境省水・大気環境局大気環境課 課長補佐

Mr. Hiroshi Fujita graduated from Kyoto University and the University of Washington with a Master of Science. He has been working on environmental administration since joining the Ministry of the Environment, Japan in 2004. He worked on offensive odor control, planning on reducing greenhouse gas (GHG) emissions, compiling an Annual Report on the Sound Material-Cycle Society in Japan, and international cooperation in the water supply sector. Since 2013, he has been in charge of transboundary air pollution issues: international coordination at the Acid Deposition Monitoring Network in East Asia (EANET); international coordination of joint research programme on Dust and Sandstorms in Northeast Asia; and strategy formulation to manage air pollutants in East Asia.

京都大学大学院理学系研究科修士課程修了(理学修士)、米ワシントン大学公衆衛生大学院修士課程修了(理学修 士)。2004年に環境庁に入省して以来、一貫して環境行政に携わる。悪臭規制、京都議定書目標達成計画の改定、 循環型社会白書の執筆、水道分野の国際協力などを担当。2013年以来、越境大気汚染問題を担当。東アジア酸性 雨モニタリングネットワーク(EANET)や日中韓黄砂共同研究を通じた国際協調や東アジア大気汚染防止戦略の検討 に携わっている。



# Tsuyoshi Fujita 藤田 壮

Director, Center for Social and Environmental Systems Research. National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター長

Prof. Tsuyoshi Fujita is a Director of Center for Social and Environmental Systems Research, NIES, Japan. He is also an alliance professor of Nagoya University as well as a visiting professor of United Nations University in Japan. His research fields are eco industrial development, low carbon city, urban environment simulation system, circular economy planning and spatial LCA, where he has published around seventy journal papers.

1983年東京大学都市工学科卒業、ペンシルバニア大学院都市計画修士、東京大学博士(工学)。大学卒業後、大成 建設での都市地域開発計画業務等を経て、1994年より大阪大学助手、助教授。東洋大学工学部教授、国立環境研 究所室長を経て現職。名古屋大学大学院環境学研究科連携大学院教授及び国連大学客員教授。専門は環境システ ム学、都市環境計画、環境技術評価、エコタウン、都市産業共生システム。



# Ryu Fukui 福井 龍

Advisor, Regional and Sustainable Development Department / Head, Knowledge Sharing and Services Center, Asian Development Bank (ADB) アジア開発銀行地域・持続的開発局アドバイザー 兼 知識共有・サービスセンター長

Mr. Ryu Fukui leads the Knowledge Sharing Center which aims to structure, advise, and deliver knowledge sharing initiatives as ADB's distinct business line for its developing member countries, in collaboration with other departments and external knowledge partners.

Mr. Fukui has 30 years of professional experiences in financial and private sector development and capacity building initiatives on major development issues. He led loan operations, research and analytical works, policy advice, and training activities in Asian and African countries, in the areas of micro and SME finance, banking sector, industrial development, foreign direct investment, and enterprise development. He also has extended experience in knowledge management and sharing for development by the use of information and communication technologies and distance learning.

Mr. Fukui worked for the World Bank, Development Bank of Japan, OECD, and a think tank on financial information systems. Before joining in ADB, he was Manager, Tokyo Development Learning Center, East Asia and Pacific Region, the World Bank, during 2003-2010.

Mr. Fukui, a Japanese national, has an MSc in Financial Economics from the University of London, UK, and an LLB in Law from Kyoto University, Japan.

アジア開発銀行(ADB)の知識共有センターを統括。知識共有センターは、ADB内の他部署や外部の知識パートナーと協力し、途上国のメンバー国へ向けた業務として知識共有イニシアチブを構築、助言、実施することを目的としている。

福井氏は、主要な開発問題の財政・民生分野における開発と能力開発イニシアチブにおいて30年の専門的な経験を有している。これまでに、アジアやアフリカにおけるマイクロファイナンス、中小企業へ向けたファイナンス、銀行業務、産業開発、海外直接投資、企業開発等の分野において、融資事業、研究、分析業務、政策アドバイスやトレーニング事業等を率いてきた。また、情報・コミュニケーション技術や遠隔教育等の知識管理や共有における経験を広げてきた。世界銀行、日本政策投資銀行、経済協力開発機構(OECD)、金融情報システムシンクタンクに勤務。ADB入行前は、2003年から2010年まで、世界銀行東アジア大洋州局・東京開発ラーニングセンターでマネジャーを務める。京都大学で法学士号を取得し、ロンドン大学の金融経済の修士号を取得している。



**Toru Fukushima** 福島 徹 President, Fukushimaya / Unite co., Ltd. (株) 福島屋代表取締役会長 / (株) ユナイト代表取締役社長

Mr. Fukushima inherited his family-run store "Fukushimaya" in 1974. After running a convenience store, he converted to a supermarket business at age 37. Currently, not only does Mr. Fukushima select farm-fresh produce for his shelves, he also actively collaborates with farmers from across the country to develop new products, with particular focus on rice and vegetables harvested through natural cultivation techniques. He is the current President of companies Fukushimaya and Unite co. Itd, as well as the agricultural corporation NAFF. Since 2009, Mr. Fukushima has published a number of books on the importance of food and the realities of the alimentation industry, and has made many media appearances as a leading professional in the food business. In 2011, Fukushimaya received the Special Judge's Award under the "Grand Prix of the Most Precious Companies of Japan".

1974年、家業の福島屋を継ぐ。コンビニ経営を経て、37歳の時に現在の食品スーパー業態に転換。産直品の積極的な導入だけでなく、全国の農業生産者とのコラボレーション商品を多く開発。特に、自然栽培の米や野菜の扱いに注力する。現在、株式会社福島屋の代表取締役会長に加え、株式会社ユナイトの代表取締役社長、さらには農業法人「NAFF」の取締役を務め、農商工連携ビジネスコンサルタント等の事業も展開している。2009年以降は「食の理想と現実」(幻冬舎)や、「たべるヒント」、「食を整える」(眞人堂)等、数々の書籍の出版と共に、「プロフェッショナル 仕事の流儀」(NHK総合テレビ)や「カンブリア宮殿」(テレビ東京)等テレビ出演も行っている。また、2011年には「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞において株式会社福島屋が審査員特別賞を受賞。



Hironori Hamanaka 浜中 裕徳

Chair of the Board of Directors, IGES IGES 理事長

Professor Hironori Hamanaka is the chair of IGES Board of Directors. When he took up his current position at IGES, he was teaching at Keio University as a Professor, and previously served as the Vice-Minister for Global Environmental Affairs as well as other important positions at the Ministry of the Environment.

While serving with the Government of Japan, he devoted his administrative career to intergovernmental negotiations in areas including: the Kyoto Protocol and its implementing rules; major agreements in the field of sustainable development, such as the Johannesburg Plan of Implementation agreed at the World Summit on Sustainable Development in 2002; and the development of national policies to implement international agreements, most notably the Kyoto Protocol. Based on his professional career, he served as a Co-chair of the Compliance Committee under the Kyoto Protocol and the Chair of its Facilitative Branch from 2006 to 2008. He gained a B.A. in Engineering from the University of Tokyo in 1967.

1967年東京大学工学部都市工学科卒業。1969年4月厚生省入省、1971年7月環境庁創設と共に同庁に出向。その後、外務省出向(経済協力開発機構日本政府代表部)等を経て、1995年7月同企画調整局地球環境部長、2001年1月環境省地球環境局長、同年7月同地球環境審議官。2004年7月環境省を退職、慶應義塾大学環境情報学部教授に就任。2007年4月よりIGES理事長、2013年4月より慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科非常勤講師、現在に至る。

35年以上にわたり、環境省において地球環境政策の分野で活躍。特に、京都議定書とその実施ルールに関する政府間の交渉、2002年の持続可能な開発に関する世界首脳会議で同意されたヨハネスブルグ実施計画などの持続可能な開発分野の主要な合意、また、国際的な環境合意(特に京都議定書)を実施するための国家政策の作成に尽力。2006年から2008年まで京都議定書遵守委員会共同議長及び同委員会促進部議長。



# Tatsuya Hanaoka 花岡 達也

Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員

Dr. Hanaoka has been engaged in developing the Asia-Pacific Integrated Model (AIM) since 2004, at National Institute for Environmental Studies (NIES). He contributed to the IPCC Fourth Assessment Report as a contributing author, and to the Fifth Assessment Report as an expert reviewer, of the IPCC Working Group III. He also contributed to Committee of the Japan's mid-term target in Council for Global Warming under the cabinet secretary from 2008 to 2009. His research interests cover environmental energy-engineering system modeling, non-CO<sub>2</sub> greenhouse gases (GHG) emissions modeling, assessment of low carbon and sustainable society scenarios, and ancillary benefit analyses of reducing GHGs, Ozone Depleting Substances (ODSs) and air pollutants. He received his Ph.D. in engineering from the Graduate School of Engineering, the University of Tokyo in 2004.

国立環境研究所において、2004年からアジア太平洋統合評価モデルの開発に従事。IPCC第四次評価報告書では執筆協力者、IPCC第五次評価報告書では専門家査読者として、第三作業部会報告書の執筆に貢献。また、2008年~2009年には、内閣官房による日本の中期目標検討委員会のワーキングチームメンバーとして貢献。エネルギーシステムモデル、非CO<sub>2</sub>温室効果ガス排出モデル、低炭素社会・持続可能社会シナリオ評価、温室効果ガス・大気汚染物質・オゾン層破壊物質の削減による副次便益等の問題に関心を置く。2004年に東京大学大学院工学系研究科で工学の博士号を取得。



## Parvez Hassan パルベス・ハッサン

Senior Advocate, Supreme Court of Pakistan / Senior Partner of Hassan & Hassan (Advocates) パキスタン最高裁判所上級弁護士/ハッサン&ハッサン法律事務所シニアパートナー

Dr. Parvez Hassan, Senior Advocate, Supreme Court of Pakistan and Senior Partner of Hassan & Hassan (Advocates) in Pakistan, is currently the President of the Pakistan Environmental Law Association. He holds a Bachelor of Laws from Punjab University in Lahore, a Masters of Law degree from Yale University and a Doctorate of Law from Harvard University. He is the founder of the Dr. Parvez Hassan Environmental Law Centre at the University Law College

(Punjab University) and the co-founder of the Asia-Pacific Centre of Environmental Law in Singapore. Dr. Hassan is a former Chair of the World Commission of Environmental Law of IUCN. He is the draftsman of the Environmental Legislation in Pakistan and served on its highest Pakistan Environmental Protection Council.

パルベス・ハッサン氏は、パキスタン最高裁判所上級弁護士、ハッサン&ハッサン法律事務所(パキスタン)のシニアパートナーであり、現在パキスタン環境法協会の会長を務める。ラホールのパンジャブ大学で法学士、イエール大学で法学修士、ハーバード大学で法学博士号を取得。ユニーバーシティ・ロー・カレッジ(パンジャブ大学)パルベス・ハッサン環境法センター創設者、シンガポールのアジア太平洋環境法センターの共同設立者、国際自然保護連合(IUCN)国際環境法委員会の前委員長。パキスタン環境法の立案者であり、パキスタン環境保護評議会も務めた。



Kevin Hicks ケビン・ヒックス

Senior Research Associate, Stockholm Environment Institute (SEI) / Environment Department, University of York ストックホルム環境研究所 (SEI) / ヨーク大学環境学科 シニアリサーチアソシエート

Dr. Hicks has been a research associate at SEI since 1997 and has 22 years' experience in the field of air pollution. His research interests cover air pollution impacts on terrestrial ecosystems, linkages between air pollution and climate change, and the transfer of scientific information to the policy process. Since 2004 he has been responsible for jointly managing the development of the GAP Forum, which was established to promote air pollution abatement at the regional and hemispheric scales. Work with the GAP Forum highlighted the potential for developing integrated co-benefit strategies for air pollution and climate change and led to SEI's involvement in a UNEP/WMO Integrated Assessment of Black Carbon and Tropospheric Ozone, for which he was the co-ordinator at the secretariat. This work has led to his involvement with the regional intergovernmental consultations and the national action planning activities of the CCAC.

1997年からSEIで22年間にわたり大気汚染分野の研究に従事。大気汚染の陸域生態系への影響、大気汚染と気候変動の関連、そして科学的情報の政策決定プロセスへの反映が研究テーマ。2004年以来、地域的および半球スケールでの大気汚染の軽減を促進する世界大気汚染フォーラム(GAPF)の発展に向け共同管理を担当。ヒックス博士が事務局でコーディネーターを務めた国連環境計画(UNEP)/世界気象機関(WMO)のブラックカーボンと対流圏オゾンの統合評価が、短寿命気候汚染物質削減のための気候と大気浄化のコアリション(CCAC)の地域政府間協議及び国内行動計画への介入・貢献につながっている。



# 

Head, Center for Social and Environmental Systems Research (Environmental Urban Systems Section), National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター (環境都市システム研究室) 室長

Yasuaki Hijioka is a Head of Environmental Urban Systems Section, National Institute for Environmental Studies, Japan. His research topics cover modeling analysis for environmental issues related to climate change impacts and adaptation, and he is involved in the development of the Asian Pacific Integrated Model (AIM) to estimate climate change impacts and to assess policy options for stabilizing global climate. He is a Coordinating Lead Author (CLA) in the IPCC Working Group II's Fifth Assessment report (AR5), Chapter 24 "Asia".

東京大学大学院工学系研究科博士課程(都市工学専攻)を修了(2001年3月)。現在、(独) 国立環境研究所社会環境システム研究センター環境都市システム研究室室長。IPCC第二作業部会第五次評価報告書第24章(アジア)の統括執筆責任者。アジア太平洋統合評価モデル(AIM)開発グループの一員として、気候の安定化レベルとその影響について統合評価モデルを用いた解析に取り組んでいる。開発したモデルは、RCP(Representative Concentration Pathways)シナリオや、環境省環境研究総合推進費S-8「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究」等で活用されている。



Taka Hiraishi 平石 尹彦 Counsellor, IGES (Member, IPCC Bureau) IGES参与 (IPCC ビューロー委員)

B.Sc. (1966) and M.Sc. from Industrial Chemistry (1968) from Tokyo University. Joined Ministry of Labour. Moved to the newly-established Environment Agency in 1971, and worked in the fields of offensive odour, acid rain, ozone layer, hazardous wastes, hazardous chemicals and water pollution (Director, Water Pollution Control Division, Environment Agency). Environment Attache (liaison with UNEP) and Second Secretary for technical co-operation at the Embassy of Japan in Kenya. Principle Administrator, Chemical Division, Environment Directorate, OECD. Worked for UNEP in 1989-98, including Assistant Executive Director for Environmental Information and Assessment. Board of Directors, IGES from 2002 to March 2012. Currently, Counsellor of IGES, Member of IPCC Bureau and Co-chair of IPCC Inventories Task Force Bureau.

1966年東京大学工学士、68年同大学工業化学修士。労働省、公害対策本部を経て、71年に設置された環境庁へ。 悪臭公害、酸性雨対策、オゾン層対策、有害廃棄物対策、有害化学物質対策、水質汚濁対策など公害対策の諸分 野で勤務。ケニア大使館(環境・技術協力)、OECD事務局環境局化学品部勤務。環境庁水質保全局水質規制課長 を経て、89年からUNEP事務局。同環境アセスメント・情報局長の後UNEP退職。99年国立環境研究所客員研究官、 IGES上級コンサルタント。2002年~12年3月IGES理事。現在、IGES参与、IPCCビューロー委員、温室効果ガス・ インベントリータスクフォース共同議長等。



Reiji Hitsumoto 櫃本 礼二

Executive Director, Office for International Environmental Strategies, City of Kitakyushu 北九州市環境局環境国際戦略室長 (部長)

He graduated from Tokyo Institute of Technology (Master Degree) in 1982, and started working for the City of Kitakyushu in the field of environmental policy. In 1992, he was dispatched to the United Nations Centre for Regional Development (UNCRD) and joined projects on solid waste management in Asian region. Since 1994, he has held prominent positions at the office for international environmental cooperation and office for world capital of sustainable development in the City of Kitakyushu. He has served as his present post since 2012.

His books written and edited: "Kitakyushu's Experiences on Green City" towards creating World Capital of Sustainable Development, NIKKAN KOGYO SHIMBUN. etc.

1982年3月、東京工業大学総合理工学研究科化学環境工学専攻修士課程終了。同4月、北九州市役所入職。環境 政策に従事。1992年4月、国際連合地域開発センター(UNCRD)に派遣され、環境プロジェクトに従事。1994年4月 ~北九州市役所にて、環境国際協力、持続可能な開発政策等に従事。2012年4月より現職。編著書:環境首都一 北九州市 「緑のまちを蘇らせた実践対策」(日刊工業新聞) 他。



Kaoru Ichikawa 市川 董

Research Fellow, United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) 国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS) リサーチフェロー

Kaoru Ichikawa is working as a Research Fellow at UNU-IAS. She has been involved in the project on the Satoyama Initiative, an international effort toward the society in harmony with nature, and its international partnership (IPSI) since the project has started in 2009. Under the project, she has been involved in various activities from scientific aspects such as the joint project on resilience indicators for local communities. She received her PhD in Agriculture from the University of Tokyo, Japan. Prior to joining UNU-IAS, she was a project researcher at the Integrated Research System for Sustainability Science (IR3S), University of Tokyo.

東京大学大学院農学生命科学研究科において博士号を取得。東京大学サステイナビリティ学連携研究機構特任研究員を経て、2009年より国連大学サステイナビリティ高等研究所に勤務。自然共生社会に向けた国際的取り組みであるSATOYAMAイニシアティブ及びその国際パートナシップ(IPSI)に関する業務に従事し、コミュニティ主体のレジリエンス指標開発普及等、科学的側面から様々なプロジェクトを担当。



P. K. Joshi P·K・ジョシ Professor and Head, Department of Natural Resources, TERI University テリー大学自然資源学部長・教授

Dr. Joshi is Professor of Geoinformatics and head Department of Natural Resource, TERI University. Prior to joining TERI University in 2007, he spent a decade with the Indian Space Research Organisation (ISRO) and also adjunct faculty to Centre for Space Science and Technology Education in Asian and the Pacific (CSSTEAP), an UN affiliated institution. He is receipt of Young Scientist medal of the Indian National Science Academy (INSA) and National Academy of Sciences India (NASI) as recognition to his research contributions. He was visiting faculty to Department of Geography, University of Helsinki, Yale School of Forestry and Environmental Studies (YSF&ES), and now to University of Freiburg, Germany. He has experience of successful supervision and evaluation of graduate research students at PhD and masters levels worldwide.

テリー大学自然資源学部長及び地球情報学教授。2007年にテリー大学着任以前は、インド宇宙研究機関及び国連アジア太平洋宇宙科学技術教育センターに所属。Indian National Science AcademyとNational Academy of Sciences Indiaから若手科学者賞を受賞。ヘルシンキ大学地理学科及びイェール大学森林環境学大学院の客員教員を務め、現在はフライブルク大学客員教員。



Hiroyuki Kage 鹿毛 浩之 Executive Director, Vice-President, Kyushu Institute of Technology / Director, Kitakyushu Urban Centre, IGES 九州工業大学理事・副学長 / IGES 北九州アーバンセンター所長

Dr. Hiroyuki Kage was born in 1952 and has graduated from Department of Chemical Engineering, Kyoto University in 1975. He obtained a doctorate degree in Engineering from Kyoto University in 1981. He moved to Kyushu Institute of Technology as a full-time lecturer in 1980, and promoted to an associate professor in 1984 and to a professor in 2002. He has worked for Kyushu Institute of Technology as Executive Director and Vice-President in charge of research and university-industry collaboration since 2010. He has also been Director of IGES, Kitakyushu Urban Centre since 2012.

1952年生まれ。京都大学工学部及び同大学院にて化学工学を学び、1981年工学博士。1980年より九州工業大学工学部講師。以後、同助教授を経て、2002年より教授。また、2010年4月より九州工業大学理事・副学長(研究・産学連携担当)、2012年4月よりIGES北九州アーバンセンター所長も務める。



# Mikiko Kainuma 甲斐沼 美紀子

Senior Research Advisor, IGES / Fellow, National Institute for Environmental Studies (NIES) IGES 研究顧問/国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター フェロー

Mikiko Kainuma is currently a senior research advisor of IGES and a Fellow at the Center for Social and Environmental Systems Research in National Institute for Environmental Studies (NIES). She joined NIES in 1977, and since 1990, she has been engaging in the development of Asia-Pacific Integrated Model (AIM), which assesses policy options for stabilizing the global climate, particularly in the Asian-Pacific region. She led the Low Carbon Asia Project from 2009 to 2014. She served as an adjunct professor at Japan Advanced Institute of Science and Technology from 2003 to 2014. Her current research area of interest are in low carbon societies in Asia, energy systems and social development. She has published papers in international journal and books. These include Climate Policy Assessment (2003), Pathways towards Low-Carbon Societies in Asia (2014) and A Low-carbon Society: Global Visions, Pathways and Challenges in Climate Policy (2003). She received Academic Award by the Society of Environmental Science, Japan (2011), Remarkable Contribution to Science and Technology 2010: NISTEP (2010), and Nikkei Global Environmental Technology Award (1994). She is a Lead Author of Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) Fourth and Fifth Assessment Report.

現在、IGES研究顧問及び国立環境研究所(NIES)社会環境システム研究センターのフェローを務める。1977年にNIESに入所し、1990年から、全球的な、また特にアジア太平洋地域の気候安定化のための政策オプションの検討に用いる、アジア太平洋統合評価モデル(AIM)の開発に取り組んできている。2009年から2014年まで環境省地球環境研究総合推進費戦略研究「アジア低炭素発展プロジェクト」の研究統括を務め、また、2003年から北陸先端科学技術大学院大学の客員教授を務めた。最近では、アジアにおける低炭素社会構築、エネルギーシステム、社会的発展に研究の重点を置いている。また、国際ジャーナルや本で論文を発表してきており、主な著作等として、Climate Policy Assessment(2003)、Pathways towards Low-Carbon Societies in Asia(2014)、A Low-carbon Society: Global Visions, Pathways and Challenges in Climate Policy(2003)等が挙げられる。これまでの受賞歴として、環境科学会学術賞(2011年)、科学技術への顕著な貢献2010(ナイスステップな研究者)(2010年)、日経地球環境技術大賞(1994年)等がある。同氏はまた、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の第4次及び第5次評価報告書のリードオーサーを務めた。



# Yasuko Kameyama <sub>亀山 康子</sub>

Head, Center for Social and Environmental Systems Research (Sustainable Social Systems Section), National Institute for Environmental Studies (NIES)

国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター (持続可能社会システム研究室) 室長

Yasuko Kameyama has worked for National Institute for Environmental Studies (NIES) since 1992, and Visiting Professor at Graduate School of Frontier Science, University of Tokyo since 2011. She was Visiting Researcher at University of Maryland in 1990-2000. Her major field of study is international relations concerning climate change. She has participated in most of the Conferences of the Parties (COPs) to the UNFCCC in its early years of negotiation as a member of the Japanese delegation. Her publications include Kameyama, Y., A. P. Sari, M. H. Soejachmoen and N. Kanie eds. (2008) *Climate Change in Asia: Perspectives on the Future Climate Regime*, Tokyo: United Nations University Press.

1990年東京大学教養学部卒。1992年環境庁国立環境研究所(当時)研究員、2011年より現職。専門は気候変動問題に関する国際政治学。主な著書に「気候変動と国際協調:京都議定書と多国間協調の行方」(高村ゆかり氏と共編、2011年、 蒸学社)等。東京大学大学院新領域創成科学研究科にて 2011年より客員教授を併任。



# Jakkanit Kananurak ジャカニット・カナヌラック

Director, Capacity Building and Outreach Office, Thailand Greenhouse Gas Management Organization (TGO) タイ温室効果ガス管理機構 (TGO) 能力開発・アウトリーチ室ディレクター

Dr. Jakkanit, Director of Capacity Building and Outreach Office, has been actively involved in the field of climate change mitigation particularly in the training course development since 2009. The developed training courses are for government sector, private sector, and other stakeholders. In addition, he has been supervised and managed various trainings and conferences; for example, National Climate Thailand Conference for 2010 and 2011 as well as initiated outreach and PR activities such as Climate Change Channel. Dr. Jakkanit has also working on many international projects related to climate change mitigation i.e. Barrier Removal to the Cost-Effective Development and Implementation of Energy Efficiency (BRESL) with UNDP, Project for Capacity Development and Institutional Strengthening for GHG Mitigation in the Kingdom of Thailand with JICA. Moreover, his current main responsibility is to effectively establish and manage Climate Change International Technical and training Center (CITC). Under the Ministry of Natural and Resources, Dr. Jakkanit has been designated as a committee on Criteria Development for Green Office, Criteria Development for Green Building, Low Carbon Design Housing, etc. Prior joining TGO, Dr. Jakkanit plays his role as a consultant on energy efficiency policy and implementation with Danish Energy Management (Denmark) and Alliance To Save Energy (USA).

能力開発・アウトリーチ室ディレクターとして、気候変動緩和の分野、特に2009年よりトレーニングコース開発に積極的に従事。政府部門、民間部門及びその他のステークホルダーのためにトレーニングコースを開発。気候変動関連のアウトリーチや広報活動のほか、2010年と2011年のタイ国家気候会議といった様々な研修や会議を監督・管理。現在、UNDPとエネルギー効率の費用対効果的な開発と実装のための障壁除去(BRESL)、JICAとタイにおけるGHG緩和のためのキャパシティ・ディベロップメント・制度強化プロジェクトなど、国際的なプロジェクトに取り組んでいる。さらに、気候変動国際技術とトレーニングセンター(CITC)の確立・管理も現在の任務のひとつである。また、天然資源省の下、グリーンオフィスやグリーンビルディングの基準の開発、低炭素デザイン住宅などの委員も務める。TGO入社以前は、エネルギー効率政策と実施におけるコンサルタントとして、デンマークエネルギー管理や省エネ連合(米国)と業務を行った。



#### Norichika Kanie 蟹江 憲史

Associate Professor, Department of Value and Decision Science, Graduate School of Decision Science and Technology, Tokyo Institute of Technology 東京工業大学大学院社会理工学研究科価値システム専攻准教授

Norichika Kanie is an associate professor at the Graduate School of Decision Science and Technology, Tokyo Institute of Technology, Japan. He is also a Senior Research Fellow at United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) in the Governance for Sustainable Development (GSD) programme. His research focuses on international environmental governance. Among others he serves as a scientific steering committee member of the Earth Systems Governance project, and as an editorial board member of the journal *Global Environmental Governance*. Currently he is a co-chair of the Working Party on Climate, Investment and Development (WPCID) at OECD. Since 1996 he has been a representative of Japan to air pollution regime negotiations in East Asia (EANET). From August 2009 to July 2010 he was a Marie Curie Incoming International Fellow of the European Commission and based in SciencesPo, Paris. He is the project leader of POST2015 project, a strategic research project of the Environmental Research and Technology Development Fund, Ministry of the Environment, Japan.

His recent publications include: "Integration and Diffusion in Sustainable Development Goals: Learning from the Past, Looking into the Future." *Sustainability* 6, no. 4: 1761-1775 (2014, Lead author); "Sustainable development goals for people and planet", *Nature*, 495: 305-307. (21 March 2013, co-author)

北九州市立大学助教授を経て現職。国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアリサーチフェローを兼務。欧州 委員会 Marie Curie Incoming International Fellow及びパリ政治学院客員教授(2009-2010)。現在 OECD 気候変 動・投資・開発作業部会共同議長、Earth System Governanceプロジェクト科学諮問委員、中央環境審議会専門委 員等を兼任。専門は政治学、国際関係論。特に、持続可能な開発目標やそのガバナンス、気候変動、アジアにお ける越境大気汚染に関する国際制度研究に重点を置く。現在、環境省環境研究総合推進費戦略研究プロジェクト S-11 (POST2015) プロジェクト・リーダーを務めている。近著書・論文に "Integration and Diffusion in Sustainable Development Goals: Learning from the Past, Looking into the Future." Sustainability 6, no. 4: 1761-1775 (2014, Lead author); "Sustainable development goals for people and planet", Nature, 495: 305-307. (21 March 2013, coauthor)



Norio Kanno 菅野 典雄 Mayor, litate Village, Fukushima Prefecture 福島県飯舘村長

He was born in litate village, Fukushima prefecture, Japan in 1946. He graduated from Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine in 1970. He served as the commissioned director of litate community centre for seven years from 1989 while he ran a dairy farm. During this time, he was involved in the "Wings for young wives" project, which sent young married women of the village to European farms for training. He has been mayor of litate since 1996. His aim is the reconstruction of litate village and for residents to rebuild their lives, having been forced to evacuate due to the Fukushima Daiichi nuclear power plant accident. His publications include "Radioactivity fell on a Beautiful Village (in Japanese)" etc.

1946年飯舘村生まれ。 1970年 帯広畜産大学卒業。 酪農を営みながら 1989年 から7年間、 飯舘村公民館の嘱託館 長を務める。この間、村内の若い既婚女性を欧州の農家に派遣・研修する「若妻の翼」事業に深くかかわる。1996 年10月飯舘村村長に当選、現在5期目。「までい」の心で、福島第一原発事故により避難を強いられている飯舘村 の復興、住民の生活再建を目指している。著書に「美しい村に放射能が降った」等。



Osamu Kawanishi 河西 修 Senior Policy Analyst. Environment Directorate. The Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) 経済協力開発機構 (OECD) 環境局上級政策分析官

He joined the OECD July 2012 as a secondment from the Japanese Ministry of Finance. At the OECD, he is working on the project on Institutional Investors and Green Growth, at the Climate Finance and Investment Team of the Climate, Biodiversity, and Water Division at the Environment Directorate. Prior to joining the OECD, he has worked on various policy issues including taxation, debt management, trade, international finance and development issues during the last 20 year career at the Ministry of Finance of Japan. The last position at the Ministry of Finance of Japan before joining the OECD was, Director, Coordination Office for Development Policy, the Ministry of Finance of Japan. Mr. Kawanishi is Japanese and has Masters degrees in European and Comparative Law from Oxford University and in European Studies from Cambridge University respectively, as well as L.L.B. from Tokyo University.

2012年7月、財務省よりOECD環境局に出向。OECD環境局では、機関投資家によるグリーンインフラ投資のプロ ジェクトを担当。財務省においては、主税局、国際局、理財局等において、主に国際課税、為替政策、開発政策、 国債管理政策等を担当。OECD出向直前は、国際局開発政策課開発政策調整室長として、開発政策のとりまとめを 担当。オックスフォード大学(修士・欧州比較法)、ケンブリッジ大学(修士・欧州論)、東京大学(法学士)。



**Jiang Kejun** ケジュン・ジャン Director, Energy Research Institute (ERI), China 中国能源研究所ディレクター

From 1993, Kejun Jiang began the research on climate change relative to energy policy analysis, which focus on energy technology policy assessment, energy supply policy assessment, renewable energy development and energy conservation. Started from 1994, he has worked on Integrated Assessment Model (IAM) development for energy and GHG emission scenarios, policies, focusing on China and global analysis. At present he is mainly working on policy assessment for energy and environment policy assessment by leading Integrated Policy Assessment Model for China (IPAC) team. Major focus includes energy and emission scenarios, energy policy, energy system, energy market analysis, and climate change, local environment policies and international negotiation. Started from 1997, worked with IPCC for Special Report on Emission Scenario and Working Group III Third Assessment Report, leader author for IPCC WGIII AR4 Chapter 3, and leader author for GEO-4 Chapter 2. Now he is CLA in IPCC AR5. His recent research projects include energy and emission scenarios for 2030, low carbon emission scenarios up to 2050, assessment on energy tax and fuel tax, potential for energy target in China, development of Integrated Policy Assessment model etc. He got his Ph.D in Social Engineering Department of Tokyo Institute of Technology.

1993年から、ケジュン・ジャン氏はエネルギー政策分析に関連した気候変動に関する研究を開始した。特にエネルギー技術政策評価、エネルギー供給政策評価、再生可能エネルギー開発及び省エネルギーに焦点を合わせていた。1994年から、中国及び大域分析を重点としたエネルギーと温室効果ガス排出シナリオ、また政策に関する統合評価モデル(IAM)の開発に取り組んできた。現在は主として中国の統合政策評価モデル(Integrated Policy Assessment Model for China: IPAC)チームを主導することでエネルギーと環境の政策評価を行っており、これらには主としてエネルギーと排出シナリオ、エネルギー政策、エネルギーシステム、エネルギー市場分析、また気候変動や地方の環境政策、国際交渉などが含まれている。1997年からは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の業務として排出シナリオに関する特別レポートや第3作業部会の第3次評価報告書に関与し、また、IPCC第3作業部会、第4次評価報告書の第3章のリードオーサーや、また、地球環境概況(GEO)4の第2章のリードオーサーとなった。現在同氏はIPCCの第5次評価報告書の統括執筆責任者(CLA)である。同氏の最近の研究プロジェクトには、2030年に向けたエネルギーと排出シナリオ、また2050年までの低炭素排出シナリオ、エネルギー税や燃料税、中国のエネルギーターゲットのポテンシャルの評価、統合政策評価モデルの開発等がある。東京工業大学の社会工学専攻において博士号を取得。



Nobuhiro Kino 本野 修宏 Director, Office of International Cooperation, Global Environment Bureau,

環境省地球環境局国際協力室長

Ministry of the Environment, Japan

Nobuhiro Kino holds a Master of Engineering (1996) at University of Tokyo and a Master of International Development Studies (2002) at National Graduate Institute for Policy Studies in Japan. He joined Ministry of the Environment in 1996 and he has moved to through various positions in the fields of chemical management, international environmental cooperation, and waste management, etc. After he served as Deputy Director of Chemical Evaluation Office (2007) and the Environmental Management Division on Global Environment (2009), he was assigned as Director of Recycling and Waste Management Division of Chubu Regional Office of the MOE in 2010. He worked for public relations and international cooperation issues regarding off-site decontamination project in response to the TEPCO Fukushima Daiichi NPS accident as a Deputy Director of International Cooperation and Public Relations Office for Decontamination (2012). In 2014, he took up the position of Director, Office of International Cooperation, Global Environment Bureau, Ministry of the Environment, Japan.

1996年東京大学大学院超伝導工学修士課程修了。環境庁入庁後、2002年政策研究大学院大学国際開発プログラムで国際開発学修士を取得。2007年環境省環境保健部化学物質審査室室長補佐、2009年地球環境局環境保全対策課課長補佐、2010年中部地方環境事務所廃棄物・リサイクル対策課長。2012年より、除染渉外広報室室長補佐として、福島第一原発事故後の環境中の放射性物質の除染事業に関する広報と国際協力を担当。2014年より現職。



# Michie Kishigami 岸上 みち枝

Director, ICLEI – Local Governments for Sustainability Japan Office イクレイ - 持続可能性をめざす自治体協議会 日本事務所 (一般社団法人 イクレイ日本) 事務局長

After working for various projects on promoting internationalization of local communities in a private foundation, Ms. Kishigami joined ICLEI – Local Government for Sustainability in April 2000 as the Managing Director of Japan Office and have been in a current position as the Director since July 2004. She is in charge of project development in Japan, East Asia and Southeast Asian countries with other ICLEI offices for global/regional projects and events. The featured projects focus on local climate actions such as promoting low-carbon cities and adaptation initiatives. She holds B.A. in Management from University of Geneva, Switzerland, and an M.A. in Economics specialized in Development Economics from Hosei University, Japan.

民間財団で地域の国際化促進プログラムに従事した後、2000年4月より「イクレイー持続可能性をめざす自治体協議会」日本事務所マネージング・ディレクターを務め、2004年7月に事務局長に就任。他地域のイクレイ事務所と連携・協力しながら、特にアジア地域の低炭素都市や気候変動適応策推進をテーマとした事業を展開。ジュネーブ大学社会経済学部卒業(経営学専攻)、法政大学大学院経済学修士課程卒業(国際開発コース専攻)。



#### Jan Ole Kiso ヤン・オーレ・キソ

Senior Policy Advisor, 2050 Team, UK Department of Energy and Climate Change 英国エネルギー・気候変動省 2050チーム 主任政策アドバイザー

Dr. Jan Ole Kiso is Senior Policy Advisor in the 2050 Team of the Department of Energy and Climate Change (DECC) of the UK Government. The 2050 Calculator is an open-source and easy-to-use energy and emissions model, which the UK published in 2009. Jan is working with international partners to develop their own personalised 2050 Calculators. The work included development of a 'Global Calculator' which directly links energy choices with the challenge of climate change. Before his time in DECC, Jan worked in the Prime Minister's Strategy Unit in the UK Cabinet Office as well as in the investment banking sector. He attained his Ph.D. in International Relations from Cambridge University.

英国ケンブリッジ大学にて博士号取得後(国際関係論)、投資銀行や内閣府首相戦略部門での勤務を経て、現職の 英国エネルギー気候変動省2050チーム主任政策アドバイザーとなる。キソ博士は、英国が2009年に開発した「2050 カリキュレーター」(エネルギー・ミックス及び温暖化ガス排出レベルを算出出来るツール)を元に、各国がそれぞれ の状況にあわせたカリキュレーターを作成し、将来的なエネルギーミックス議論が出来るよう国際的な啓発活動に 尽力している。又、現在は、地球規模でのエネルギー需給の選択肢を考える「グローバル・カリキュレーター」の 開発にも取り組んでいる。



# Hidehiro Kitayama 北山 英博

Leader, Heat Pump Sales Section of unimo Products Department, Higashi Hiroshima Plant, MAYEKAWA MFG. CO., LTD. 株式会社前川製作所 東広島工場ユニモ事業化部門 営業グループ リーダー

After joining the company in 1994, he was engaged in the development of NH<sub>3</sub>-CO<sub>2</sub> Cascade Refrigerating System and CO<sub>2</sub> heat pump air heater. Since 2013, he has moved to the present post and has been engaged in the planning and sale of the heat pump technologies. He has also been serving as the visiting researcher at IGES since 2011, and as the board member at Japan Society of Refrigerating and Air Conditioning Engineers (JSRAE) since 2013.

1994年(株)前川製作所入社。NH<sub>3</sub>-CO<sub>2</sub>二元冷凍システムの開発、CO<sub>2</sub>熱風ヒートポンプの開発等を経て、2013年より現部署にてヒートポンプ技術を核とした企画・販売に従事。2011年より(公財)地球環境戦略研究機関客員研究員兼務。2013年より(公社)日本冷凍空調学会理事兼務。



## Kazuhisa Koakutsu 小虾 -久

Leader / Principal Policy Researcher, Climate and Energy Area, IGES IGES 気候変動とエネルギー領域エリア・リーダー/上席研究員

Master of Energy and Environmental Policy from School of Public Policy and Urban Affairs, the University of Delaware in the United States. Bachelor of Arts in Economics. After joining IGES from 2004, He has been engaging in the research activity on climate policy related to market mechanisms (e.g. clean development mechanism (CDM) and Joint Crediting Mechanism (JCM)), institution and methodology, and has been implementing the capacity building activities in Asia.

米国デラウエア大学にて環境エネルギー政策の修士号取得後、2004年よりIGES に勤務。経済学学士。気候変動に関する政策研究を行うと共に、アジアにおける能力構築事業に携わる。特に、気候変動対策における市場メカニズム (クリーン開発メカニズム (CDM) や二国間クレジット制度 (JCM)) についての制度や方法論の分野を担当。



# Masanori Kobayashi 小林 正典

Fellow, Yokohama National University Graduate School of Environment and Information Sciences / Researcher, Ocean Policy Research Foundation 横浜国立大学大学院環境情報研究院非常勤教員/海洋政策研究財団研究員

He was Associate Professor at YNU, worked for IGES, the Secretariat of the UN Convention to Combat Desertification, the UN Division for Sustainable Development, and the Japanese Ministry of Foreign Affairs - Permanent Mission of Japan to the UN in New York. He holds LL.M (Master in Law), M.A. in international economic laws and public administration, and B.A in laws and economics and withdrew from the doctor program in agriculture and life sciences. Latest publications include Participatory Sustainability Research for Risk Management and Leadership Development. 2014. In: Kaneko, N. et al. eds, Sustainable Living with Environmental Risks. (Springer)

横浜国立大学特任准教授を務めた他、IGES、国連砂漠化対処条約事務局、国連持続可能な開発部、外務省ニューヨーク国連代表部にて勤務。法学修士、行政学修士。農学生命科学博士課程単位取得満期退学。環境・持続可能性政策に関する研究を行う。最近の著書に Participatory Sustainability Research for Risk Management and Leadership Development(金子他共著 Sustainable Living with Environmental Risks、Springer 社出版に所収)。



# Satoshi Kojima 小嶋 公史

Principal Policy Researcher, Programme Management Office, IGES IGESプログラム・マネージメント・オフィス上席研究員

Dr. Kojima graduated from the University of Tokyo with a Master of Engineering. After engaging in water and environment related official development assistance (ODA) projects in several countries including Indonesia and Hungary, he studied environmental economics at the University of York in the United Kingdom. After receiving a Ph.D. of Environmental Economics, he joined IGES in 2005 and has engaged mainly in quantitative policy analysis of sustainable development policy in East Asia. He published a book "Sustainable Development in Water-stressed Developing Countries: A Quantitative Policy Analysis" from Edward Elgar Publishing in 2007.

東京大学大学院工学系研究科修士課程修了(工学修士)、英国ヨーク大学環境学部博士課程修了(Ph.D.)。1994 年より株式会社パシフィックコンサルタンツインターナショナルにおいて、コンサルティング技師としてインドネシ ア、ハンガリーなどで上下水道・環境保全分野での政府開発援助プロジェクトに従事。その後、英国ヨーク大学 で博士号 (環境経済学) を取得後、2005年よりIGES 勤務。主に東アジア地域の持続可能な開発に関する定量的政 策分析に従事。専門は環境経済学、環境・開発政策評価。著書に「Sustainable Development in Water-stressed Developing Countries: A Quantitative Policy Analysis (2007年Edward Elgar社)」がある。



Jiro Kokuryo 國領 二郎

Vice-President / Professor of Faculty of Policy Management, Keio University 慶應義塾大学常任理事/総合政策学部教授

Professor Jiro Kokuryo, Vice-President of Keio University, is concurrently a professor at the Faculty of Policy Management. He joined Keio in 1993 as an associate professor at the Graduate School of Business Administration, where he was appointed professor in 2000. He served as Executive Director of the Keio Research Institute at SFC (2005-2009) and Dean of the Faculty of Policy Management (2009-2013), before being appointed Vice-President for International Collaboration and Education in 2013. Vice-President Kokuryo graduated from the University of Tokyo in 1982 and acquired a Doctor of Business Administration (1992) from Harvard Business School while an employee of Nippon Telegraph and Telephone Corporation (1982-1993). His major publications in Japanese include "Open Architecture Strategy," Diamond Inc. (1999), and "Business Strategy in an Onymous Economy," Nikkei Publishing Inc.

1982年東京大学経済学部卒。日本電信電話公社入社。92年ハーバード・ビジネス・スクール経営学博士。93年 慶應義塾大学大学院経営管理研究科助教授。2000年同教授。2003年同大学環境情報学部教授などを経て、09年 総合政策学部長。2005年から2009年までSFC研究所長も務める。2013年より慶應義塾常任理事に就任。主な 著書に「オープン・アーキテクチャ戦略」(ダイヤモンド社、1999年)、「ソーシャルな資本主義」(日本経済新聞社、 2013年) がある。



Yuji Kuroiwa 黑岩 祐治

Governor, Kanagawa Prefectural Government 神奈川県知事

After Graduated from School of Political Science and Economics, Waseda University, He entered Fuji Television Network, Inc. He then became a TV program director, and took the position of newscaster at "FNN Super Time" in 1988. He stayed as the anchorperson at the Sunday morning political talk show program "Hodo 2001" for five years.

In Sept. 2009, Mr. Kuroiwa resigned from Fuji Television Network putting an end to his 21-and-a-half-year career as a newscaster and over 15 years of involvement in "Hodo 2001" and "Shin-Hodo 2001". He assumed the post of professor at the International University of Health and Welfare Graduate School. He left the post to run for the gubernatorial election of Kanagawa Prefecture. In Apr. 2011, he was inaugurated as Governor of Kanagawa Prefecture.

早稲田大学卒業後、フジテレビジョンに入社。昭和63年より、「FNNスーパータイム」や「報道2001」のキャスターに。平成21年9月、「(新)報道2001」15年あまりの歴史に幕を閉じ、退社。国際医療福祉大学大学院教授に転身。神奈川県知事選立候補のため、退職。平成23年4月、神奈川県知事に就任。



**Kuang-Chung Lee** クアンチュン・リー (李 光中) Associate Professor, National Dong-Hwa University 国立東華大学准教授

Dr. Lee graduated in 1989 from the National Taiwan University in Geography, and worked for the nature conservation division of the Council of Agriculture (COA) and the Taroko National Park Headquarters in Taiwan from 1991 to 1997. He got his PhD in the Geography Department of University College London in 2001, and is currently Associate Professor at the Department of Natural Resources and Environmental Studies of National Dong-Hwa University, Taiwan. From 2002 to the present, he has led and carried out about 20 research projects which mainly focused on community participation, stakeholder analysis, collaborative planning and management of different IUCN categories of protected areas in Taiwan, cultural landscape conservation as well as the Satoyama Initiative. A member of IUCN-WCPA since 2006 and the IPSI contact person of National Dong-Hwa University since 2011.

1989年に台湾国立大学にて地理学修士号を修め、1991年から1997年まで台湾の農業委員会の自然保護部門及び太魯閣国立公園本部に勤務。2001年にはロンドン大学地理学科にて博士号を取得し、現在は国立東華大学にて天然資源・環境科学部の准教授を務める。2002年から現在まで、主にコミュニティ参画、ステークホルダー分析、国際自然保護連合(IUCN)の様々な保護地域カテゴリーにおける参加型管理計画や、文化的景観の保全、SATOYAMAイニシアティブ等に焦点を当てた20以上の研究プロジェクトを率いてきた。2006年にはIUCN-WCPAのメンバーに加わり、また、2011年以降は国立東華大学におけるSATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップの窓口役を担っている。



# Bundit Limmeechokchai ブンディット・リミーチョクチャイ

Co-coordinator, Sustainable Energy & Low Carbon Research Unit (SELC), Sirindhorn International Institute of Technology (SIIT), Thammasat University

タマサート大学シリントーン国際工学部 (SIIT) 持続可能なエネルギーと低炭素研究科 共同コーディネーター

Dr. Bundit Limmeechokchai had served SIIT as co-coordinator of mechanical engineering program and energy technology program during 1996-2011. Globally, he serves as a member in Expert Review Team (ERT) on UNFCCC National Communications and Biennial Reports, and reviewer in several international energy/environment journals. He also locally serves the Thai society for several government committees such as Clean Development Mechanism (CDM), Low-Carbon City, and Environmental Impact Assessment (EIA) of energy system, Thailand NAMA of Ministry of Natural Resources & Environment etc.

Dr. Bundit Limmeechokchai graduated from Asian Institute of Technology (AIT) Thailand with D.Eng. (Energy Economics and Planning), and M.Eng. (Energy Technology). He obtained his B. Eng. (Mechanical Engineering, 1st class honour) from KMIT North Bangkok.

His research expertise in 25 years includes renewable energy, energy efficiency, energy economics planning and policy, integrated resource planning, modelling of energy and environment systems, low-carbon technologies, and CO<sub>2</sub> mitigation. Since 2010 he has joined the researches with the Asia-Pacific Integrated Model (AIM) team of the National Institute for Environmental Studies (NIES) Japan on low carbon development in Asia. He is presently developing the

CO<sub>2</sub> countermeasures for Nationally Appropriate Mitigation Actions (NAMAs), peak CO<sub>2</sub> scenario, and low-carbon green growth for sustainable Thailand 2050.

SIITの機械工学プログラム及びエネルギー技術プログラムの共同コーディネーターとして、1996年から2011年まで 従事。世界的には、UNFCCCの国別報告書及び隔年報告書に関する専門家審査チーム(ERT)のメンバーとして、 また、エネルギーや環境に関する国際的なジャーナルの査読者として活躍。同氏はまた、タイの政府委員会、例えば、 クリーン開発メカニズム (CDM)、低炭素社会、エネルギーシステムの環境影響評価 (EIA)、タイ天然資源環境省の 国家緩和行動等に関与してきた。

アジア工科大学(AIT)においてエネルギー技術の工学修士号、及びエネルギー経済と計画の工学博士号を取得。 また、バンコク北部にあるKMITにて総代で機械工学の学士号を取得。

同氏は25年間研究者として再生可能エネルギー、エネルギー効率、エネルギー経済計画と政策、統合的資源管理、 エネルギーと環境システムのモデル解析、低炭素技術、また二酸化炭素削減といったテーマに従事。2010年から 日本の国立環境研究所が行っているアジアの低炭素発展についてアジア太平洋統合モデル(AIM)チームとの協働 を行っている。現在、国家削減計画 (NAMA) の二酸化炭素削減対策、CO<sub>2</sub>のピークシナリオ、及び持続可能なタイ 国2050年に向けた低炭素グリーン成長に関する研究を行っている。



#### Toshizo Maeda 前田 利蔵

Leader / Principal Policy Researcher, Sustainable Cities Area, Kitakyushu Urban Centre, IGES IGES 北九州アーバンセンター 持続可能な都市領域エリア・リーダー/上席研究員

Toshizo Maeda is a Principal Policy Researcher of the IGES Kitakyushu Urban Centre specialized in urban environmental management and local environmental policies (P. E. Jp (Environmental Engineering)). Before joining IGES, he worked for UNDP Malaysia Office as a program manager of the Energy and Environment Cluster, a consulting firm as a civil engineer and Japan Overseas Cooperative Volunteers program as a high school teacher in Ghana. He graduated from Sanitary Engineering Division, Hokkaido University, and obtained a Masters Degree on Environment, Development and Policy from Sussex University.

専門は都市環境管理や都市環境政策 (技術士 衛生工学)。 これまで UNDP マレーシア事務所にて環境とエネルギー 分野のプログラムマネージャー、民間コンサルタント会社にて土木・都市環境技師、青年海外協力隊にてガーナ国 の高校教師を務める。 北海道大学工学部衛生工学科卒、サセックス大学大学院環境・開発政策修了。



# Paul Ofei-Manu ポール・オフェイ・メヌ

Policy Researcher, Education and Learning for Sustainability, Integrated Policies for Sustainable Societies Area / Programme Officer, Capacity Development, Programme Management Office, IGES IGES 持続可能な社会のための政策統合領域研究員(持続可能性のための学習と教育)/ IGESプログラム・マネージメント・オフィスプログラムオフィサー(能力開発)

Dr. Paul Ofei-Manu has backgrounds in agro-ecological sciences (PhD, MSc) and sustainability management (MSc). He was a team member of the collaborative research project to develop Education for Sustainable Development (ESD) Monitoring and Evaluation Framework and Indicators for the Asia-Pacific region. Current research areas include multi-country studies on Education for Sustainable Consumption (ESC), quality education and the SDGs, capacity assessment in DRR and also in SD/ESD implementation as well as DRR-climate change adaptation linkages. Paul was also a researcher of sustainability at Miyagi National University of Education (MUE) in Sendai, Japan for four years till March 2014, having served previously as a guest lecturer for two years. He was previously a Senior Research/ Teaching Assistant in a research centre of the University of Ghana.

アジア太平洋地域における持続可能な開発のための教育(ESD)モニタリング・評価枠組みと指標構築に関する協力プロジェクトの元メンバー。2010年より2014年3月まで国立大学法人宮城教育大学(仙台)において持続可能性に関する客員研究員。ガーナ大学研究センターにおいて上席研究員も務めた。現在、持続可能な消費に関する教育(ESC)や質の高い教育及び持続可能な開発目標(SDGs)のほか、災害リスク削減(DRR)・DRR及び気候変動適応の相互関係性・持続可能な開発・ESD実施に関わる能力評価に関する研究に携わる。農業生態学修士・博士及び持続可能性管理学修士。



# Toshihiko Masui 增井 利彦

Head, Center for Social and Environmental Systems Research (Integrated Assessment Modeling Section), National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター(統合評価モデリング研究室) 室長

Dr. Toshihiko Masui is Head of Integrated Assessment Modeling Section, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES). He received his doctorate degree (engineering) from the Graduate School of Engineering, Osaka University in 1997. He joined NIES in 1998. He assumed the post of Head of the Integrated Assessment Section, Social and Environmental Systems Division in NIES in 2006, and has been in his current position since 2011. He was Coordinate Associate Professor at Tokyo Institute of Technology (Titech) from 2000 and 2014, and is Coordinate Professor at Titech from 2014. Has engaged in the development of the Asia-Pacific Integrated Model (AIM), an integrated assessment model since 1998. He contributed to the IPCC Fifth Assessment Report as a lead author of the IPCC Working Group II. He also serves as a member of expert panel of the Post-2013 Mid-Term Policymaking Subcommittee, Central Environmental Council, the Ministry of the Environment, Japan.

1997年に大阪大学大学院博士後期課程修了(博士(工学))。1998年に国立環境研究所に入所し、2006年に同社会環境システム研究領域統合評価研究室長、2011年より現職。2000年から2014年まで東京工業大学連携准教授、2014年から同連携教授。国立環境研究所では、1998年から統合評価モデルであるAIM(アジア太平洋統合モデル)の開発に従事。IPCC第5次評価報告書執筆者。環境省中央環境審議会の専門委員(2013年以降の対策・施策に関する検討小委員会等)も務める。



### Tadashi Matsumoto 松本 忠

Senior Policy Analyst, Regional Development Policy Division, The Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) 経済協力開発機構 (OECD) シニア・ポリシーアナリスト

Tadashi Matsumoto is currently in charge of the OECD project *Urban Green Growth in Dynamic Asia* under the OECD Green Cities Programme. He is the main author of the OECD's publication *Compact City Policies: A Comparative Assessment* (2012). He also contributed to a number of urban research projects including *Green Growth in Cities* (2013), *Cities and Climate Change* (2010), since joining the OECD in 2009. Before that, he had been engaged in urban planning, housing and building policies at the Japanese Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism for more than ten years. He holds a MUP (Urban Planning) from New York University and Ph.D. from Tokyo University (Engineering). He also studied at the Royal Institute of Technology, Stockholm. He lectures at Tsukuba University, Japan, and SciencesPo, France.

1995年東京大学大学院修了、2008年博士(工学)。1993年~94年スウェーデン王立工科大学留学、2002年ニューヨーク大学公共政策大学院修了。1995年建設省(国土交通省)入省、2009年より現職。OECDレポート:コンパクトシティ政策(2012)の主筆を担当したほか、都市と気候変動(2010)、都市のグリーン成長(2013)等に携わる。現在、OECDグリーンシティプログラム「躍動するアジア都市のグリーン成長」を担当。筑波大学客員教授、パリ政治学院非常勤講師。



Kazuo Matsushita 松下 和夫 Senior Fellow, IGES / Professor Emeritus, Kyoto University IGESシニアフェロー/京都大学名誉教授

Prof. Matsushita served as Professor of Global Environmental Policy at the Graduate School of Global Environmental Studies of the Kyoto University, from November 2001 to March 2013. He graduated from the Tokyo University and obtained MA in political economy from the Johns Hopkins University. He joined the Environment Agency in 1972 and served as the Director of the Air Pollution Control Division and the Global Environment Policy and Cooperation Division. He also worked at the OECD, UNCED and IGES. His research focuses on green economy and environmental policy integration for sustainable society. His publication includes "A Journey to Global Environmental Studies", "An Introduction to Environmental Policy", "Environmental Governance", "Introduction to Environmental Politics", "Environment in the 21st Century and New Development Patterns" (in English). He is also a member of the Board, The Environmental Consortium for Leadership Development (EcoLeaD), as well as a member of the Board of Trustees of the Environmental Innovation and Communication Organization.

1948年生。2001年11月から2013年3月まで京都大学大学院地球環境学堂教授(地球環境政策論)。1971年東京 大学経済学部卒業、1976年ジョンズ・ホプキンス大学大学院政治経済学修士課程修了。1972年より環境庁勤務、 大気規制課長、環境保全対策課長等歴任。OECD環境局、国連環境開発会議上級計画官、IGES等でも勤務。持続 可能な社会に向けたグリーン経済論や環境政策を研究。主著に「環境政策学のすすめ」、「環境ガバナンス」、「環境 政治入門」、「地球環境学への旅」、「Environment in the 21st Century and New Development Patterns」 など。環境 人材育成コンソーシアム幹事及び(一財)環境イノベーション情報機構評議員も兼ねる。



Hideyuki Mori 森 秀行 President, IGES IGES所長

Mr. Hideyuki Mori is a graduate of the School of Engineering, Kyoto University. He joined IGES in 2003. Prior to joining IGES, he served as Environment Specialist at the Asian Development Bank, Senior Environmental Coordinator of the United Nations High Commissioner of Refugees, Director of the Office of Research and Information at the Global Environment Issues Division of the Environment Agency of Japan (present Ministry of the Environment) and as Portfolio Manager of the Division of GEF at the United Nations Environment Programme. He has served as the President of IGES since 2010.

京都大学大学院工学部工業化学科修士課程修了。1977年環境庁(現環境省)入庁。アジア開発銀行環境専門官、 国連高等難民弁務官、環境庁企画調整局地球環境部環境保全対策課研究調査室長、国連環境計画GEF担当ポート フォリオマネージャーなどを経て、2003年にIGES長期展望・政策統合プロジェクトリーダーに就任。2010年4月より 現職。



Naoki Mori 森 尚樹

Head, Climate Change Office / Group Leader, Environmental Management, Global Environment Department, Japan International Cooperation Agency (JICA) 国際協力機構 (JICA) 地球環境部 気候変動対策室長 兼 環境管理グループ長

Mr. Naoki Mori is Head of Climate Change Office and Group Leader of Environmental Management of Global Environment Department of JICA, Japan International Cooperation Agency. Mr. Mori has been engaged in Official Development Assistance for about 30 years including overseas assignment in Bangladesh, Vietnam, China and USA. From 2011 to 2013, he was a lead coordinator of the Climate Change Program in Vietnam co-financed by The World Bank, France, Canada, Australia, Korea and Japan. He received the National Friendship Award Medal from the Chinese government in 2005 for his achievement as an environment expert in China.

現在、国際協力機構(JICA)地球環境部の気候変動対策室長兼環境管理グループ長を務める。過去30年間にわたり政府開発援助(ODA)に携わってきており、この間、バングラデッシュ、ベトナム、中国、アメリカで海外勤務。2011年から2013年の間、JICAが支援するベトナム気候変動対策プログラムの現地リード・コーディネーターとして、ベトナム関係省庁とともに、同プログラムの協調融資機関である世界銀行、フランス、カナダ、オーストラリア、韓国との調整に従事。2005年には中国における環境専門家としての活動が評価され、中国政府から国家友誼賞を受賞した。



### Akio Morishima 森島 昭夫

President and Director General, Japan Environment Association / Special Research Advisor, IGES 日本環境協会会長・理事長/IGES特別研究顧問

Prof. Akio Morishima graduated from the University of Tokyo School of Law and the Harvard Law School and is the former president of the Central Environmental Council, Japan. He served as professor at Nagoya University and Sophia University, Japan.

Since 1993 he has also been involved in the Central Environment Council of Japan as the Chairman of the Policy Planning Committee, and he served as President of the Council from 2000 to 2005. For nine years from 1998, he served as the first Chair of the Board of Directors at IGES. He is currently serving as the Special Research Advisor for IGES, the President & Director General of Japan Environment Association.

1934年生まれ。前中央環境審議会会長。1958年東京大学法学部卒。1968年ハーバード大学ロースクール法学修士。 1971年名古屋大学法学部教授に就任し、1988年~1990年法学部長、1994年~1996年同大学大学院国際開発研究 科長を務める。上智大学法学部教授等を経て、1998年から2007年3月まで初代IGES理事長を務める。2000年~ 2005年中央環境審議会会長。著書に『不法行為法講義』『医療と人権』(いずれも有斐閣) 他多数。2007年6月より 日本環境協会会長、2010年4月より同理事長を兼任。



## lyngararasan Mylvakanam インガララサン・ミルヴァカナム

Regional Coordinator, United Nations Environment Programme Regional Office for Asia and the Pacific (UNEP-ROAP)

国連環境計画アジア太平洋地域事務所 (UNEP-ROAP) 地域コーディネーター

Mr. Mylvakanam lyngararasan is the regional coordinator for chemicals and waste related multilateral environmental agreements (MEAs) in the Asia and the Pacific Region. As the regional focal point, he facilitate a coordinated implementation of UNEP's and the chemicals and waste related MEA's programmes and facilitate the implementation of those MEAs in the region in tune with national and regional priorities. He also supports the implementation of air pollution related activities of UNEP. He has twenty years' experience in contributing to the development of science, capacity and international agreements on various environmental issues. He holds a Master of Engineering degree from School of Civil Engineering, Asian Institute of Technology, Bangkok, Thailand and a BSc (Agricultural Engineering) from the University of Peradeniya, Sri Lanka.

アジア太平洋地域における化学物質及び廃棄物に関する多国間環境協定の促進及び国家・地域的なプライオリティ と調和した実施、そして UNEP の大気汚染関連活動の実施サポートを担当している。工学修士号 (タイ・アジア工科 大学) 及び農業工学学士号 (スリランカ・パラデニア大学) を取得しており、様々な環境問題に関する国際協定及び 化学・能力の発展において、20年間の経験を有している。





# Yoshiyuki Nagata 永田 住之

Professor, Department of Education, University of the Sacred Heart / Expert, Monitoring and Evaluation Expert Group on ESD, UNESCO Headquarters 聖心女子大学教授/ユネスコ本部 ESD モニタリング評価専門家会合委員

Dr. Nagata's research has been devoted to alternative or sustainable type of education with a special interest in holistic approaches to implement and evaluate Education for Sustainable Development (ESD) and others. He also served as an expert to promote ESD in Lao PDR in collaboration with a local government and NPO with the Japanese Government's ODA, and to jointly create 'HOPE (Holistic, Ownership-based, Participatory and Empowering)' methodology, an endogenously developed ESD monitoring and evaluation approach under the initiatives of ACCU (Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO), and as an editor of the project report, Tales of HOPE II with a variety of case studies in Asia and the Pacific. Also he is the author of Alternative Education: Global Perspectives Relevant to the Asia-Pacific Region (Springer). His other publication includes articles on the issues of ESD. He is a board member of the Japan Association for International Education, and a council member of the Development Education Association and Resource Centre (DEAR) in Japan.

教育学博士。聖心女子大学教授。ユネスコ本部ESDモニタリング評価専門家会合委員、日本国際理解教育学会常任 理事、開発教育協会評議員、NPO法人ブリッジ・フォー・ピース理事のほか、国際交流基金やユネスコ・アジア文化 センター等で専門委員等を務める。近年、日本政府のODAによる、ラオスにおけるESDの教員養成や教材開発に 従事。東日本大震災後、ユネスコ等の支援により陸前高田市でレジリエントなコミュニティ形成の活動に取り組む。

専門は、比較教育学、国際理解教育論、国際教育協力。同時多発テロ事件後の国際理解教育のあり方を論じた論 文「国際理解教育をとらえ直す一グローバリゼーション時代における国際理解教育の再構築に向けて一」で第29回 国際理解教育賞最優秀賞を授賞。主な著書に『国際教育協力を志す人のために』(共著、学文社)、『オルタナティブ 教育:国際比較に見る21世紀の学校づくり』(単著、新評論)、『持続可能な教育社会をつくる』(共編者、せせらぎ出版)、 『持続可能な教育と文化:進化する環太平洋のESD』(共編者、せせらぎ出版)、『未来をつくる教育ESD:持続可 能な多文化社会を目指して』(共著、明石書店)、『グローバル時代の国際理解教育』(共著、明石書店)、Alternative Education: Global Perspectives Relevant to the Asia-Pacific Region (単著、Springer) 等。



# Miho Nakajima 中島 美穂

Assistant Manager, Urban Environment Section, Kawasaki Environment Research Institute 川崎市環境局環境総合研究所都市環境課 担当係長

She was graduated from the Faculty of Science at Tokyo University of Science in 1998, and joined Kawasaki city government in the same year. She has engaged in environmental administration such as air pollution, chemical substances and global warming issues. She has been posted in a current position since April 2013 and is in charge of research on global warming countermeasures and heat island effects in Kawasaki city.

1998年東京理科大学理学部卒。同年川崎市に入庁。大気汚染対策、化学物質対策、地球温暖化対策など環境行 政に携わり、2013年4月より現職。現在は、川崎市における地球温暖化対策やヒートアイランド現象に関する調査 研究を担当。



## Ryoko Nakano 中野 綾子

Deputy Area Leader / Senior Policy Researcher, Integrated Policies for Sustainable Societies Area, IGES IGES 持続可能な社会のための政策統合領域副工リアリーダー/主任研究員

Ryoko Nakano is a Senior Researcher in the Integrated Policies for Sustainable Societies Area at IGES. She currently covers governance in cities with a focus in stakeholder engagement and institutional design for the energy sector. Before joining IGES, she was Assistant Professor for the Nagoya University Global Environmental Leadership Program. She studied International Economics and Environmental Policy at the Johns Hopkins University, School for Advanced International Studies.

2013年のIGES入所以来、都市における環境ガバナンス、エネルギー分野におけるステークホルダーの参画と制度 デザイン等を中心に担当。これ以前には名古屋大学の国際環境人材育成プログラムの助教を担当。ジョンズ・ホプ キンズ大学高等国際問題研究院で国際経済及び環境政策の修士課程を修了。現在、持続可能な社会のための政策 統合領域の主任研究員を務める。



### Shuzo Nishioka 西岡 秀三

Secretary General, International Research Network for Low Carbon Societies (LCS-RNet) and Low Carbon Asia Research Network (LoCARNet) / Senior Research Advisor, IGES 低炭素社会国際研究ネットワーク・低炭素アジア研究ネットワーク事務局長 / IGES 研究顧問

Dr. Nishioka graduated from University of Tokyo 1962, with a PhD. in Control Theory. After 12 years engineering experience in Asahi Chemical Co. Ltd, he joined the National Institute for Environmental Studies of Japan (NIES), where his research areas were regional and global environmental assessment and environmental policy. He served as professor at the Tokyo Institute of Technology and Keio University from 1997-2001, and as Executive Director of NIES from 2001-2007. Presently, he is Chairman of the Environment Council of Tokyo Metropolis and a Member of the Central Council of Environment, Japan. From the late 1980's, he devoted his career to climate change issues and was engaged in IPCC from 1988 to 2007 mainly in impact assessment methodology. In 2004-2009, he led strategic research on Japan Low Carbon Society Project, to explore the scenario of 70% GHG reduction in 2050 in Japan. This work was extended to the Prime Minister Fukuda's Low Carbon Society policy (60-80% reduction in 2050) declared at the Toyako G8 Summit. His recent work focuses on international collaboration for supporting Asian countries in their efforts to leap-frog to a low-carbon society.

1962年東京大学機械工学科卒、工学博士(制御理論)。旭化成工業勤務後、国立環境研究所にて都市及び地球環境政策研究に従事、東京工業大学・慶応義塾大学大学院教授、国立環境研究所理事を経て現職。東京都環境審議会会長、中央環境審議会専門委員。1980年代後半からIPCC等で気候変動問題に取り組み、温暖化影響評価・適応策ガイドライン主執筆者(IPCC1994)、日本低炭素シナリオ戦略研究リーダー(2004-2009)、気候変化予測「革新」プロジェクト共同統括(2007-2011)。現在は、気候変動分野の研究コミュニティと政策を結ぶ「低炭素社会研究ネットワーク」を先進国とアジアに展開中。著書に「日本低炭素社会へのシナリオー二酸化炭素70%削減の道筋」(日刊工業新聞社)、「低炭素社会のデザイン」(岩波新書)等。



Norihiko Nomura 野村 宜彦

Executive Director, Climate Change Policy Headquarters, City of Yokohama 横浜市温暖化対策統括本部長

Mr. Nomura joined City of Yokohama in 1981 and he has been in the divisions of sewerage, rail and city planning. After he engaged in top management strategy planning, he served as Director of the Secretarial Department and Deputy Director General of Environmental Planning Bureau. He has lead Y-PORT project, which is an international technical cooperation project based on public-private partnership and drawing on the resources and technology of Yokohama as Director of Center of Co-Governance and Creation Office from 2012 to 2014. Since April 2014, he is Executive Director of Climate Change Policy Headquarters. Professional Engineer JP (Sewerage).

1981年横浜市役所入庁。下水道事業、鉄道、都市計画に従事。市長のブレーンとしてトップマネジメント戦略立案 に携わり、秘書部長、環境創造局副局長を歴任。2012年より政策局共創推進室長として、横浜の資源・技術を活用 した公民連携による国際技術協力 (「Y-PORT事業」) を推進。2014年4月から現職。技術士 (上下水道部門)。



## Ligia Noronha リジア・ノロンハ

Director, United Nations Environment Programme's Division of Technology, Industry and Economics (UNEP-DTIE) 国連環境計画 技術・産業・経済局 (UNEP-DTIE) 局長

Ligia Noronha was appointed Director of UNEP's Division of Technology, Industry and Economics (DTIE) in April 2014. Before joining UNEP, she was Executive Director (Research Coordination) at TERI and Director of the Resources, Regulation and Global Security Division. She has also held positions at the Asian Energy Institute, the Renewable Energy and Energy Efficiency Partnerships (REEEP) South Asia, and at the Centre for International Security Studies (CISS), University of Sydney, Australia. She has served on the National Security Advisory Board of the Government of India, and on several expert committees and panels of the Government of India and the Government of Goa. She has a Masters in Economics from the University of Bombay, a Masters in Sea Use Law, Economics, and Policy, and a PhD from the London School of Economics.

2014年4月より現職。これまでにアジアエネルギー機構、再生可能エネルギー・エネルギー効率パートナーシップ (REEEP) 南アジア、シドニー大学国際安全保障研究センター等を経て、インド・エネルギー資源研究所 (TERI) エグゼクティブ・ディレクター、同資源・規制・グローバルセキュリティー局長を務める。インド政府国家安全保障 諮問委員会をはじめ、インド政府やゴア州政府の専門家委員会委員等を歴任。ボンベイ大学にて経済学修士号、 ロンドン大学経済政治学院(LSE)にて修士号・博士号取得。



### Simon Olsen サイモン・オルセン

Task Manager / Senior Policy Researcher, Regional Centre, IGES IGESバンコク地域センター タスクマネージャー/主任研究員

Since 2010 he has researched and published papers on environmental governance, as well as institution building for cooperation on environment and sustainable development, both globally and regionally for Asia and the Pacific. He is also a contributing author to UNEP's Fifth Global Environmental Outlook Asia-Pacific, where he had the opportunity to co-author the Asia-Pacific chapter's section on governance. Prior to working with IGES he spent three years working for the UN Economic and Social Commission for Asia and the Pacific. There he was granted the opportunity to undertake capacity building on Green Growth policy tools. During that time he also helped draft Cambodia's National Green

Growth Roadmap. Simon is interested in culture and languages. He has a Masters Degree in Southeast Asian Studies from University of Copenhagen and has taken several additional university courses on climate change impacts, and EU environmental management.

国連アジア太平洋経済社会委員会にて3年間勤務し、グリーン成長政策ツールのキャパシティ・ビルディングに取り組む一方でカンボジアの国家グリーン成長ロードマップの草稿を支援。2010年よりIGESにてアジア太平洋地域と世界の環境ガバナンス、及び環境と持続可能な開発における協力のための制度構築に関する研究に従事し、論文を発表。また、国連環境計画(UNEP)第5次地球環境概観のガバナンスに関するアジア太平洋の章を共同執筆。文化や言語に興味関心を持ち、コペンハーゲン大学東南アジア研究にて修士号を取得、加えて気候変動インパクト及びEUの環境管理に関する大学コースを修了。



## Richard Oppenheim リチャード・オッペンハイム

First Secretary / Head of Climate Change and Energy Section, British Embassy Tokyo 駐日英国大使館環境・エネルギー部長/一等書記官

Mr. Oppenheim has been the First Secretary and Head of Climate Change and Energy Section of British Embassy in Tokyo, Japan since 2010. Previously, he has worked at British Embassies as the First Secretary and Head of Political Section in Baghdad, Iraq (2008-2009), Second Secretary in Political, Press and Public Affairs Section in Muscat, Oman (2005-2007) and First Secretary and Head of Chancery at British Consulate General in Basra, Iraq (2006). He has also served as Committee Support Officer of UK Mission to the UN in New York (2003) and Turkey and Cyprus Desk Officer in Enlargement Section of EU External Division at the Foreign and Commonwealth Office (FCO) (2002-2003). He received BA (Hons) in Politics from Loughborough University. After taking full time Arabic language trainings in Syria (2004-2005) and in London (2004), he is now fluent in Arabic as well as Japanese, French, and German.

1999年、ラフバラー大学政治学部卒業。英国外務省欧州対外部拡大課トルコ・キプロス担当(2002年~2003年)、国連英国政府代表部運営支援オフィサー(2003年)、ロンドン(2004年)及びシリア(2004年~2005年)でのアラビア語語学研修を経て、2006年駐イラク英国総領事館に勤務。駐オマーン英国大使館広報部二等書記官(2005年~2007年)、駐イラク英国大使館政治部長(2008年~2009年)を務めた後、2010年より駐日英国大使館にて環境・エネルギー部長を務める。日本語、アラビア語、仏語、独語に堪能である。



## Rajendra K. Pachauri รูงัน ンドラ・K・パチャウリ

Director-General, The Energy and Resources Institute (TERI) / Chair, The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) エネルギー資源研究所 (TERI) 所長/気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 議長

Dr. Rajendra Kumar Pachauri is the Chair of the Nobel Peace Prize-winning Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC), the scientific intergovernmental body that provides decision-makers and the public with an objective source of information about climate change. He is also Director General of TERI (The Energy and Resources Institute), a major independent research organisation providing knowledge on energy, environment, forestry, biotechnology, and the conservation of natural resources. He has been appointed as Senior Adviser to Yale Climate and Energy Institute (YCEI) from July 2012 prior to which he was the Founding Director of YCEI (July 2009 – June 2012). He was awarded the second-highest civilian award in India, the 'Padma Vibhushan' in January 2008 by the President of India and received the 'Officier De La Légion D'Honneur' from the Government of France in 2006. He has been conferred with 'The Order of the Rising Sun, Gold and Silver Star' by His Majesty Akihito, Emperor of Japan, the 'Commander of the Order of the White Rose of Finland' by the Prime Minister of Finland, the 'Commander of the Order of Leopold II' by the King of the Belgians and Mexican Order of the 'Aztec Eagle' by the President of Mexico in June 2012.

パチャウリ氏は、気候変動に関する情報を意思決定者や政府へ提供する科学的政府間機関であり、ノーベル平和賞 を受賞した気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の議長である。

またエネルギー、環境、森林、バイオテクノロジー、天然資源保護に関する独立研究機関であるエネルギー資源研 究所 (TERI) 所長も務めている。2009年7月から2012年6月、イェール大学気候・エネルギー機関 (YCEI) の初代 所長を務めた後、2012年7月からは同YCEI上級顧問を務める。2008年1月にはインド大統領より「パドマ・ビブー シャン (インド国勲章)」を受章。2006年フランス政府より「オフィシエ・ド・ラ・レジオン・ドヌール」 勲章、天皇 陛下より旭日重光章、フィンランド首相より「フィンランド白バラ」 勲章、ベルギー国王から「レオポルド2世」 勲章、 2012年6月メキシコ大統領より「アステカイーグル」勲章を授与される。



# Danilo Padilla ダニーロ・パディラ

Education for Sustainable Development (ESD) Programme Coordinator / Liaison Officer, United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO) Bangkok 国連教育科学文化機関(UNESCO)バンコク ESDプログラムコーディネーター/リエゾンオフィサー

Mr. Danilo Padilla is the Chief of Education for Sustainable (ESD) Unit and Liaison Officer at UNESCO Asia and Pacific Regional Bureau for Education (UNESCO Bangkok). Prior to joining UNESCO Bangkok, Mr. Padilla served in various capacities in different sectors at UNESCO Headquarters in Paris - the Culture Sector, Social and Human Sciences, Communication and Information, External Relations, and the Bureau of Human Resources Management.

Mr. Padilla also worked as Environmental, Health and Safety Systems Administrator at Otis Elevator's European and Transcontinental Operations Headquarters in Paris, France after two years as research assistant at the Philippine Department of Foreign Affairs.

Mr. Padilla holds a Master's Degree in International Relations and Diplomacy from the American Graduate School of International Relations and Diplomacy and a Bachelor of Arts Degree in International Relations from Schiller International University.

フィリピン外務省にて研究アシスタントを2年務めた後、フランス・パリのオーチス・エレベーターにて環境・保健・ 安全システム管理を担当。その後、パリのUNESCO本部にて文化局、人文・社会科学局、情報・コミュニケーション局、 対外局、人事部等を担当した後、UNESCOバンコクに着任。シラー国際大学にて国際関係の学士号、American Graduate School of International Relations and Diplomacy にて国際関係と外交の修士号を取得。



## Nuanphan Phawawes ヌワンパン・パワウェス

Sanitation Technical Officer, Professional Level Vehicle Emission Control Sub-Division, Air Quality and Noise Management Division, Department of Environment, Bangkok Metropolitan Administration (BMA) バンコク首都圏庁環境局 大気環境及び騒音管理課 自動車排ガス規制部門 衛生局専門職員

Graduated in Environmental Health Science, in the year 1992 from Thammasat University. Working with BMA since 1994 with rich experience in various domain / practice areas such Environmental Sanitation, Environment Planning, Waste Management, Waste Reduction, Air Quality Management, etc. Also associated with the International Environmental Cooperation of BMA with JICA, World Bank, OECD, the Japanese local government such as Fukuoka Prefectural Government, and several organizations.

1992年タマサット大学環境健康科学科卒。1994年よりバンコク首都圏庁 (BMA) に勤務。環境衛生、環境計画、 廃棄物管理、廃棄物削減、大気管理等の実地的な分野に精通。JICA、世界銀行、OECDの他、福岡県等の日本の 自治体とともに BMA の国際環境協力に従事。



# So Platong ソー・プラトン

Acting Governor of Siem Reap Municipality, Siem Reap Province, Ministry of Interior, Cambodia カンボジア・シェムリアップ州内務省シェムリアップ市長代理

Started working for the Ministry of Interior since 1995. Served in a number of positions to his present appointment, becoming the Deputy Governor of Siem Reap District and the Deputy Governor of Siem Reap Municipality. Hold a Master of Philology (1995) at Volgograd State Pedagogical University in Russia and a Bachelor of Management Information System (2002) at National Institute of Management in Phnom Peng. Then, graduated from Build Bright University in Cambodia in 2010, having Master of Administrative Science.

1995年に内務省入省。その後、シェムリアップ郡副郡長、シェムリアップ市副市長を経て現職。1995年ヴォルゴグラッド州教育大学(ロシア)にて言語学修士課程取得。2002年、プノンペンの国立経営学研究所にて経営情報システムを学び、学士号を取得。その後、2010年にビルドブライト大学にて行政理学修士を取得。



# Dickella Gamaralalage Jagath Premakumara

プレマクマラ・ジャガット・ディキャラ・ガマラララゲ

Task Manager / Senior Policy Researcher, Sustainable Cities Area, Kitakyushu Urban Centre, IGES IGES 北九州アーバンセンター 持続可能な都市領域タスクマネージャー/主任研究員

Dr. Premakumara is a development planner, specialising in sustainable urban development in Asian cities. He graduated from the University of Sri Jayawardenapura in 1994, obtained a Master Degree on Landscape Design from Moratuwa University in 1997 and Ph.D. in Management Development from Nihon Fukushi University in 2006. He has over twenty years' experiences in working with academic, government, non-governmental organisations and bilateral and international programmes. At present, he is a Task Manager at the Kitakyushu Urban Center of IGES, where he is actively involved in strategic policy research in sustainable and low carbon city development.

アジアの都市における持続可能な都市開発を専門とする開発プランナー。1994年にスリジャヤワルダナプラ大学を卒業し、1997年にモラトゥワ大学にて景観デザインの修士号を取得。その後、日本福祉大学にて経営開発を研究し、2006年博士号を取得。教育、政府機関、非政府機関、国際プログラム等様々な分野で20年以上の経験を持つ。現在はIGES 北九州アーバンセンターの持続可能な都市開発分野タスクマネージャー。



### Abdessalem Rabhi アブドゥサレム・ラビィ

Task Manager / Senior Policy Researcher, Business and the Environment Area, Kansai Research Centre, IGES

IGES 関西研究センター ビジネスと環境領域タスクマネージャー/主任研究員

Rabhi Abdessalem, from Tunisia, is a holder of PhD in comprehensive economic policies. He has joined IGES since October 2007. He was assigned to conduct various projects related to business and environment, mainly those regarding corporate environmental managements and low carbon technology transfer and application. Currently, he is a task manager of projects related to the application of Japanese low carbon technologies in India and Vietnam.

総合経済政策の博士号を取得。チュニジア出身。2007年10月からIGESに勤務し、企業環境管理や低炭素技術の 移転・適用といったビジネスと環境に関する研究プロジェクトに従事。現在は、日本企業の有する低炭素技術を インドとベトナムに適用する研究プロジェクトのタスクマネージャーを務める。



Emil Salim エミル・サリム

Chairman / Council's Member on Economics and Environmental Affairs at the Advisory Council to The President, The Republic of Indonesia インドネシア大統領顧問団経済環境担当メンバー 兼 議長

Prof. Dr. Emil Salim is currently the Chair of the Advisory Council to the President of the Republic of Indonesia and the Council's Member on Economics and Environmental Affairs. His many positions include Co-chair of the World Commission on Forests and Sustainable Development, Chair of the 10th UN Commission on Sustainable Development, and Chair of the Third ASEAN Environment Ministerial Conference. He has held key government posts in Indonesia, including State Minister for Administrative Reform and Minister of Population and Environment, and was Head of the Indonesia Delegation for UNFCCC. Prof. Salim teaches Sustainable Development at the Faculty of Economics at the University of Indonesia. His awards include the Paul Getty Award (1990), the Zayed Prize (2006), and the Blue Planet Asahi Prize Award (2006). He holds two Honorary Doctorates. His publications include "The Environment and Development" (1984), "Our Forests Our Future" (1999), and "Striking Better Balances" for the World Bank (2004).

インドネシア大統領顧問団の経済環境担当メンバーであり、現在は同議長も兼任。他にも、森林と持続可能な開発 に関する世界委員会共同チェア、国連持続可能な開発会議第10会期会合チェア、第3回 ASEAN 環境問題対人会合 のチェア等を歴任。国家改革担当大臣、人口・環境担当大臣、国連気候変動枠組条約(UNFCCC)インドネシア代 表団長等、政府要職を務めてきた。インドネシア大学経済学部で持続可能な開発に関する教鞭もとる。ポール・ ゲティ賞 (1990)、ザイヤード賞 (2006)、ブループラネット賞 (旭硝子財団/2006)等を受賞する他、2つの名誉博 士号を授与されている。主な著書に「The Environment and Development」(1984)、「Our Forests Our Future」(1999)、 「Striking Better Balances」(世界銀行/2004)等。



Puja Sawhney プジャ・ソーニー

Asia Pacific Adaptation Network (APAN) Coordinator, Regional Centre, IGES IGES バンコク地域センター アジア太平洋適応ネットワーク (APAN) コーディネーター

Dr. Puja Sawhney works at IGES Regional Centre, Thailand. She is the coordinator of the Asia Pacific Adaptation Network (APAN) since 2011. She has previously worked for Adelphi Research, International Human Dimensions Programme on Global Environmental Change (IHDP), and the Asia and Pacific Centre for Transfer of Technology (APCTT) a sub-agency of UNESCAP and been a consultant with the Asian Development Bank. She has more than a decade's experience on environmental issues with particular interest in climate change adaptation and mitigation, local/indigenous knowledge based sustainable resource management, state of the environment in Asia and Pacific region, environment and development, conservation of natural resources, environmental policies.

2010年にIGESバンコク地域センターに着任し、2011年からはアジア太平洋適応ネットワーク (APAN) のコーディネー ターを務める。アジア開発銀行コンサルタントのほか、Adelphi研究機関、地球環境変化の人間的側面に関する国 際研究計画 (IHDP)、アジア太平洋技術移転センター (APCTT) 及び UNESCAP 付属機関に勤務。 10年以上にわたり、 気候変動の適応と緩和、住民の知識を基盤とした持続可能な資源管理、アジア太平洋地域における環境、環境と 開発、自然資源の保全、環境政策を専門分野とする。



# Henry Scheyvens ヘンリー・スケーブンス

Leader / Principal Policy Researcher, Natural Resources and Ecosystem Services Area, IGES IGES 自然資源・生態系サービス領域エリア・リーダー/上席研究員

Dr. Scheyvens holds a PhD in Political Science from Monash University and a MPhil in Development Studies from Massey University. He has taught at several universities in New Zealand, Australia and Japan. He joined IGES in 2004, where he now serves as the Area Leader of the Natural Resources and Ecosystems Services Area. His research interests centre around poverty, livelihoods and rights issues. In the past few years, his research has focused on timber legality and sustainability, participatory forest mapping and monitoring, REDD+ readiness, and inclusive financial services.

マッセイ大学で開発学の修士号取得後、モナッシュ大学で政治学の博士号を取得。ニュージーランド、オーストラリア、日本の大学で教鞭を執った後、2004年よりIGESで研究に従事。貧困、生計と権利の問題に研究関心を置き、ここ数年は木材の合法性と持続可能性、参加型森林マッピングとモニタリング、REDD+、包括的なファイナンシャルサービスをテーマに研究を進める。



## Soichiro Seki 関 荘一郎

Vice Minister for Global Environment, Ministry of the Environment, Japan 環境省地球環境審議官

After graduating from the Faculty of Engineering, Tokyo University in March 1978, Mr. Seki joined the Environment Agency and has tackled lots of environmental pollution problems. He served as Director of the Air Quality Management Division, Director of the Waste Management Division, Director General for Water Environment, Director General for Decontamination and Director General of Global Environment Bureau. He took up his current position in July 2014.

1978年3月東京大学工学部卒業。同年環境庁入庁。環境汚染対策に携わる。その後、大気環境課長、廃棄物対策課長、水環境担当審議官、除染担当審議官、地球環境局長等を経て、2014年7月より現職。



# Naoya Sekiya 関谷 直也

Project Associate Professor, Center for Integrated Disaster Information Research, Interfaculty Initiative in Information Studies, the University of Tokyo 東京大学情報学環総合防災情報研究センター特任准教授

Majoring information and social psychology of disaster. Holding the following posts:

Policy and Technical Investigation Advisor at the Secretariat of the Investigation Committee on the Accident at the Fukushima Nuclear Power Stations of Tokyo Electric Power Company, Chairman of the Investigation Committee about the Mediation of the Settlement for Nuclear Damage by the Fukushima Nuclear Power Plant Accidents in the Nuclear Damage Compensation Dispute Resolution Center, Member of the Investigation Committee of Evacuation in the Fukushima No.1 Nuclear Power Stations of Tokyo Electric Power Company in General Administration Department of the Great East Japan Earthquake in the Cabinet Secretariat, etc.

専門は災害情報論、社会心理学。2014年4月より東京大学情報学環総合防災情報研究センター特任准教授。「東京電力福島原子力発電所における事故調査・検証委員会」政策・技術調査参事。原子力損害賠償紛争解決センター「東京電力福島原子力発電所事故による原子力損害の和解の仲介に関する調査」座長、内閣官房東日本大震災対応総括室「東京電力福島第一原子力発電所事故における避難実態調査委員会」委員等を歴任。



## Girish Sethi ギリッシュ・セティ

Director, Industrial Energy Efficiency Division, The Energy and Resources Institute (TERI) エネルギー資源研究所 (TERI) 産業エネルギー効率部門ディレクター

Girish Sethi is a Senior Fellow and Director of the Industrial Energy Efficiency (IEE) Division of TERI, having more than 29 years of experience in the field of energy conservation and environment improvement in the industrial sector. His direct responsibilities at TERI include providing strategic direction and coordinating the activities related to industrial energy efficiency and demand side management within TERI. These involve energy audit assignments, technology assessments, capacity building programs and projects concerning rational use of energy in various industrial subsectors. Policy research and studies in the domain of electricity regulation and practice is also one of the thematic focus areas. He has lead multidisciplinary research teams in action research projects involving development and dissemination of energy efficient and environmentally benign technologies in the small and medium enterprises. Other areas of interest include inventorization of corporate level GHG emissions and aspects related to technology transfer and promotion of low carbon energy technologies in the context of climate change.

He is a Chemical Engineer and holds Masters Degree in Energy Studies from Indian Institute of Technology, New Delhi. He has also completed a multi-disciplinary Masters course on "Technology in the Tropics" from University of Applied Sciences, Cologne, Germany.

セティ氏はエネルギー資源研究所 (TERI) のシニアフェロー兼産業エネルギー効率部門のディレクターであり、産業 部門の省エネ・環境改善の分野で29年以上の経験を持つ。TERIでの主な担当業務は産業エネルギー効率と需要管 理に関する戦略的方向付け及び活動調整であり、エネルギー監査、技術アセスメント、能力構築プログラム、産業 部門におけるエネルギー利用の合理化プロジェクト等が含まれる。加えて、電力規制に関する政策研究、中小企業 に省エネ・環境配慮型技術を普及させるアクション・リサーチ、企業の温室効果ガス排出量のインベントリ構築、 低炭素技術移転等に関する知見も有する。化学エンジニアであり、インド工科大学(IIT)でエネルギー研究の修士 号を取得。また、ドイツ・ケルンの応用科学大学にて「熱帯における技術」修士課程を修了。



### Surendra Shrestha スレンドラ・シュレスタ

Director, United Nations Environment Programme's International Environmental Technology Centre (UNEP-IETC)

国連環境計画 国際環境技術センター (UNEP-IETC) 所長

He completed GCE Cambridge 'O', 'A' Levels at St. Xaviers in Nepal and at Mander College, UK in 1975. B. Sc. Degree in Economics and Computer Science was completed from Keele University, Staffs., UK, 1978. Postgraduate education was completed at the Asian Institute of Technology, Bangkok, 1980.

Mr. Shrestha has served in at the Rio+20 Secretariat as the Team Leader for Institutional Framework for Sustainable Development and Focal Point for SDGs. He is a senior staff at UNEP. He has held many senior positions including: first Director of Strategic Resource Mobilization, Regional Director for Asia and the Pacific. He assumed the current post in September 2013.

ネパール・セントザビエルカレッジ及び英国マンダーカレッジ (1975年) を経て、キール大学にて経済学・コンピュー ターサイエンスの学士号取得(1978年)。1980年にアジア工科大学にてポストグラジュエート修了。

同氏はRio+20事務局にて、持続可能な開発のための制度枠組みのチームリーダー、持続可能な開発目標(SDGs) のフォーカルポイントを務めた。UNEPのシニアスタッフであり、UNEP戦略的資源動員、アジア太平洋地域ディレク ターを歴任。2013年9月より現職。



## Priyadarshi Shukla プリヤダアシ・シュクラ

Professor, Public System Group, Indian Institute of Management, Ahmedabad, India インド経営大学院大学教授

Prof. Priyadarshi Shukla is a lead author of several prestigious international reports including nine reports of the Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC). He has been a member of the official Government of India delegation to the Conference of Parties to the UN Framework Convention on Climate Change. Prof. Shukla has provided consultation and advisory services to Governments and international organizations. He has led numerous international research and consulting projects and is a member of several international teams working on energy and environment modeling and policy assessments. His key contributions include concepts and methods to represent developing country dynamics in integrated assessment modeling and policy research. Prof. Shukla is an invited member of the editorial advisory board of several international journals. He has co-authored thirteen books and numerous publications in international journals in the areas of sustainable development, energy and environment modeling and policies.

世界的に著名な報告書の著者を務めており、代表的なものには気候変動に関する政府間パネル (IPCC) 発行の9つの報告書等がある。国連気候変動枠組条約締約国会議 (COP) のインド政府代表団のメンバーであり、インド政府、国際機関に対する相談・助言役として活躍しているだけでなく、国際的な研究、コンサルティング・プロジェクトを主導しながら、エネルギー・環境モデリングや政策評価を行う国際的なチームのメンバーとしても活躍している。また、統合評価モデリングや政策研究で途上国発展のダイナミクスを反映したコンセプトや方法論の考案にも貢献している。いくつかの国際誌の編集諮問委員会の招待メンバーを兼任し、持続可能な開発、エネルギー・環境モデリング、政策の分野で13の著書と国際的なジャーナルの共同執筆も行っている。



**Ho Chin Siong** ホー・チン・シオン Professor, Universiti Teknologi Malaysia マレーシア工科大学教授

Ho Chin Siong is currently Professor of Faculty Built Environment and Director of Office of international affairs at Universiti Teknologi Malaysia. He is a chartered member of Chartered Institute of Logistic and Transport (CILT), registered member of the Board of Town Planning Malaysia and corporate member of Malaysian Institute of Planners (MIP). He received Bachelor of Urban and Regional Planning from Universiti Teknologi Malaysia (1983), MSc Construction Management from Heriot Watt University, Edinburgh, UK (1987) and Doctor of Engineering from Toyohashi University of Technology, Japan (1994). He was a post doctoral fellow under Hitachi Komai Scholarship to Japan (1995) and Royal Society of Malaysia / Chevening Scholarship to United Kingdom (2005), Visiting scientist under Japan Society Promotion of Science-Vice Chancellor Council Grant (2005-2010). He is also project leader for Development Low Carbon Society Scenario for Asian Regions working closely with Kyoto University, Okayama University and NIES Tsukuba sponsored under SATREPS program by JICA and JST (2011-2016). He is also steering committee members of MIT Massachusetts – UTM sustainable cities Program. His current research areas of interest are in low carbon and green city planning, sustainable urban development, energy efficient city, and Built Environment education. He has published many papers in international journals and books.

マレーシア工科大学国際交流オフィスのディレクター及び建築環境学部教授を務める。研究テーマは、低炭素・グリーン都市計画、持続可能な都市開発、エネルギー効率の良い都市作り、人工環境教育(住環境教育・まちづくり学習)等である。近年、科学技術振興機構(JST)と国際協力機構(JICA)が連携して実施している地球規模課題対応国際科学技術協力(Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development: SATREPS)

のプロジェクトリーダーとして、京都大学、岡山大学、国立環境研究所等と共にプトラジャヤ、サイバージャヤ、マレーシア・イスカンダール開発地区など、マレーシア国内の都市の低炭素社会づくりのシナリオ開発を行っている。また、マサチューセッツ工科大学とマレーシア工科大学における持続可能な都市プログラムの運営委員でもある。日本との関係も深く、1994年に豊橋工業大学から工学博士号を取得したほか、2005年から2010年にかけて日本学術振興会の客員研究員を務める。国際ジャーナルや冊子等での論文発表も多数。



# Shiv Someshwar シブ・サムシュワール

Earth Institute, Columbia University コロンドア大学地球研究所

Dr. Someshwar is research faculty at Columbia University, New York. At the Earth Institute, he is also Director, Climate Policy at the Center on Globalization and Sustainable Development, and Senior Advisor, Sustainable Development Solutions Network. An expert in climate and development policy, Dr. Someshwar has led numerous multidisciplinary efforts to build resilience to climate risks in developing countries. He advises governments on identifying and implementing climate and sustainable development action priorities, and served as an advisor to UNDP's Bureau of Crisis Prevention and Recovery to integrate climate adaptation and disaster risk reduction efforts. Previously, he was at the Rockefeller Foundation and at the World Bank. Dr. Someshwar received his Ph.D. in environment and public policy from the University of California, Los Angeles, and was a MacArthur Bell fellow at Harvard University.

ニューヨークにあるコロンビア大学の研究教員。同大学地球研究所では、グローバリゼーションと持続可能な開発センターの気候政策所長及び持続可能な開発ソリューションネットワークのシニア・アドバイザーを務める。気候と開発政策の専門家であり、発展途上国における気候変動リスクに対するレジリエンス(対応力)を構築するため多くの学際的な研究活動を牽引。諸政府に対し、気候と持続可能な開発の優先すべきアクションの特定・実施を提言。また、国連開発計画(UNDP)では、気候変動適応と災害リスク削減努力の統合を目指す危機予防復興支援局の顧問も務める。前職では世界銀行とロックフェラー財団に所属。カリフォルニア大学ロサンゼルス校で環境・公共政策博士号を取得。ハーバード大学では、マッカーサーベル(MacArthur Bell)奨学研究員を務めた経験も持つ。



# Noriko Sugiyama 杉山 範子

Designated Associate Professor, Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University 名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授

Noriko Sugiyama is an Associate Professor at the Graduate School of Environmental Studies (GSES), Nagoya University. She studied Meteorology and Climatology at Aichi University of Education. She is a certified weather forecaster and worked at the Japan Weather Association from 1992 to 2002. She went on to study Environmental Policy at GSES and completed her doctorate in 2008, continuing her research as an Assistant Professor. From January to July of 2012, she researched German and European climate and energy policy at the Environmental Policy Research Centre (FFU), Freie Universitat Berlin as a guest researcher. She then began to work in the Nagoya University Global Environmental Leaders Program (NUGELP) as an Associate Professor. Since July 2013, she has been working on the research project entitled "A study on the Development and Application of a Policy Model for Resilient Cities" supported by the Ministry of Environment, Japan (Environment Research Technology Development Fund).

岐阜県出身。愛知教育大学総合理学コースで気象学・気候学を学ぶ。大学卒業後、(財)日本気象協会に勤務し、1995~2002年テレビ愛知の気象キャスターを担当(気象予報士)。その後、名城大学大学院理工学研究科修士課程、名古屋大学大学院環境学研究科博士課程に進学。環境政策論講座にて地域気候政策を研究し、2008年博士(環境

学)を取得。2008年より同大学院環境学研究科助教、特任准教授を経て、2012年1月より半年間、ベルリン自由大 学環境政策研究所で客員研究員として研究。帰国後、名古屋大学国際環境人材育成プログラムの特任准教授を経て 2013年7月より現職。



Akimasa Sumi 住 明正
President, National Institute for Environmental Studies (NIES)
国立環境研究所 (NIES) 理事長

He got Ba. (1971) and Ma. (1973) in Physics in the University of Tokyo. He joined the Japan Meteorological Agency (JMA) in 1973. He stayed at University of Hawaii from 1979 to 1981. He got a Ph.D from the University of Tokyo in 1985 and moved to the Department of Geophysics, the University of Tokyo as an associate professor. He was appointed to be a professor in CCSR (Center for Climate System Research), the University of Tokyo. He retired the University and was appointed to be a vice president of National Institute for Environmental Studies (NIES) at 2012 and since 2013 until now he has been a president of NIES. His research field is numerical prediction, climate system dynamics and sustainability science.

昭和46年6月東京大学理学部物理学科卒業、昭和48年3月東京大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程終了、理学博士(東京大学)。昭和48年気象庁に入り、昭和54年2月より2年間ハワイ大気象学教室助手、気象庁に戻った後、昭和60年4月に東京大学理学部地球物理学教室助教授、その後、気候システム研究センター教授、センター長、サステイナビリティ学連携研究機構地球持続戦略研究イニシアティブ統括ディレクターを経て退職。平成24年10月より国立環境研究所理事、平成25年4月より同理事長、現在に至る。専門は、数値予報、気候システム学、そしてサステイナビリティ学。



## Hiroshi Suzuki 鈴木 浩

Professor Emeritus, Fukushima University / Chair, Fukushima Prefecture Reconstruction Committee 福島大学名誉教授/福島県復興ビジョン検討委員会座長

Graduated in 1978 from the Postgraduate course of Tohoku University, Engineering, worked as research assistant at the Faculty of Engineering, Tohoku University, as associated professor at Oyama National College of Technology, as visiting researcher at the University College of London, and as professor at Fukushima University and currently professor Emeritus, Fukushima University. Served on the Promoting Committee of Compact City at Tohoku Regional Bureau, MoLIT, the Fukushima Prefecture Comprehensive Planning Council, the Fukushima Prefecture Reconstruction Committee for the 2011 East Japan Great Earthquake, and the FAIRDO Project at IGES.

1978年東北大学大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)、東北大学工学部助手、国立小山高専助教授、在外研究員(ロンドン大学)を経て、福島大学行政社会学部教授、同学部長、共生システム理工学類教授を経て、現在名誉教授。国土交通省東北地方整備局コンパクトシティ推進研究会委員、福島県総合計画審議会会長、福島県復興ビジョン検討委員会座長、FAIRDOプロジェクト委員など。主要著書:「日本版コンパクトシティ」、「地域力再生」、「地域計画の射程」など。



Katsunori Suzuki 給木 克徳

Director / Professor, Environment Preservation Center, Kanazawa University 金沢大学環境保全センター長・教授

Prof. Katsunori Suzuki worked for the Ministry of the Environment, Japan for more than 30 years. Over that period, his main focus was on international negotiations and international cooperation, especially in Asia. He is currently serving as the Director/Professor of Environment Preservation Center in Kanazawa University. His research focuses on environmental policy, international environmental cooperation, including the development of a regional framework on atmospheric management and promotion of a co-benefits approach in East Asia.

環境庁 (現在の環境省) に入庁後、30年以上にわたり主に国際交渉とアジアにおける国際協力関係に携わってきた。 現在は金沢大学環境保全センター長・教授を務め、環境政策及び国際環境協力について研究を行っている。主な 研究テーマには、東アジアにおける大気環境管理に関するより適切な地域協力枠組みの構築、及びコベネフィット・ アプローチの推進等がある。



### Wataru Suzuki 鈴木 浩

Senior Coordinator, International Satoyama Initiative (ISI) Programme, United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 国際 SATOYAMA イニシアティブ 上級コーディネーター

Mr. Wataru Suzuki joined former UNU Institute of Advanced Studies (UNU-IAS) as Satoyama Initiative Coordinator in 2012 to oversee the operation of the secretariat for the International Partnership for the Satoyama Initiative (IPSI). He was appointed as Senior Coordinator as of April 2014. Prior to joining UNU-IAS, he was involved in various project activities relating to biodiversity, such as preparing for the Third National Biodiversity Strategy of Japan. In 2010, he was involved in organizing COP10 of the CBD held in Nagoya in October.

2012年より国連大学高等研究所(当時)のSATOYAMAイニシアティブコーディネーター。2014年4月より現職。 SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) 事務局次長として、持続可能なランドスケープ及びシースケー プの利用を目指すSATOYAMAイニシアティブの促進のため、関係団体等のネットワーク化を推進する業務に携わる。 国連大学に奉職する以前は、環境省自然環境局生物多様性地球戦略企画室及び生物多様性センターに勤務。第三 次生物多様性国家戦略、生物多様性民間参画ガイドライン等の策定、2010年に愛知県名古屋市で開催された生物 多様性条約第10回締約国会議にかかわる。



# Prabhakar SVRK プラバカール・シヴァプラム

Task Manager / Senior Policy Researcher, Natural Resources and Ecosystem Services Area, IGES IGES 自然資源・生態系サービス領域 タスクマネージャー/主任研究員

Currently, Prabhakar works on a variety of issues relevant to climate change adaptation and disaster risk reduction. He also serves as a contributing author to the IPCC Working Group II Fifth Assessment Report. Specific topics include mainstreaming climate change adaptation concerns into sectoral development plans and policies, adaptation metrics, identifying and characterizing adaptive policies, risk insurance, promoting adaptation in the post-2012 climate regime, and training needs assessment for capacity building. Earlier, as JSPS Post-Doctoral Fellow working at Kyoto University, he conducted several research projects on climate change implications for disaster risk management in South and East Asian countries.

Prabhakar has more than 15 years of experience in participatory research and development with international and national research and developmental organizations such as ICRISAT, IARI, CIMMYT-RWC, UNDP, NIDM & Kyoto University wherein he was responsible for conception, execution and implementation of a variety of research and developmental projects covering natural resource management, climate change adaptation and disaster risk reduction. He obtained PhD in Field Crop Management from the Indian Agricultural Research Institute, New Delhi in 2001.

プラバカール研究員は国内外の研究所及び開発機関において15年以上の参加型研究・開発の経験をもつ。これまで務めてきたICRISAT、IARI、CIMMYT-RWC、UNDP、NIDM及び京都大学では、自然資源管理、気候変動の適応及び災害リスクの軽減など多岐にわたる研究及び開発事業を考案、実施してきた。同氏は2001年にニューデリーのIndian Agricultural Research Institute においてField Crop Managementの博士号を取得している。現在、気候変動の適応及び災害リスクの軽減に関連する様々な問題に取り組む。また、IPCC第2作業部会第5次評価報告書のコントリビューティング・オーサーも務める。具体的には、各セクターの開発計画・政策における気候変動適応の主流化、適応の測定基準、適応政策の特定と特性化、リスク保険、ポスト2012気候枠組みにおける適応の推進、能力開発に向けたトレーニングニーズ評価が含まれる。上記以前は、京都大学の日本学術振興会ポストドクターフェローとして、南・東南アジア各国における気候変動による災害リスク管理に関する研究事業を行っていた。



## Kiyoshi Takahashi 高橋 潔

Senior Researcher, Center for Social and Environmental Systems Research, National Institute for Environmental Studies (NIES) 国立環境研究所 (NIES) 社会環境システム研究センター主任研究員

Dr. Takahashi has been engaged in developing Asia-Pacific Integrated Model (AIM) through the development/ application of impact assessment models since he has joined the National Institute for Environmental Studies (NIES) in 1996. His research also focuses on the Integrated Analysis of Global Climate Risk Management Strategies these years.

He participated in drafting the Fourth Assessment Report (AR4) for Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) / extreme events special report as one of the lead authors. Currently taking a role as the lead author of the Working Group 2 Chapter 19 (Emergent risks and key vulnerabilities) for the Fifth Assessment Report (AR5) which will be published in 2013-2014.

1996年に国立環境研究所に入所以降、影響評価モデルの開発・改良を通じてアジア太平洋統合評価モデル(AIM)の開発に従事している。近年は全球規模の気候変動リスク管理戦略の検討に、研究の重点を置いている。気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次評価報告書・極端現象特別報告書の作成に主執筆者として参加し、2013年~2014年公表予定の第5次評価報告書でも第2作業部会19章 (Emergent risks and key vulnerabilities)の主執筆者を担当している。



## Kazuhiko (Kazu) Takemoto 竹本 和彦

Director, United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 所長

Dr. Takemoto was appointed as Director of the United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS) in January 2014. Since 2010, he has worked with the UNU Institute of Advanced Studies as a Programme Director. Prior to joining UNU, he developed policies on international environmental cooperation and global environment, in particular, climate change and bio-diversity as Vice-Minister for Global Environment Affairs. He also served as a Director-General of Environmental Management Bureau. He served for CBD/COP10 as its Alternate President (2010), CSD-18 as its Co-Chair (2010) and OECD/EPOC as Vice Chair (2004-07). He is Council Member of International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA). He holds a PhD from The University of Tokyo and a Master of International Public Policy degree from the School of Advanced International Studies (SAIS), Johns Hopkins University.

2010年より国連大学高等研究所のプログラム・ディレクター。2014年1月より現職。国連大学に奉職する前は、環境省環境管理局長や地球環境審議官として国際環境協力及び地球環境に関する政策立案、とりわけ気候変動、生物多様性、越境大気汚染といった地球環境問題に関する国家戦略の開発に取り組んだ。OECD環境政策委員会副議長(2004年~2007年)、第18回国連持続可能開発委員会(CSD18)共同議長(2010年)、生物多様性条約第10回締約国会議(CBD/COP10)の議長代行(2010年)、国際応用システム分析研究所(IIASA)理事等を歴任。東京大学で博士号を取得。また、ジョンズ・ホプキンス大学高等国際研究大学院(SAIS)にて国際公共政策修士号を取得。



## Kazuhiko Takeuchi 武内和彦

Senior Vice-Rector, United Nations University (UNU) / Director and Professor, Integrated Research System for Sustainability Science (IR3S) The University of Tokyo 国連大学上級副学長/東京大学サステイナビリティ学連携研究機構 (IR3S) 機構長・教授

Kazuhiko Takeuchi is Senior Vice-Rector of United Nations University and Director of United Nations University Institute for Sustainability and Peace (UNU-ISP), Director and Professor of the Integrated Research System for Sustainability Science (IR3S) at the University of Tokyo. He has served, inter alia, as a chairman of the Central Environment Council, and a vice-chairman of the Food, Agriculture and Rural Area Policies Council, Government of Japan, Editor-in-Chief of the journal *Sustainability Science* (Springer).

Educated and trained as a geographer and landscape ecologist at the University of Tokyo, he engages in research and education on creating eco-friendly environments for a harmonious coexistence of people and nature, especially focusing on Asia and Africa. He leads the *Satoyama* Initiative as well as climate/ecosystem change research in Asia and Africa.

His recent publications include *Satoyama*-Traditional Rural Landscape of Japan (co-edited, Springer, 2003), Rebuilding the relationship between people and nature: The *Satoyama* Initiative (*Ecological Research*, 25, 891-897, 2010), Sustainability: Engaging in global change thorough harmonious adaptation in Asia (co-authored, *Nova Acta Leopoldina*, NF112, Nr. 384, 213-226, 2010), Sustainability Science: A Multidisciplinary Approach (co-edited, United Nations University, 2011), and *Satoyama-Satoumi* Ecosystems and Human Well-Being: Socio-Ecological Production Landscapes of Japan (co-edited, United Nations University, 2012).

1974年東京大学理学部地理学科卒業、1976年同大学院農学系研究科修士課程修了。東京都立大学助手、東京大学農学部助教授、同アジア生物資源環境研究センター教授を経て、1997年より2012年まで同大学院農学生命科学研究科教授。2005年より東京大学サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)副機構長、2008年より国際連合大学(UNU)副学長、2009年より2013年まで同サステイナビリティと平和研究所(UNU-ISP)所長を併任。2012年より東京大学サステイナビリティ学連携研究機構(IR3S)機構長・教授、2013年1月より国際連合大学(UNU)上級副学長、国際連合事務次長補。国際学術誌 Sustainability Science (Springer)編集委員長、中央環境審議会会長、食料・農業・農村政策審議会会長代理などを兼任。専門は、緑地環境学、地域生態学、サステイナビリティ学。人と自然の望ましい関係の再構築を目指して、アジア・アフリカを主対象に研究教育活動を展開している。最近では、持続型社会の構築を目指す俯瞰的な科学としての地球持続学(サステイナビリティ学)の世界的な拠点形成に向けて奔走している。また、日本の里地里山の再生を目指すとともに、伝統的な土地利用の再構築に向けた世界の多様な取り組みとの連携を目指すSATOYAMAイニシアティブにも深く関与している。

最近の著作には、「地球持続学のすすめ」(岩波ジュニア新書、2007年)、「生態系と自然共生社会」(共編著、東京大学出版会、2010年)、「Satoyama Satoumi Ecosystem and Human Well-Being」(共編著、UNU Press、2013年)、「世界農業遺産ー注目される日本の里地里山」(祥伝社新書、2013年)、「日本の自然環境政策ー自然共生社会をつくる」(共編著、東京大学出版会)などがある。



## Rintaro Tamaki 玉木 林太郎

Deputy Secretary-General and Acting Chief Economist, The Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) 経済協力開発機構 (OECD) 事務次長兼チーフエコノミスト代理

Mr. Tamaki graduated in 1976, L.L.B. from the University of Tokyo. He was appointed Deputy Secretary-General of the OECD on August 1, 2011. His portfolio includes the strategic direction of OECD policy on Environment, Development, Green Growth, Financial Affairs and Taxes. He is also currently acting Chief Economist. During his prominent 35-year career at the Japanese Ministry of Finance, he has worked on various budget, taxation, international finance and development issues. He worked as part of the OECD Secretariat from 1978 - 1980 and from 1983 - 1986. In 1994 he was posted to the World Bank as Alternate Executive Director for Japan and in 2002 as Finance Minister at the Embassy of Japan in Washington DC. He then became Deputy Director-General (2005), before becoming Director-General (2007) and subsequently Vice-Minister for International Affairs (2009) at the Ministry of Finance.

1976年東京大学法学部卒。2011年8月からOECD事務次長として環境、開発、グリーン成長、金融及び税を担当するとともに、現在チーフエコノミスト代行を兼任。財務省での35年間の勤務において、予算、税制、国際金融、開発等の様々な政策に従事。その間、1978年~1980年と1983年~1986年の2回にわたりOECD事務局にて勤務。1994年世界銀行理事代理、2002年在アメリカ合衆国日本大使館公使、2005年財務省大臣官房審議官、2006年国際局次長、2007年国際局長、2009年財務官を歴任。



### Kentaro Tamura 田村 堅太郎

Leader / Principal Policy Researcher, Climate and Energy Area, IGES IGES 気候変動とエネルギー領域エリア・リーダー/上席研究員

Dr. Kentaro Tamura received a Ph.D. in International Relations from the London School of Economics and Political Science, UK. He had been a lecturer at the Eco-Technology Laboratory at Yokohama National University and joined IGES in 2003. His research interests include post-2012 climate regime and policy-making processes in major economies.

ロンドン大学経済政治学院(LSE)大学院博士課程修了(国際関係学博士)。

横浜国立大学エコテクノロジー・ラボラトリー講師を経て、2003年よりIGES勤務。研究テーマは、2013年以降の 国際気候変動枠組み、主要国の政策決定プロセス。



Mitsuru Tanaka 田中 充

Professor, Faculty of Social Sciences, Hosei University 法政大学社会学部教授

Graduated from the Graduate School of Science, Tokyo University and gained a master's degree in 1978. He started working at Kawasaki City Local Government and moved to Hosei University as a Professor of Environment Department in 2001. His research themes are environmental policy theory, climate change policy for municipal administration. Major academic papers and publications: The Front Line of Municipal Environmental Administration (2010, Gyosei Corporation), Adaptive Society for Climate Change (2013, Gihodo Corporation), Enforcement of Low-Carbon and Energy Policy in the Local Government (2014, Gyosei Corporation).

1978年に東京大学理学系研究科を修了、理学修士。川崎市環境局に勤務の後、2001年に法政大学社会学部教授として着任、現在に至る。主な研究分野として、環境政策論、地方自治体における気候変動政策。主な著書として「自治体環境行政の最前線」(2010年、ぎょうせい)、「気候変動に適応する社会」(2013年、技報堂)、「地域からの低炭素・エネルギー政策の実践」(2014年、ぎょうせい)等。



# 

Knowledge Management Officer, International Recovery Platform, United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNISDR) 国連国際防災戦略事務局 国際復興支援プラットフォーム 知識管理官

Ana Cristina Angulo-Thorlund, joined the United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNISDR) in September 2005. She is currently working as Knowledge Management Officer in the International Recovery Platform in Kobe and continues serving as gender focal point for UNISDR. Ana Cristina is a certified facilitator for gender audits and member of the UNDG Gender Expert Roster for the UN System. In her capacity as gender focal point, she has coordinated publications of good practices on gender and the policy and practical guidelines for gender-sensitive disaster risk reduction. A national of Costa Rica, she holds a MSc in Science at the University of Geneva. She's fluent in English, French and Spanish.

2005年9月より国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) に勤務。近年は神戸にて国際復興区の知識管理官として勤務し、UNISDRの男女共同参画担当者でもある。ジェンダー監査における認定ファシリテーターであり、国連組織のUNDGジェンダー専門家メンバーの一人。ジェンダーを焦点とし、災害リスク軽減のためのジェンダーと政策、及び実務指針の実践に関する出版物のコーディネーターを行う。コスタリカ国民であり、ジュネーブ大学にて科学修士号を取得。英語、フランス語、スペイン語が堪能。



### Eisaku Toda 豆田 革作

Director, International Strategy Division, Global Environment Bureau, Ministry of the Environment, Japan 環境省地球環境局国際連携課長

Eisaku Toda joined the Environment Agency (now Ministry of the Environment) in 1987. From 2001 to 2004, he worked at the OECD in Paris. He has served as Deputy Director of the Environmental Health and Safety Division from 2005, Director of the Chemicals Evaluation Office from 2007, Director of the Market Mechanism Office from 2009, and Director of the Risk Assessment Office from 2010. He has held his current position since 2013. He also taught environmental policy at Ochanomizu University and Waseda University and serves as Vice-Chairman of the Environment Policy Committee (EPOC) in OECD and member of Adaptation Committee under the United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC).

技官として1987年環境庁入庁。2001年にパリの経済協力開発機構(OECD)に出向。帰国後は環境省において、2005年環境保健部環境安全課課長補佐、2007年環境保健部化学物質審査室長、2009年地球環境局市場メカニズム室長、2010年環境保健部環境リスク評価室長を歴任し、2013年より地球環境局国際連携課長。また、2006年よりお茶の水女子大学・早稲田大学にて環境政策の講師、2013年より環境政策委員会(EPOC)の副議長・気候変動枠組条約適応委員会委員も務める。



### Akihiro Tokai 東海 明宏

Professor, Division of Sustainable Energy and Environmental Engineering, Graduate School of Engineering, Osaka University / Director, On-site Research Center for Sustainability Design, Graduate School of Engineering, Osaka University

大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻教授/同附属サステイナビリティ・デザイン・オンサイト研究センター長

Prof. Akihiro Tokai has been working for the area of environmental risk assessment and management more than 20 years both from the viewpoint of technical aspect and regulatory aspect. Over the past period, his activity has covered from not only the theoretical aspect in the academics but also real world problem solving task at the national institute for advanced industrial science and technology. He is now one of the council member of society for risk analysis—international.

1988年大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了(工学博士)。大阪大学助手、岐阜大学助教授、横浜国立大学助教授、北海道大学助教授、(独) 産業技術総合研究所化学物質リスク管理研究センターを経て、2008年大阪大学教授。Society for Risk Analysis – International 理事。



# Le Ngoc Tuan レ・ンゴック・トゥアン

Director, Science, Technology and International Cooperation Division, Department of Meteorology, Hydrology and Climate Change, Ministry of Natural Resources and Environment, Viet Nam ベトナム天然資源環境省 気象・水・気候変動局 科学・技術・国際協力課長

Mr. Le Ngoc Tuan completes Master Degree on Development Economics at the National Economics University and Dutch Institute of Social Studies. He started his career at Ministry of Natural Resources and Environment in 2008 as secretary to a Vice Minister, in charge of environmental management. He then worked at the Viet Nam Institute of Meteorology, Hydrology and Environment (now the Viet Nam Institute of Meteorology, Hydrology and Climate Change) from 2009 to 2010, before working as secretary to a Vice Minister, in charge of meteorology, hydrology and climate change. He then moved to the Department of Meteorology, Hydrology and Climate Change as Deputy Director then Director of the Science, Technology and International Cooperation Division. He is also a member of the Viet Nam climate change negotiation team; member of the Viet Nam JCM Joint Committee and chief of the Viet Nam JCM Secretariat.

トゥアン氏は国立経済大学 (ハノイ) 及びオランダ社会学研究所にて開発経済学の修士号を取得。2008年より天然資源環境省副大臣の環境管理担当書記官として勤務。2009年~2010年にはベトナム気象・水・環境研究所 (現在のベトナム気象・水・気候変動研究所) に勤務後、気象・水・気候変動局の課長補佐を経て現在の科学・技術・国際協力課長となる。ベトナム気候変動交渉担当、ベトナム・二国間クレジット制度 (JCM) 合同委員及び JCM 事務局長を務める。



# Nguyen Dinh Tuan グェン・ディン・トゥアン

Professor of Environmental Faculty, Ho Chi Minh City University of Natural Resources and Environment ホーチミン市天然資源環境大学環境学部教授

Nguyen Dinh Tuan is a former president at Ho Chi Minh City University of Natural Resources and Environment Vietnam (2009-2013) and currently, a Professor of Environmental Faculty. His background is ventilation, heating and environmental technology. He got Doctor of Environmental Technology in Ho Chi Minh City University of Technology (2002) and participated in many short-term and long-term training courses in air quality management and emission inventory at US, Sweden and Japan. He was Senior Lecturer and Vice-Director of Center for Environment Technology, Institute for Environment and Resources, Vietnam National University – HCMC (1994-2004) and Director of HCMC Environmental Protection Agency (HEPA) (2004-2009).

He has been a leader of many projects related environment and climate change, such as establishing action plans to response to climate change in many provinces and cities in Vietnam, especially Mekong Delta regions. He is also an expert in collecting data for emission inventory in Ho Chi Minh City. Recently, he is vice-president of Vietnam Clean Air Partnership and a member of Clean Air Initiative for Asian Cities. Until now, there have been many papers and books published in Vietnam and other countries.

2009年から2013年までホーチミン市天然資源環境大学の学長を務め、現在、環境学部教授。建物の暖房、換気、及び空調や環境技術の専門家で、ホーチミン市工業大学にて環境技術博士号を取得(2002年)。その間、アメリカ、スウェーデン、日本で大気環境管理や排出インベントリに関する長期・短期の研修コースに参加。1994年から2004年までベトナム国家大学ホーチミン市校の環境資源研究所環境技術センターの上級講師及び同校副センター長に従事。2004年から2009年までホーチミン市環境保護局(HEPA)の所長を務めた。

ベトナムの多くの省や都市、特にメコンデルタ地域における気候変動対応の行動計画策定など、環境と気候変動に関する多くのプロジェクトのリーダーを務めている。同氏はまた、ホーチミン市の排出インベントリのデータ収集に関する専門家である。近年は、ベトナムクリーンエアーパートナーシップの副理事を務めており、アジアの都市のためのクリーンエアーイニシアティブのメンバーでもある。これまでベトナム国内外で多数の論文や本を執筆している。



### Takahiro Ueno 上野 貴弘

Visiting Researcher, Graduate School of Public Policy, The University of Tokyo / Researcher, Socio-economic Research Center, Central Research Institute of Electric Power Industry 東京大学公共政策大学院客員研究員/電力中央研究所主任研究員

Takahiro Ueno is a Researcher at the Socio-economic Research Center of the Central Research Institute of Electric Power Industry, Japan (2004-present) and a Visiting Researcher at Graduate School of Public Policy of the University of Tokyo (2010-present). He was a Visiting Scholar at Resources of the Future in 2006 and 2007. His research interests include international negotiations on climate change and climate technology transfer to developing countries. He is the co-author (with Kazuhiko Hombu) of Japan's Greentech at Risk (Energy Forum, 2013, in Japanese).

電力中央研究所主任研究員、東京大学公共政策大学院客員研究員。研究分野は、地球温暖化問題の国際枠組み、国際技術移転等。2006年には、未来資源研究所(米国)の客員研究員を務める。著書は、『狙われる日本の環境技術一競争力強化と温暖化交渉への処方箋』(エネルギーフォーラム、2013年、上野貴弘・本部和彦編著)等。



# Shepherd Urenje אַבסקר-וֹייִסער Shepherd Urenje

Senior Programme Specialist in Education for Sustainable Development, Swedish International Centre of Education for Sustainable Development (SWEDESD) at Uppsala University ウプサラ大学 持続可能な開発のための教育に関するスウェーデン国際センター(SWEDESD) ESDシニアプログラムスペシャリスト

His current work supports teaching and learning communities of practice with quality and relevant learning opportunities between and among countries in Scandinavia, Africa and Asia. Dr. Urenje's broad experience of facilitating learning for change includes cutting edge teaching and learning methods, materials development, course development and research. His professional background includes teaching geography, environmental science and development education for over 25 years. His research passion is in continuing professional development especially mainstreaming sustainability education in teacher education. Dr. Urenje studied International and Developmental Education at the University of London, United Kingdom.

スカンジナビア、アフリカ、アジア諸国における教育学習の実施団体や関連する学習機会を支援する。変革のための学習促進では、最先端の教育学習方法、教材開発、コース開発、調査において広範な経験を持つ。地理学、環境科学、開発教育の指導では25年以上のキャリアを有する。継続的な専門能力の開発、特に教師の育成現場での持続可能な開発のための教育(ESD)普及に研究情熱を傾ける。ロンドン大学にて国際開発教育を専攻。



# Johannes Venjakob ョハネス・ヴェニャコブ

Project Co-ordinator, Future Energy and Mobility Structures, Wuppertal Institute for Climate, Environment and Energy ヴッパータール気候・環境・エネルギー研究所 最先端のエネルギー・モビリティ構造研究グループプロジェクトコーディネーター

Dr. Johannes Venjakob works as a project co-ordinator at the Wuppertal Institute for Climate, Environment, Energy within the research group Future Energy and Mobility Structures. He studied Geography at the Rheinische Friedrich-Wilhemls University in Bonn (1997-2003) with the main focus on urban geography, transport geography and sustainable urban planning. In 2005 he completed an advanced training on environmental mediation at the Fernuniversität Hagen. In 2012 he graduated at the Saarland University/Saarbrücken (Department Geography). His thesis deals with methodological improvements of scenarios techniques. At the Wuppertal Institute his projects focus on transformation of energy systems, development of low carbon strategies on urban and regional level, potential analysis of renewable energies on local level and scenario techniques.

1997年~2003年にかけてライン・フリードリヒ・ヴィルヘルム大学で都市地理学、交通地理学そして都市計画を修めた。2005年にハーゲン通信大学で環境調停の研修を経て、2012年にザールランド大学地理学研究科で博士課程を修了。現在、ヴッパータール気候・環境・エネルギー研究所最先端のエネルギー・モビリティ構造研究グループのプロジェクトコーディネーターとしてエネルギーシステムの転換、都市や地域レベルの低炭素戦略、都市における再生可能エネルギーの可能性や展開方策について研究している。



# Masaharu Yagishita 柳下 正治

Visiting Professor, Graduate School of Global Environmental Studies, Sophia University 上智大学大学院地球環境学研究科客員教授

Graduated from Faculty of Engineering (Urban Engineering) at the Tokyo University in 1971. He experienced in environmental policy making process (Environment Agency, etc) in particular, waste issues, pollution issues, environmental impact assessment, and climate change and so forth. Before joined as a professor of Sophia University in 2005, he had been a professor at Graduate School of Environmental Studies at Nagoya University since 2001. His research interest includes participatory policy-making processes regarding recycle-oriented society, energy and environmental strategy, and climate change.

1971年東京大学工学部都市工学科卒業。環境庁にて、廃棄物、汚染問題、環境影響評価、気候変動等の環境政策に従事。2001年4月より名古屋大学環境学研究科教授、05年4月より上智大学大学院地球環境学研究科教授、2013年4月より現職。環境政策を専門とし、循環型社会やエネルギー・環境戦略、気候変動を含む分野において、参加型環境政策決定に関する実践的研究を行っている。



# Naoyuki Yamagishi 山岸 尚之

Leader, Climate and Energy Group, Conservation Division, WWF Japan 世界自然保護基金 (WWF) ジャパン 自然保護室 気候変動・エネルギーグループリーダー

Naoyuki Yamagishi has BA in international relations from Ritsumeikan University, Kyoto and a Master degree in International Relations and Environmental Policy from Boston University. He joined WWF Japan in 2003 and started as a climate change policy officer. He has worked on policy advocacy in UN negotiations as a representative from WWF Japan. He also has been working on domestic climate and energy advocacy, with focus on cap and trade and energy scenario studies. He was appointed to Leader of the Climate and Energy Group at WWF Japan in 2011.

神奈川県出身。立命館大学国際関係学部卒。ボストン大学大学院国際関係論・環境政策修士取得。2003年より、 WWFジャパンの気候変動担当オフィサーとして、排出量取引制度等の気候変動政策提言・キャンペーン活動に携 わるほか、国連会議での国際政策提言活動等を担当。2011年以降はエネルギー政策についての政策提言も実施。 2011年より気候変動・エネルギーグループリーダー。



# Kazuo Yamamoto 山本 和夫

Vice President for Resource Development at the Asian Institute of Technology (AIT) / Professor, Environmental Science Center, University of Tokyo アジア工科大学 (AIT) 副学長/東京大学環境安全研究センター教授

Prof. Kazuo Yamamoto graduated from Department of Urban Engineering, Faculty of Engineering, University of Tokyo in 1977, and received his Master's in 1979 and his PhD in 1983. In 1985, he was appointed as Associate Professor of the Faculty of Engineering, University of Tokyo and seconded to Asian Institute of Technology (AIT) for two years from 1987. He had served as Professor, the Faculty of Engineering and then Environmental Center, University of Tokyo since 1995, Director, Environmental Science Center (2003-2007), and Visiting Professor & Senior Advisor to the AIT President (October to December, 2013). In January 2014, he was appointed as Vice President for Resource Development at the AIT and currently also serve as Professor in the Environmental Science Center, as well as Professor in charge of graduate program, Department of Urban Engineering, Graduate School of Engineering.

1977年東京大学工学部都市工学科卒業。79年修士号、83年博士号取得。85年東京大学工学部都市工学科助教授。 87年から2年間、アジア工科大学院(タイ)の助教授に派遣。95年東京大学教授に就任。2003年~07年東京大学 環境安全研究センター長を兼任。2013年10月~12月アジア工科大学客員教授兼学長顧問、2014年1月より同大学 副学長。東京大学環境安全研究センター教授、東京大学大学院都市工学専攻課程担当教授。



# Wanglin Yan 厳 網林

Professor, Faculty of Environment and Information Studies, Keio University 慶應義塾大学環境情報学部教授

Professor, Faculty of Environment and Information Studies, Keio University, Head of the Environmental Innovators Program, Graduate School of Media and Governance, Director of Center for Climate Change Adaptation, Keio University. Professor Yan is a specialist in Geographic Information System and Science. His research covers over Urban and Regional Planning, Climate Change Adaptation and Disaster Risk Reduction, Resilience and Sustainability. He has been engaging in projects on investigation and planning for natural resource development and ecosystem conservation of (Inner and Outer) Mongolia and Tibetan Plateau. He has worked on the ground design of post-disaster reconstruction in Sichuan China and is working on the Reconstruction of Tohoku Japan from March 11 Tsunami Disasters and the Radioactive Contamination.

慶應義塾大学環境情報学部教授、大学院環境イノベータコース代表。地理情報システム学会理事・事務局長、国土 地理院研究評価委員会委員(1998年~)、気仙沼市震災復興創造的住み良さ会議代表等。著書に『GISの原理と 応用』、『社会イノベータへの招待―変化をつくる人になる』、『国際環境協力の新しいパラダイム』、『アジアの持続 可能な発展に向けて一自然・経済・社会の視点から』など多数。研究領域は地域・都市計画、環境エネルギー、 気候変動適応、災害リスク対応、持続可能な発展等。長年、チベット高原、モンゴル高原の自然環境資源の調査と 持続可能な利用を研究。四川大地震では都江堰市復興グラウンドデザインプロジェクトに参画、現在東北地域に おいて津波と放射性物質の汚染からの復興支援に取組中。



Ryutaro Yatsu 谷津 龍太郎 Senior Adviser, Ministry of the Environment, Japan 環境省 顧問

Dr. Yatsu graduated from Tohoku University with a BE in 1976, and gained his Doctorate of Engineering from the same university in 1999. He joined the Environment Agency in 1976, and then at the Ministry of the Environment, he held positions as Director, Planning Division, Waste Management and Recycling Department in 2004, and Director, Policy Coordination, Evaluation and Public Relations Division, Minister's Secretariat in 2005. He then served at Deputy Director-General, Global Environment Bureau from 2006, and then in 2008 he became Director-General, Waste Management and Recycling Department. He served as Secretary-General, Minister's Secretariat in 2010, Vice-Minister for Global Environment in 2012, and Vice-Minister in 2013, before taking up his new position in July 2014.

1976年3月東北大学工学部卒業。1999年東北大学で博士号を取得。1976年環境庁入庁。環境省において、2004年 廃棄物・リサイクル対策部企画課長、2005年大臣官房政策評価広報課長、2006年大臣官房審議官(地球環境局担 当)、2008年廃棄物・リサイクル対策部長、2010年大臣官房長、2012年地球環境審議官、2013年環境事務次官を 歴任し、2014年7月より現職。



# 

National Chairman, Ghana National Biodiversity Committee ガーナ共和国国家生物多様性委員会議長

Currently a Professor of Botany at the University of Ghana, Prof. Oteng-Yeboah has taught at several universities in Africa. He was the Deputy Director-General of the Council for Scientific and Industrial Research (CSIR-Ghana) with special responsibility for coordinating national research on Ghanaian environment and health issues.

He has a special interest in the conservation and sustainable use of biological diversity, especially in terms of ecosystem functions, their goods and services, and human well-being. He has a distinguished international profile spanning the three Rio Conventions – on biodiversity, climate change and desertification – and was chair of the CBD SBSTTA-9 and 10. He plays many roles in different international processes on biodiversity. He is the current Chair of the following: the Steering Committee and Sub-committee for Strategy Development of the International Partnership for the Satoyama Initiative (IPSI) and the Standing Committee of the UN Convention on Migratory Species. He was appointed as a Vice Chair of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services (IPBES).

現在ガーナ大学の植物学教授として勤務しているイェボア氏は、これまでもアフリカの数々の大学において学生を指導。また、ガーナ科学産業研究協議会(CSIR-Ghana)次長を務め、ガーナにおける環境や健康にかかわる国内研究を進めてきた。

生物多様性の保全と持続可能な利用に焦点を当て、中でも生態系機能やそこから得られる産物やサービス、人々の福祉等に注目。生物多様性、気候変動、砂漠化に関わる3つのリオ条約に長らく関わっており、生物多様性条約の科学技術助言補助機関(SBSTTA)第9回会合及び第10回会合の議長を務める。現在も生物多様性に関わる国際プロセスにおいて様々な役割を担っており、中でも、SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(IPSI)の運営委員会会長、IPSI戦略策定小委員会会長、及び移動性野生動物種の保全に関する条約(ボン条約)の常任委員会会長を務める。さらには、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム(IPBES)ビューローの副議長にも任命されている。



Hijaba Ykhanbai ヒャバ・ウハンバイ Director of Environment and Development Association "JASIL" モンゴル環境と開発協会「JASIL」会長

Dr. Hijaba Ykhanbai is a Director of Environment and Development Association "JASIL". He graduated from the Forest Engineering Academy of Russia (former USSR), and has a Doctorate degree of Economic Sciences from the same Academy. He has also attended the summer training programme on Policy Analysis on Environment and Natural Resource Management at Harvard University, USA.

Dr. Hijaba has been a member of the Ministry for the Nature and Environment of Mongolia for about 30 years, as specialist, Director of Department, and Advisor to the Minister. He has worked as Project team leader on Collaborative Learning for the co-management of Natural resources in Mongolia, supported by the International Development Research Center (IDRC) and the International Land Coalition (ILC). His current activities also focus on the comanagement of pasturelands in Mongolia and Central Asia (Kazakhstan and Kyrgyzstan), as well as on the Indicators of Resilience in Socio-Ecological Production Landscapes in pastoral ecosystems of Mongolia.

ロシアの森林工学アカデミーを卒業し、同アカデミーにて経済学の博士号を取得。また、米国・ハーバード大学にて、 環境と自然資源管理の政策分析に関するサマートレーニングプログラムを受講している。

約30年間、モンゴル環境省にて専門員、部長、及び大臣補佐を務めてきた。また、国際開発研究センター(IDRC) 及び国際土地連合(ILC)の支援の下、モンゴルにおける参加型自然資源管理に向けた協調学習のプロジェクトチー ムリーダーを担ってきた。現在もモンゴル及び中央アジア(カザフスタンとキルギスタン)の草原地帯における参加 型管理や、草原生態系における社会生態学的生産ランドスケープのレジリエンス指標等に焦点を当てた活動を進め ている。



Satoru Yokota 横田 覚 Executive Director, Kawasaki Environment Research Institute 川崎市環境総合研究所 理事兼所長

Since joining the City of Kawasaki in 1981, he has been engaged in environmental administration consistently, belonging to various sections such as Environmental Pollution, Environmental Planning and Wastes Policy etc. He was responsible for enactment of "the Ordinance for the Preservation of the Living Environment and Pollution Control" in 1999 and was involved with the revision of Regional Promotion Plan of the Global Warming Countermeasures in 2004. Following his previous positions as the director of the Department of Environmental Policy and the Department of General Administration, he has taken up the post of Executive Director of Kawasaki Environment Research Institute since April 2014. He holds a bachelor degree from the Faculty of Science and Engineering of Chuo University, graduating in 1980.

1981年川崎市入庁。公害部、環境企画室、廃棄物政策担当等一貫して環境行政に携わり、1999年「公害防止等生 活環境の保全に関する条例」の制定、2004年地球温暖化対策地域推進計画の改訂を担当。環境対策部長、総務部 長を経て、2014年4月から現職。1980年中央大学理工学部卒。



Yuqing Yu 郁 宇青

Task Manager / Senior Policy Researcher, Climate and Energy Area, IGES IGES 気候変動とエネルギー領域タスクマネージャー/主任研究員

Dr. Yu joined IGES in April 2013 and is a Senior Policy Researcher and Task Manager in the Climate and Energy Area. Her current research has focused on climate finance, in particular the governance mechanism, the institutional arrangements, and the effectiveness of climate finance. Before IGES, she worked for Climate Policy Initiative (CPI) in its San Francisco and Beijing offices, where her research focused on China's climate and energy related policies. She completed her undergraduate study at Fudan University in China and received an MS from Cornell University and a Ph.D. from Columbia University in the United States.

2013年4月よりIGES 気候変動とエネルギー領域のタスクマネージャーとして勤務。主に、気候ファイナンスにおける組織、制度、効果の評価研究がテーマ。中国清華大学気候変動政策研究センター(Climate Policy Initiative)のサンフランシスコ及び北京事務所にて中国の気候とエネルギーに関する政策研究に従事。復旦大学学士修了、コロンビア大学大学院博士課程修了、Ph.D.、コーネル大学大学院修士課程修了、M.Sc。



### Kaveh Zahedi カーベー・ザーヘディ

Regional Director and Representative, United Nations Environment Programme Regional Office for Asia and the Pacific (UNEP-ROAP) 国連環境計画アジア太平洋地域事務所 (UNEP-ROAP) 所長

Mr. Kaveh Zahedi is Regional Director and Representative for Asia and the Pacific of the United Nations Environment Programme (UNEP), where he oversees work in the region including on climate change, ecosystem management and governance. Prior to this, Mr. Zahedi was Deputy Director of UNEP's Division of Technology, Industry and Economics (DTIE), working on green economy, resource efficiency, energy, chemicals, ozone and waste. He holds a Masters degree from the Fletcher School of Law and Diplomacy, Tufts University, USA, and a Bachelor's degree in Economics and Geography from University College London.

カーベー・ザーへディ氏は、国連環境計画アジア太平洋地域事務所 (UNEP-ROAP) の所長を務め、気候変動、生態系管理、ガバナンスの分野を監督。前職では、UNEP技術・産業・経済局 (DTIE) 副局長として、グリーン経済、資源効率、エネルギー、化学、オゾン、廃棄物分野に携わった。米国タフツ大学フレッチャー法律外交大学院で修士号を、英国ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドンで、経済学及び地理学の学士号を取得している。



## Abdul Hamid Zakri アブドゥル・ハミド・ザクリ

Science Adviser to the Prime Minister of Malaysia / Chair, Intergovernmental Platform on Biodiversity and Ecosystem Services (IPBES) マレーシア首相科学顧問/生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) 議長

Dr. A. H. Zakri is the Science Advisor to the Prime Minister of Malaysia. He is a prominent Malaysian biologist who was named as the first Chair of the Intergovernmental Platform on Biodiversity and Ecosystem Services (IPBES). In September 2013, he was appointed by Ban Ki-moon as a member of the Scientific Advisory Board to the UN Secretary General. Educated in Malaysia and the United States, where he specialized in plant genetics, Dr. Zakri has long experience of negotiations in international biodiversity governance.

ザクリ氏は、マレーシア首相科学顧問を務める。マレーシアの傑出した生物学者であり、生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム (IPBES) の初代議長に就任している。2013年9月には、パン・ギムン

国連事務総長より、国連科学諮問委員会メンバーに任命された。マレーシアと米国で植物遺伝学を専攻し、生態系ガバナンスにおける国際交渉に長く従事する。



### Xin Zhou 周新

Leader / Principal Policy Researcher, Green Economy Area, IGES IGES グリーン経済領域エリア・リーダー/上席研究員

Dr. Xin Zhou is currently leading the Green Economy Area and quantitative policy analysis at IGES. Her main research focus has been placed on trade and the environment, in particular on the calculations of emissions and primary resources embodied in international trade. Recently, she has been leading the research works on the development of the Japan 2050 Low Carbon Navigator, green investment and green jobs assessment, and water-energy-food nexus study at IGES. She received her Ph.D. in Environmental Science from Nagoya University in 2007. Before 2003, she had been working for the Policy Research Center for Environment and Economy (PRCEE), a think tank of the Ministry of Environmental Protection in China, since 1994. As Director of the Policy Research Division, she led many practical policy research works supporting national governmental policy-making. She received several national scientific achievement prizes for her contributions to the Chinese government.

現在、IGESにおいて、グリーン経済領域及び定量的政策分析をリードしている。中心テーマは貿易と環境、特に国際貿易に体化されている排出量と天然資源のアカウンティングである。また、2050 低炭素ナビ(日本版 2050 パスウェイ・カリキュレーター)の開発、グリーン投資とグリーン雇用、水・エネルギー・食糧の関連についての研究も主導している。2007年に名古屋大学から環境科学の博士号を取得。1994年から2003年までは中国国家環境保護局の元にあるシンクタンク一環境経済政策研究センター(PRCEE)に勤務。政策研究部門のディレクターとして多くの実践的な政策研究を主導的に行い、中国の国レベルの政策立案をサポートしたことで、中国政府への科学的な貢献が認められ、複数の受賞歴がある。



# Eric Zusman エリック・ザスマン

Leader / Principal Policy Researcher, Integrated Policies for Sustainable Societies Area, IGES IGES 持続可能な社会のための政策統合領域エリア・リーダー/上席研究員

Eric Zusman leads the Integrated Policies for Sustainable Societies area at IGES in Hayama, Japan. Dr. Zusman holds a bachelor degree in Mandarin Chinese from Rutgers University, a dual Masters Degree in public policy and Asian studies from the University of Texas at Austin and a Ph.D. in political science from the University of California, Los Angeles. For much of the past decade he has conducted research on environmental issues in Asia. This has included publishing articles and book chapters on water scarcity, air pollution regulation, environmental law and state capacity in greater China. His current research interests focus on the political economy of sustainable low carbon development in Asia. He recently published a co-edited book entitled *Low Carbon Transport in Asia: Strategies for Optimizing Co-benefits*.

ラトガース大学中国語学士号、テキサス大学オースティン校公共政策・アジア研究共同修士号、カリフォルニア大学ロサンゼルス校政策科学博士号。10年以上にわたりアジアの環境問題に関する研究に従事し、水不足、大気汚染防止規制、環境法、中国各省の環境対策キャパシティに関する各種記事や書籍(章)を執筆。現在の研究の中心テーマはアジアの持続可能な低炭素型発展。近著に「アジアの低炭素型交通:共通便益を最適化するための戦略」(共同編集、Routledge 発行)がある。

<sup>\*</sup>Speakers are subject to change. スピーカーは変更となる場合があります。 \*日本語の略歴はIGES 仮訳を含みます。

# 協力団体一覧 Partners

### 主 催 Organisers

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES) 国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) Institute for Global Environmental Strategies (IGES) United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)

### 協力 Collaborators

国連環境計画 (UNEP)

国連アジア太平洋経済社会委員会(UNESCAP)

アジア開発銀行 (ADB)

経済協力開発機構(OECD)

国立環境研究所(NIES)

United Nations Environment Programme (UNEP)

United Nations Economic and Social Commission for

Asia and the Pacific (UNESCAP)

Asian Development Bank (ADB)

Organisation for Economic Co-operation and Development

(OECD)

National Institute for Environmental Studies (NIES)

## 後 援 Supporters

環境省

神奈川県

兵庫県

横浜市

川崎市

北九州市

国際協力機構(JICA)

エネルギー資源研究所(TERI)

横浜国立大学

横浜市立大学グローバル都市協力研究センター

慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

人間文化研究機構 総合地球環境学研究所

サステイナビリティ・サイエンス・コンソーシアム

日経 BP クリーンテック研究所

Ministry of the Environment, Japan

Kanagawa Prefectural Government

Hyogo Prefectural Government

City of Yokohama

Kawasaki City

City of Kitakyushu

Japan International Cooperation Agency (JICA)

The Energy and Resources Institute (TERI)

Yokohama National University

Global Cooperation Institute for Sustainable Cities,

Yokohama City University

Graduate School of Media and Governance, Keio University

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)

Sustainability Science Consortium

Nikkei BP Cleantech Institute

# 展示団体一覧 Exhibitions

## 展示団体 Exhibiting Organisations

環境省

神奈川県庁

横浜市

川崎市

北九州市

横浜市立大学グローバル都市協力研究センター

慶應義塾大学環境イノベータプログラム

一般社団法人海外環境協力センター

Ministry of the Environment, Japan

Kanagawa Prefectural Government

City of Yokohama

Kawasaki City

City of Kitakyushu

Global Cooperation Institute for Sustainable Cities,

Yokohama City University

Keio University International Program for Environmental Innovators

Overseas Environmental Cooperation Center, Japan

#### IGES 賛助会員 <法人会員・NGO会員>

IGES Affiliate Members < Foundations/Corporations and NGOs>



ATGREEN Co., Ltd. 株式会社 ATGREEN



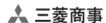
Biso Co. Ltd. 株式会社美装



DOWA ECO-SYSTEM Co., Ltd. DOWA エコシステム株式会社



Kawasaki City 川崎市



Mitsubishi Corporation 三菱商事株式会社



MITSUI & CO., LTD. 三井物産株式会社



myclimate Japan Co., Ltd. マイクライメイトジャパン 株式会社



Overseas Environmental Cooperation Center (OECC) 一般社団法人 海外環境協力センター (OECC)



SHIMIZU **CORPORATION** 清水建設株式会社



Sompo Japan Insurance Inc. 株式会社 損害保険ジャパン



Tokyo Gas Co., Ltd. 東京ガス株式会社

TOTO

TOTO Ltd. TOTO株式会社

# ᠁ IGES 研究成果のポスターセッション「Vote for the Top Three」

Poster Session on IGES's Major Achievements "Vote for the Top Three"

IGESの最近の主要研究成果をテーマ別に分かりやすく示したポスターセッションを開催します。 また、皆様の投票によるトップ3を選定しますので、奮ってご投票下さい。

We will hold a poster session highlighting some of IGES's recent major achievements. All speakers and participants at ISAP2014 are cordially invited to vote for the Top Three achievements.

## … 若手研究者ポスターセッション

Poster Session for Young Researchers

IGESでは、ISAPに対する若い世代の積極的な参加を期待しています。 ISAP2014では、3大学(横浜国立大学、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス、国際連合大学)の学生のほか、 IGES若手研究者も参加するポスターセッションを開催します。

On the occasion of ISAP2014, IGES will host a poster session to give young researchers and students a chance to participate and exchange views on their research ideas. This year's posters are provided by students from three universities, namely, Yokohama National University, Keio University Shonan Fujisawa Campus and United Nations University, as well as young IGES researchers.



## ISAP2014: 持続可能なフォーラムにするために

ISAP2014: Actions for a Sustainable Forum

IGESは、2012年3月にエコアクション21の認証登録を取得しました。 ISAPを低炭素で環境に配慮したフォーラムにするために、以下の取り組みを行います。

IGES obtained certification of Eco Action 21 in March 2012 and in an effort to make ISAP a carbon neutral event, we are promoting the following actions. We encourage participants to take action too:

### 公共交通機関の利用

ISAPで参加の皆様には、環境への負荷が少ない公共交通機関をできるだけ利用してご来場いただくようお願いしています。

### カーボンオフセット・フライトの推奨

ISAPでは、フォーラムに出席するスピーカーやパネリストに、カーボン・オフセットのオプションがあるエアラインの利用を 推奨しています。

### クール・ビズの推奨

ISAP会期中、会議場の室温は28℃に設定され、「スーパークール・ビズ」を推奨いたします。室温に応じて、上着やネクタイなどを外されたスタイルでご参加ください。

#### 持続可能な紙の使用

ISAPでは、すべての書類にFSC (森林管理協議会) 認証紙もしくは再生紙が使用されます。

#### フォーラムのペーパーレス化

ISAPでは、ペーパーレス化を目指します。発表資料については、同コピーを当日会場で配布する代わりに、ウェブ上にアップロードして参加者とシェアすることで、ISAP会期中の紙の使用量をできるだけ抑えるよう努めます。

### 廃棄物のマネージメント

ISAP会場 (パシフィコ横浜) では、会場から出る廃棄物の 100%リサイクルを目指しています。会場には以下のような分別リサイクル BOX が設置され、参加者の皆様にもゴミの分別に協力いただきます。

- ビン、カン、ペットボトル
- 生ゴミ&紙コップなど
- よごれのついたプラスチック
- きれいなプラスチック (包装フィルムなど)
- 新聞、雑誌、パンフレット
- その他のゴミ

#### 省エネルギー

ISAP会場 (パシフィコ横浜) は省エネルギーな建物です。一例として建物の照明設備にはLED照明をほぼすべての箇所で導入。トイレ・階段・エスカレーターには人感センサーを設置しています。

### **Public Transportation**

As the organiser, IGES encourages ISAP participants to use public transportation as much as possible to have less impact on the environment.

### **Carbon Offset Flight**

IGES recommends that speakers and panelists at ISAP choose airlines providing a carbon offset option for their travel.

#### CoolBiz

The meeting rooms will be kept at 28 degrees Celsius during the forum to promote "Super CoolBiz" — It is suggested that dress-code should be semi-formal, and men should not be required to wear a necktie.

#### **Sustainable Papers**

All the paper used for ISAP is FSC paper or recycled paper to support sustainable forest management.

### **Less Documentation**

To minimise paper consumption during the forum, IGES will make every effort to share the presentation materials by uploading them onto the Internet, as opposed to the distribution of documents in hard copy.

#### **Waste Management**

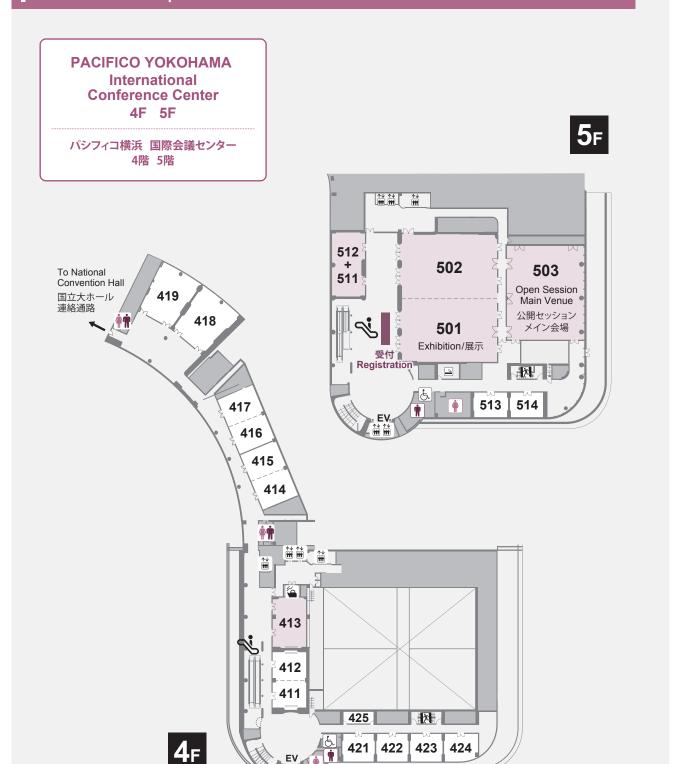
The ISAP venue (Pacifico Yokohama) pursues 100% recycling of waste produced in the building. It requests that all participants should separate any garbage so that it can be appropriately treated according to the local waste management system. The following types of waste bins are set at the venues.

- Bottles, cans, and "Pet" plastic bottles for recycling
- Raw garbage (e.g. leftover food, etc.) and dirty paper (e.g. paper cups)
- Dirty plastic
- Clean plastic (e.g. wrap film)
- Newspapers, magazines and brochures
- Others

#### **Energy Conservation**

The ISAP venue is an energy-saving building, using LED lights in most parts of the building and the lights operated by sensor in washrooms, escalators and stairs.

# ISAP Location Map 会場マップ



# Contact お問い合わせ

# Institute for Global Environmental Strategies (IGES)

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

2108-11 Kamiyamaguchi, Hayama, Kanagawa 240-0115, Japan TEL: 046-855-3700 FAX: 046-855-3709 E-mail: iges@iges.or.jp URL: http://www.iges.or.jp 〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11





